

IV 調査結果の分析

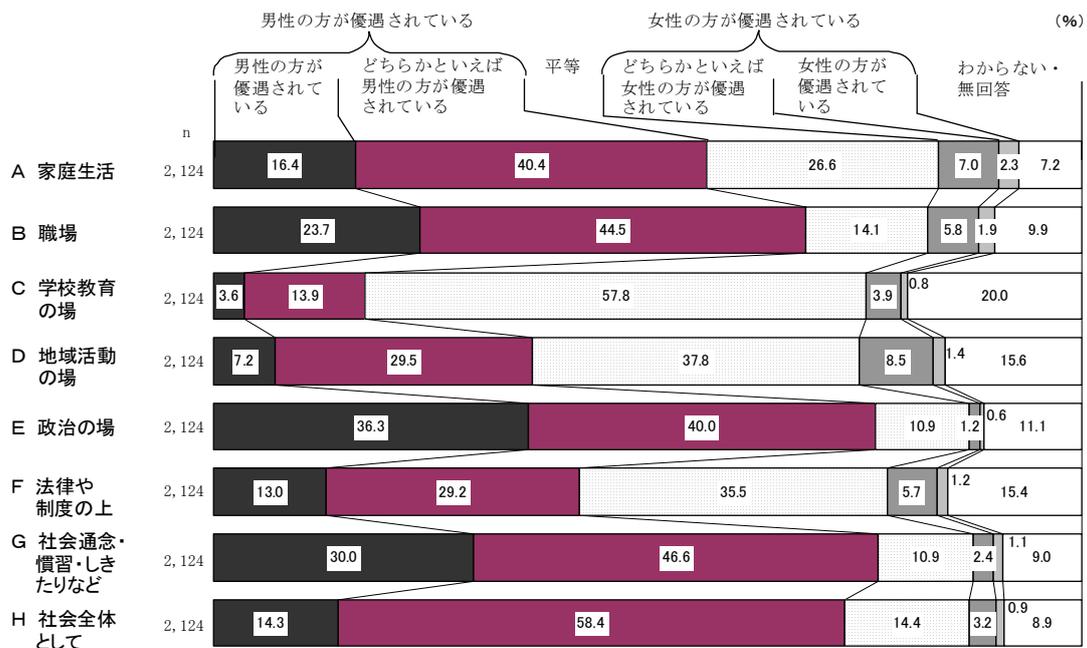
<男女の平等について>

1 男女の地位の平等感

8つの分野について、「男性の方が優遇されている」（「男性の方が優遇されている」＋「どちらかといえば男性の方が優遇されている」以下同じ）と回答した人の割合は、高い順に「社会通念・慣習・しきたりなど」（76.6%）、「政治の場」（76.3%）、「社会全体として」（72.7%）、「職場」（68.2%）、「家庭生活」（56.8%）、「法律や制度の上」（42.2%）となっている。

また、「平等」と回答した人の割合は、高い順に「学校教育の場」（57.8%）、「地域活動の場」（37.8%）となっている。

図1-1 男女の地位の平等感
【分野別】



A 「家庭生活」

「男性の方が優遇されている」と回答した人の割合は 56.8%と高くなっている。また、「平等」と回答した人の割合は 26.6%、「女性の方が優遇されている」（「女性の方が優遇されている」+「どちらかといえば女性の方が優遇されている」以下同じ）と回答した人の割合は 9.3%と低くなっている。

【性・年齢別】

性別に見ると、「男性の方が優遇されている」と回答した人の割合は、男性（46.0%）より女性（66.0%）の方が大幅に高くなっている。反対に、「平等」と回答した人の割合は、女性（19.8%）より男性（34.8%）の方が大幅に高くなっている。

年齢別に見ると、「平等」と回答した人の割合は、年齢が高いほど低くなっている。

性・年齢別に見ると、「男性の方が優遇されている」と回答した人の割合は、女性 40 歳代（70.1%）・50 歳代（73.4%）で高くなっている。

【地域別】

地域別に見ると、大きな差異は見られない。

図1-2 男女の地位の平等感(A 家庭生活)

【総数、性別、年齢別、地域別】

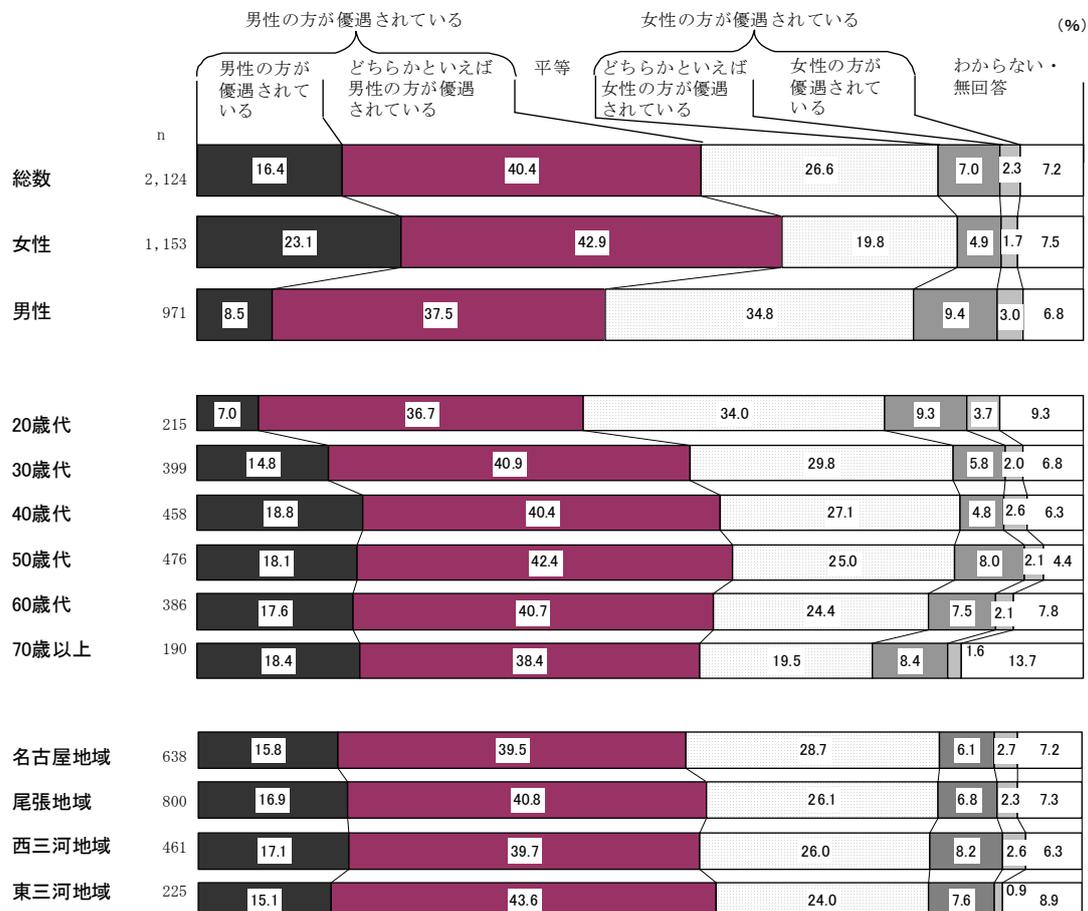


表1-1 男女の地位の平等感(A 家庭生活)【性・年齢別】

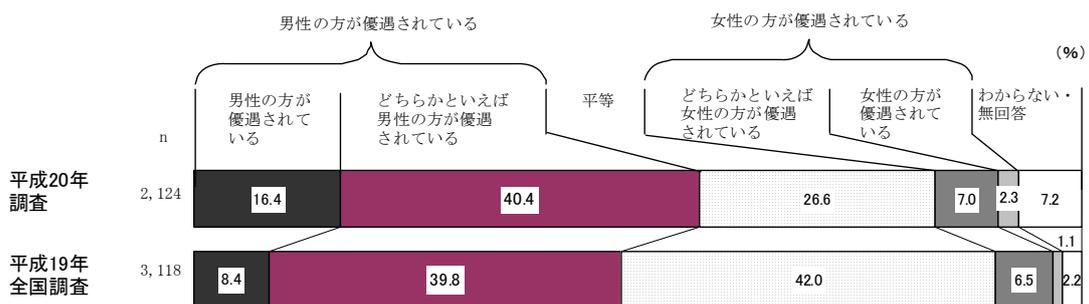
問1A(%)	サンプル数	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答
総数	2124	16.4%	40.4%	26.6%	7.0%	2.3%	4.1%	3.1%
性別								
女性	1153	23.1%	42.9%	19.8%	4.9%	1.7%	4.5%	3.0%
男性	971	8.5%	37.5%	34.8%	9.4%	3.0%	3.7%	3.1%
年齢別								
20歳代	215	7.0%	36.7%	34.0%	9.3%	3.7%	7.4%	1.9%
30歳代	399	14.8%	40.9%	29.8%	5.8%	2.0%	5.5%	1.3%
40歳代	458	18.8%	40.4%	27.1%	4.8%	2.6%	4.8%	1.5%
50歳代	476	18.1%	42.4%	25.0%	8.0%	2.1%	1.9%	2.5%
60歳代	386	17.6%	40.7%	24.4%	7.5%	2.1%	2.3%	5.4%
70歳以上	190	18.4%	38.4%	19.5%	8.4%	1.6%	5.3%	8.4%
女性								
女性20歳代	122	9.8%	42.6%	25.4%	6.6%	4.1%	9.0%	2.5%
女性30歳代	226	20.8%	45.6%	24.8%	2.7%	1.3%	3.5%	1.3%
女性40歳代	274	25.2%	44.9%	18.6%	2.9%	0.7%	6.2%	1.5%
女性50歳代	248	27.0%	46.4%	16.5%	5.2%	1.2%	1.2%	2.4%
女性60歳代	187	26.2%	38.0%	17.1%	8.0%	2.7%	2.7%	5.3%
女性70歳以上	96	22.9%	32.3%	17.7%	7.3%	2.1%	8.3%	9.4%
男性								
男性20歳代	93	3.2%	29.0%	45.2%	12.9%	3.2%	5.4%	1.1%
男性30歳代	173	6.9%	34.7%	36.4%	9.8%	2.9%	8.1%	1.2%
男性40歳代	184	9.2%	33.7%	39.7%	7.6%	5.4%	2.7%	1.6%
男性50歳代	228	8.3%	38.2%	34.2%	11.0%	3.1%	2.6%	2.6%
男性60歳代	199	9.5%	43.2%	31.2%	7.0%	1.5%	2.0%	5.5%
男性70歳以上	94	13.8%	44.7%	21.3%	9.6%	1.1%	2.1%	7.4%

【他調査との比較】

全国調査（平成19年実施（以下同じ））と比較すると、「男性の方が優遇されている」と回答した人の割合は高くなっており、「平等」と回答した人の割合は低くなっている。

図1-3 男女の地位の平等感(A 家庭生活)

【他調査との比較】



B 「職場」

「男性の方が優遇されている」と回答した人の割合は 68.2%と高くなっている。また、「平等」と回答した人の割合は 14.1%、「女性の方が優遇されている」と回答した人の割合は 7.7%と低くなっている。

【性・年齢別】

性別に見ると、「男性の方が優遇されている」と回答した人の割合は、男性（64.4%）より女性（71.5%）の方が高くなっている。

年齢別に見ると、大きな差異は見られない。

性・年齢別に見ると、「女性の方が優遇されている」と回答した人の割合は、男性 20 歳代（15.0%）・30 歳代（17.3%）で、他の年齢層と比べ高くなっている。

【地域別】

地域別に見ると、「男性の方が優遇されている」と回答した人の割合は、東三河地域（73.3%）が最も高くなっている。

図1-4 男女の地位の平等感(B 職場)

【総数、性別、年齢別、地域別】

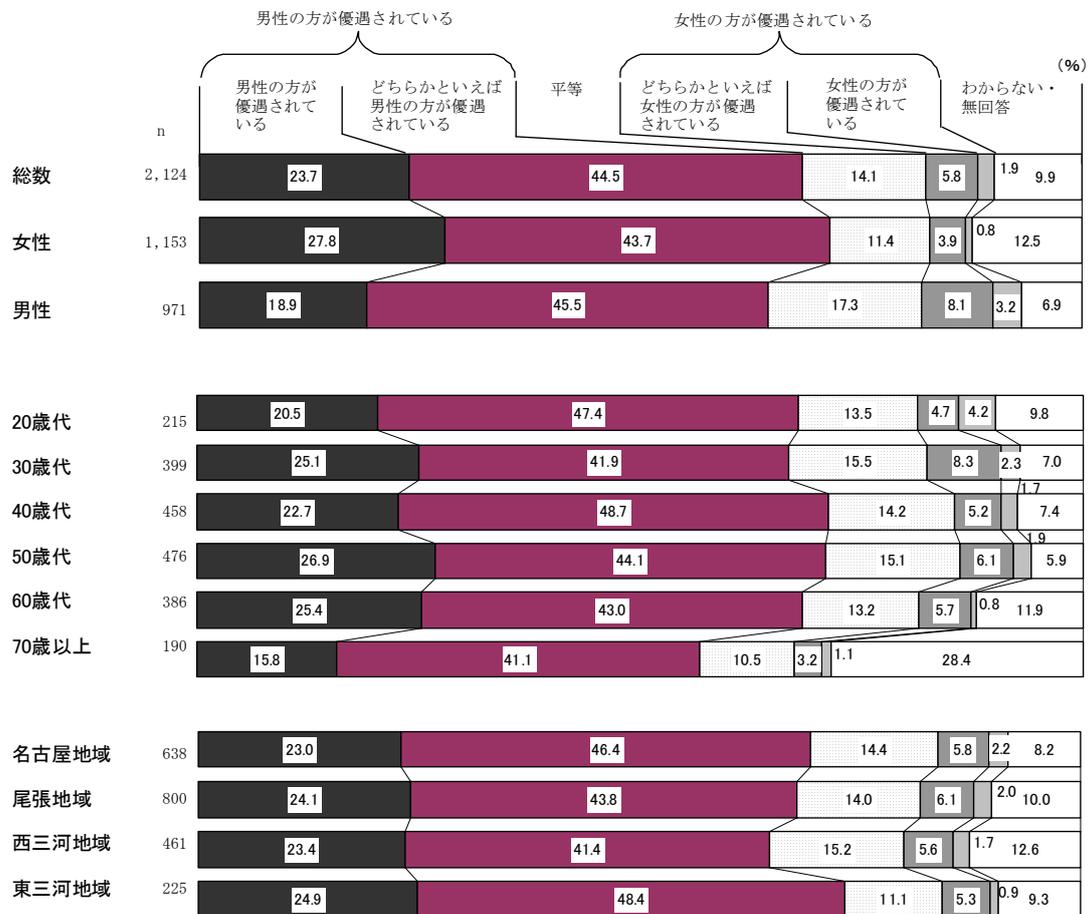


表1-2 男女の地位の平等感(B 職場)【性・年齢別】

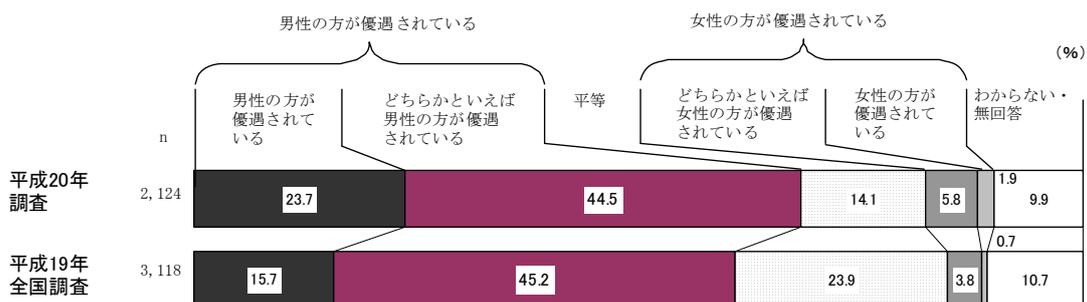
問1B(%)	サンプル数	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答
総数	2124	23.7%	44.5%	14.1%	5.8%	1.9%	6.5%	3.4%
性別								
女性	1153	27.8%	43.7%	11.4%	3.9%	0.8%	8.8%	3.7%
男性	971	18.9%	45.5%	17.3%	8.1%	3.2%	3.8%	3.1%
性*年齢								
20歳代	215	20.5%	47.4%	13.5%	4.7%	4.2%	8.8%	0.9%
30歳代	399	25.1%	41.9%	15.5%	8.3%	2.3%	6.3%	0.8%
40歳代	458	22.7%	48.7%	14.2%	5.2%	1.7%	5.9%	1.5%
50歳代	476	26.9%	44.1%	15.1%	6.1%	1.9%	4.2%	1.7%
60歳代	386	25.4%	43.0%	13.2%	5.7%	0.8%	6.2%	5.7%
70歳以上	190	15.8%	41.1%	10.5%	3.2%	1.1%	12.1%	16.3%
女性								
女性20歳代	122	23.8%	47.5%	13.1%	2.5%	1.6%	10.7%	0.8%
女性30歳代	226	29.6%	41.2%	15.9%	4.9%	0.4%	7.5%	0.4%
女性40歳代	274	25.9%	48.5%	11.3%	4.0%	0.7%	7.7%	1.8%
女性50歳代	248	34.3%	43.1%	10.1%	2.4%	1.6%	7.3%	1.2%
女性60歳代	187	28.3%	41.7%	9.1%	5.9%	0.0%	8.0%	7.0%
女性70歳以上	96	15.6%	36.5%	6.3%	3.1%	0.0%	17.7%	20.8%
男性								
男性20歳代	93	16.1%	47.3%	14.0%	7.5%	7.5%	6.5%	1.1%
男性30歳代	173	19.1%	42.8%	15.0%	12.7%	4.6%	4.6%	1.2%
男性40歳代	184	17.9%	48.9%	18.5%	7.1%	3.3%	3.3%	1.1%
男性50歳代	228	18.9%	45.2%	20.6%	10.1%	2.2%	0.9%	2.2%
男性60歳代	199	22.6%	44.2%	17.1%	5.5%	1.5%	4.5%	4.5%
男性70歳以上	94	16.0%	45.7%	14.9%	3.2%	2.1%	6.4%	11.7%

【他調査との比較】

全国調査と比較すると、「男性の方が優遇されている」と回答した人の割合は高くなっており、「平等」と回答した人の割合は低くなっている。

図1-5 男女の地位の平等感(B 職場)

【他調査との比較】



C 「学校教育の場」

「平等」と回答した人の割合が 57.8%と高くなっている。また、「男性の方が優遇されている」と回答した人の割合は 17.5%、「女性の方が優遇されている」と回答した人の割合は 4.7%と低くなっている。

【性・年齢別】

性別に見ると、「男性の方が優遇されている」と回答した人の割合は、男性（13.0%）より女性（21.2%）の方が高くなっている。

年齢別に見ると、「平等」と回答した人の割合は、年齢が低いほど高くなっている。

性・年齢別に見ると、「女性の方が優遇されている」と回答した人の割合は、男性 20 歳代（12.9%）で他の年齢層と比べて高くなっている。

【地域別】

地域別に見ると、全地域において「平等」が半数を超えており、大きな差異は見られない。

図1-6 男女の地位の平等感(C 学校教育の場)

【総数、性別、年齢別、地域別】

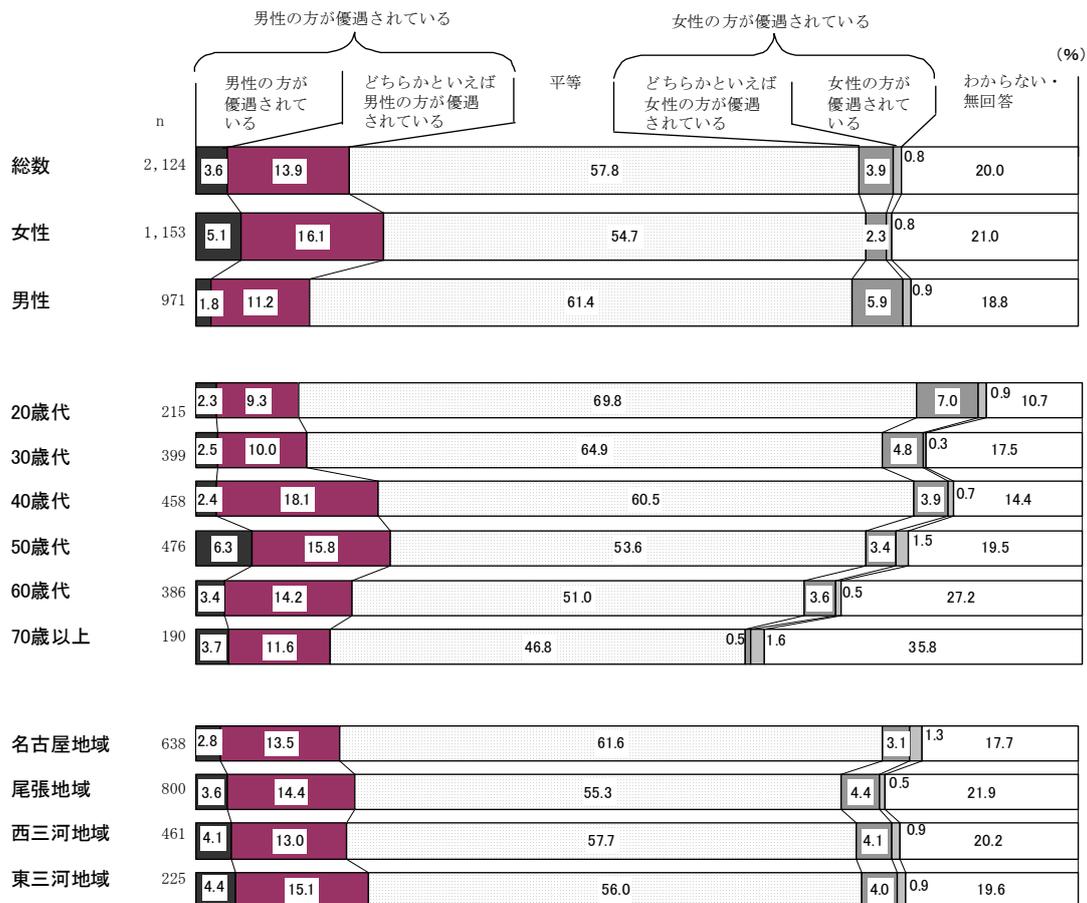


表1-3 男女の地位の平等感(C 学校教育の場)【性・年齢別】

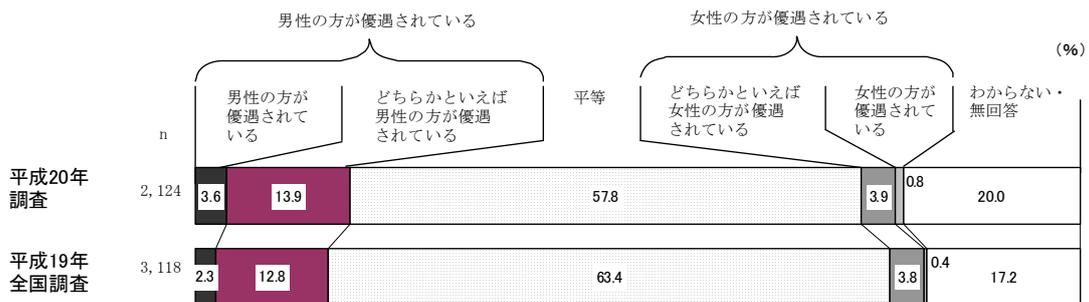
問1C(%)	サンプル数	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答
総数	2124	3.6%	13.9%	57.8%	3.9%	0.8%	15.4%	4.6%
性別								
女性	1153	5.1%	16.1%	54.7%	2.3%	0.8%	16.3%	4.7%
男性	971	1.8%	11.2%	61.4%	5.9%	0.9%	14.3%	4.5%
性*年齢								
20歳代	215	2.3%	9.3%	69.8%	7.0%	0.9%	10.2%	0.5%
30歳代	399	2.5%	10.0%	64.9%	4.8%	0.3%	16.5%	1.0%
40歳代	458	2.4%	18.1%	60.5%	3.9%	0.7%	12.7%	1.7%
50歳代	476	6.3%	15.8%	53.6%	3.4%	1.5%	16.4%	3.2%
60歳代	386	3.4%	14.2%	51.0%	3.6%	0.5%	17.9%	9.3%
70歳以上	190	3.7%	11.6%	46.8%	0.5%	1.6%	17.9%	17.9%
女性								
女性20歳代	122	2.5%	10.7%	72.1%	2.5%	1.6%	9.8%	0.8%
女性30歳代	226	3.1%	12.8%	67.7%	2.2%	0.0%	13.7%	0.4%
女性40歳代	274	3.3%	22.3%	56.6%	2.9%	0.7%	12.8%	1.5%
女性50歳代	248	10.1%	17.3%	47.6%	1.6%	1.6%	18.5%	3.2%
女性60歳代	187	5.3%	15.0%	42.8%	3.2%	0.0%	23.5%	10.2%
女性70歳以上	96	5.2%	12.5%	38.5%	0.0%	1.0%	20.8%	21.9%
男性								
男性20歳代	93	2.2%	7.5%	66.7%	12.9%	0.0%	10.8%	0.0%
男性30歳代	173	1.7%	6.4%	61.3%	8.1%	0.6%	20.2%	1.7%
男性40歳代	184	1.1%	12.0%	66.3%	5.4%	0.5%	12.5%	2.2%
男性50歳代	228	2.2%	14.0%	60.1%	5.3%	1.3%	14.0%	3.1%
男性60歳代	199	1.5%	13.6%	58.8%	4.0%	1.0%	12.6%	8.5%
男性70歳以上	94	2.1%	10.6%	55.3%	1.1%	2.1%	14.9%	13.8%

【他調査との比較】

全国調査と比較すると、「平等」と回答した人の割合はやや低くなっている。

図1-7 男女の地位の平等(C 学校教育の場)

【他調査との比較】



D 「地域活動の場」

「平等」と回答した人の割合は 37.8%、「男性の方が優遇されている」と回答した人の割合は 36.7%と、ほぼ同じとなっており、また、「女性の方が優遇されている」と回答した人の割合は 9.9%と低くなっている。

【性・年齢別】

性別に見ると、「男性の方が優遇されている」と回答した人の割合は、男性（27.6%）より女性（44.3%）の方が大幅に高くなっている。

年齢別に見ると、「男性の方が優遇されている」と回答した人の割合は、50 歳代（47.1%）で最も高くなっており、次いで、40 歳代（40.2%）、60 歳代（37.3%）の順となっている。

性・年齢別に見ると、「男性の方が優遇されている」と回答した人の割合は、女性 40 歳代（50.7%）・50 歳代（55.6%）で高くなっており、男性 20 歳代（14.0%）・30 歳代（16.2%）では低くなっている。

【地域別】

地域別に見ると、「平等」と回答した人の割合は、名古屋地域で高くなっている。

図1-8 男女の地位の平等感(D 地域活動の場)

【総数、性別、年齢別、地域別】

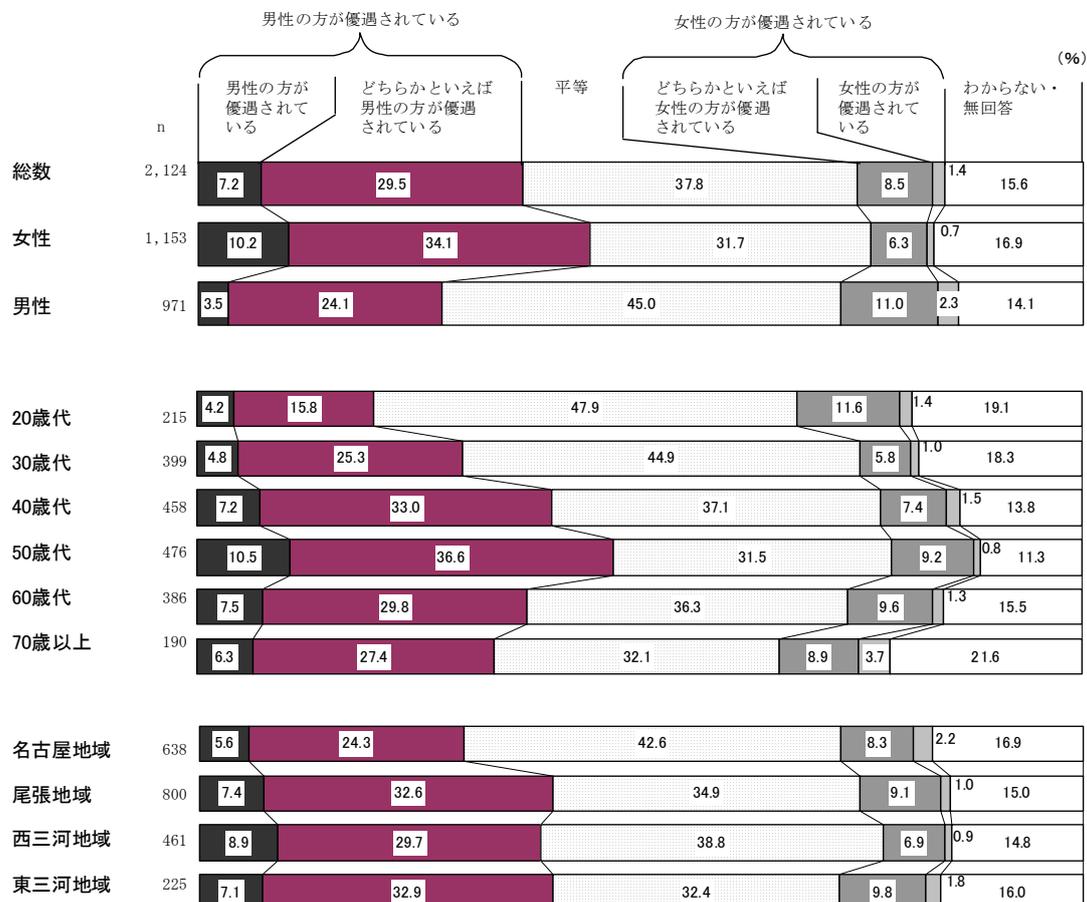


表1-4 男女の地位の平等感(D 地域活動の場)【性・年齢別】

問1D(%)	サンプル数	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答
総数	2124	7.2%	29.5%	37.8%	8.5%	1.4%	11.7%	3.9%
性別								
女性	1153	10.2%	34.1%	31.7%	6.3%	0.7%	12.7%	4.2%
男性	971	3.5%	24.1%	45.0%	11.0%	2.3%	10.5%	3.6%
性*年齢								
20歳代	215	4.2%	15.8%	47.9%	11.6%	1.4%	17.7%	1.4%
30歳代	399	4.8%	25.3%	44.9%	5.8%	1.0%	16.3%	2.0%
40歳代	458	7.2%	33.0%	37.1%	7.4%	1.5%	12.4%	1.3%
50歳代	476	10.5%	36.6%	31.5%	9.2%	0.8%	9.0%	2.3%
60歳代	386	7.5%	29.8%	36.3%	9.6%	1.3%	8.3%	7.3%
70歳以上	190	6.3%	27.4%	32.1%	8.9%	3.7%	7.4%	14.2%
女性								
女性20歳代	122	4.9%	19.7%	43.4%	6.6%	1.6%	21.3%	2.5%
女性30歳代	226	6.6%	34.1%	39.8%	4.0%	0.0%	13.7%	1.8%
女性40歳代	274	10.2%	40.5%	29.2%	6.2%	1.1%	11.7%	1.1%
女性50歳代	248	16.1%	39.5%	25.0%	6.5%	0.0%	11.3%	1.6%
女性60歳代	187	11.8%	34.8%	27.3%	7.0%	0.0%	10.7%	8.6%
女性70歳以上	96	7.3%	18.8%	31.3%	10.4%	3.1%	10.4%	18.8%
男性								
男性20歳代	93	3.2%	10.8%	53.8%	18.3%	1.1%	12.9%	0.0%
男性30歳代	173	2.3%	13.9%	51.4%	8.1%	2.3%	19.7%	2.3%
男性40歳代	184	2.7%	21.7%	48.9%	9.2%	2.2%	13.6%	1.6%
男性50歳代	228	4.4%	33.3%	38.6%	12.3%	1.8%	6.6%	3.1%
男性60歳代	199	3.5%	25.1%	44.7%	12.1%	2.5%	6.0%	6.0%
男性70歳以上	94	5.3%	36.2%	33.0%	7.4%	4.3%	4.3%	9.6%

E 「政治の場」

「男性の方が優遇されている」と回答した人の割合は 76.3%と高くなっている。また、「平等」と回答した人の割合は 10.9%、「女性の方が優遇されている」と回答した人の割合は 1.8%と低くなっている。

【性・年齢別】

性別に見ると、「男性の方が優遇されている」と回答した人の割合は、男性（71.1%）より女性（80.7%）の方が高くなっている。

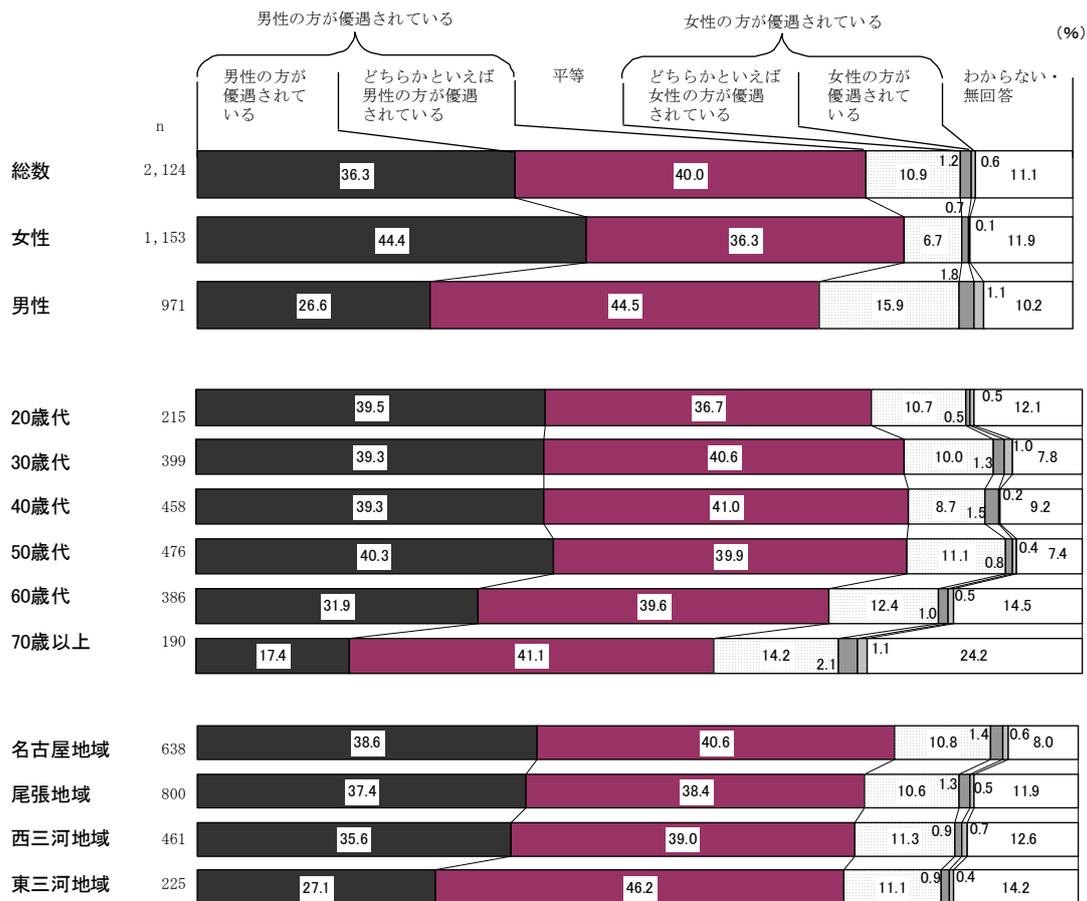
年齢別に見ると、大きな差異は見られない。

【地域別】

地域別に見ると、大きな差異は見られない。

図1-9 男女の地位の平等感(E 政治の場)

【総数、性別、年齢別、地域別】

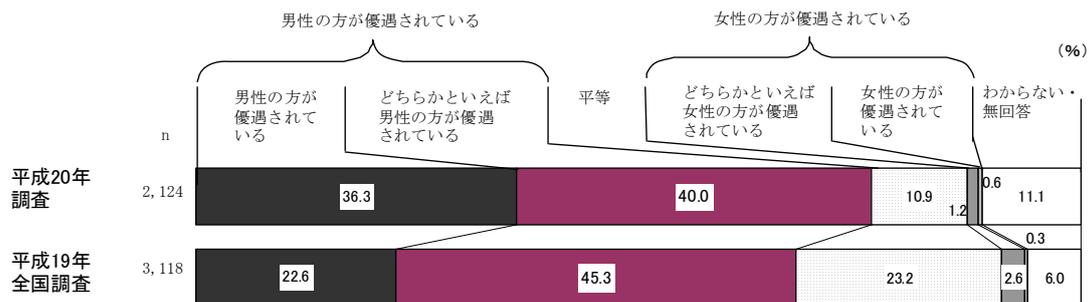


【他調査との比較】

全国調査と比較すると、「男性の方が優遇されている」と回答した人の割合は高くなっており、「平等」と回答した人の割合は低くなっている。

図1-10 男女の地位の平等感(E 政治の場)

【他調査との比較】



F 「法律や制度の上」

「男性の方が優遇されている」と回答した人の割合は 42.2%と最も高くなっており、次いで「平等」(35.5%) となっている。また、「女性の方が優遇されている」と回答した人の割合は 6.9%と低くなっている。

【性・年齢別】

性別に見ると、「男性の方が優遇されている」と回答した人の割合は、男性(30.9%)より女性(51.7%)の方が大幅に高くなっている。

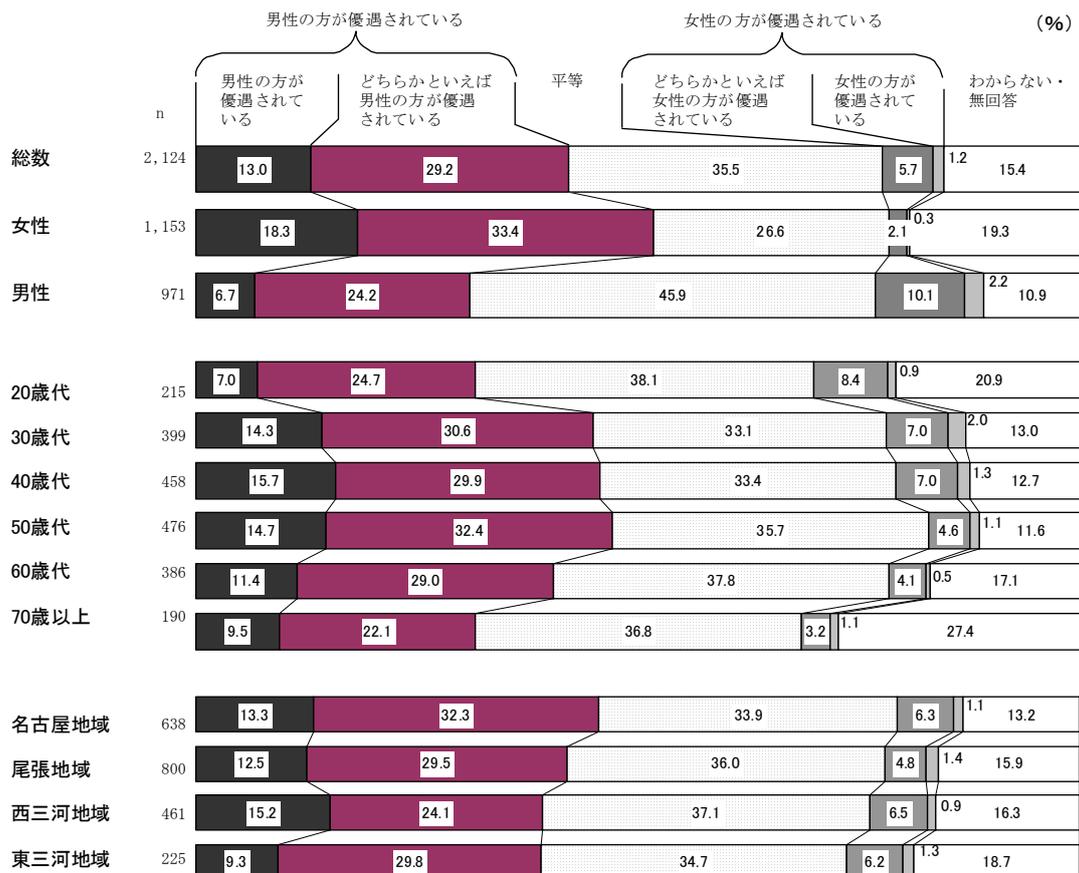
年齢別に見ると、「男性の方が優遇されている」と回答した人の割合は、30歳代(44.9%)、40歳代(45.6%)、50歳代(47.1%)で高くなっている。

【地域別】

地域別に見ると、大きな差異は見られない。

図1-11 男女の地位の平等感(F 法律や制度の上)

【総数、性別、年齢別、地域別】

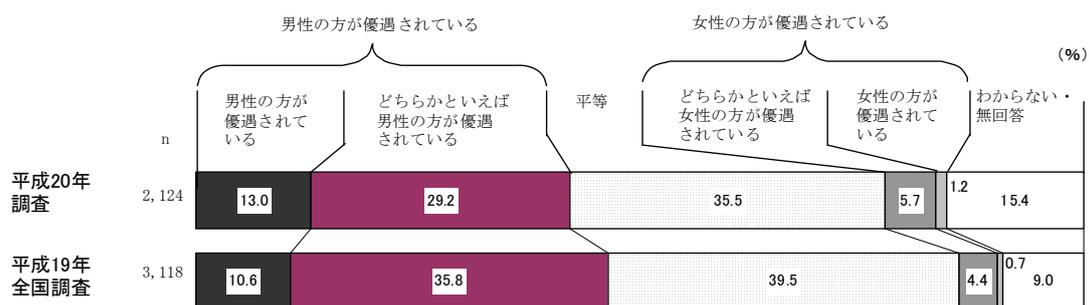


【他調査との比較】

全国調査と比較すると、「男性の方が優遇されている」、「平等」とともに、回答した人の割合はやや低くなっている。また、「わからない」と回答した人や「無回答」の割合が高くなっている。

図1-12 男女の地位の平等感(F 法律や制度の上)

【他調査との比較】



G 「社会通念・慣習・しきたりなど」

「男性の方が優遇されている」と回答した人の割合は 76.6%と高くなっている。また、「平等」と回答した人の割合は 10.9%、「女性の方が優遇されている」と回答した人の割合は 3.5%と低くなっている。

【性・年齢別】

性別に見ると、「男性の方が優遇されている」と回答した人の割合は、男性（72.1%）より女性（80.4%）の方が高くなっている。

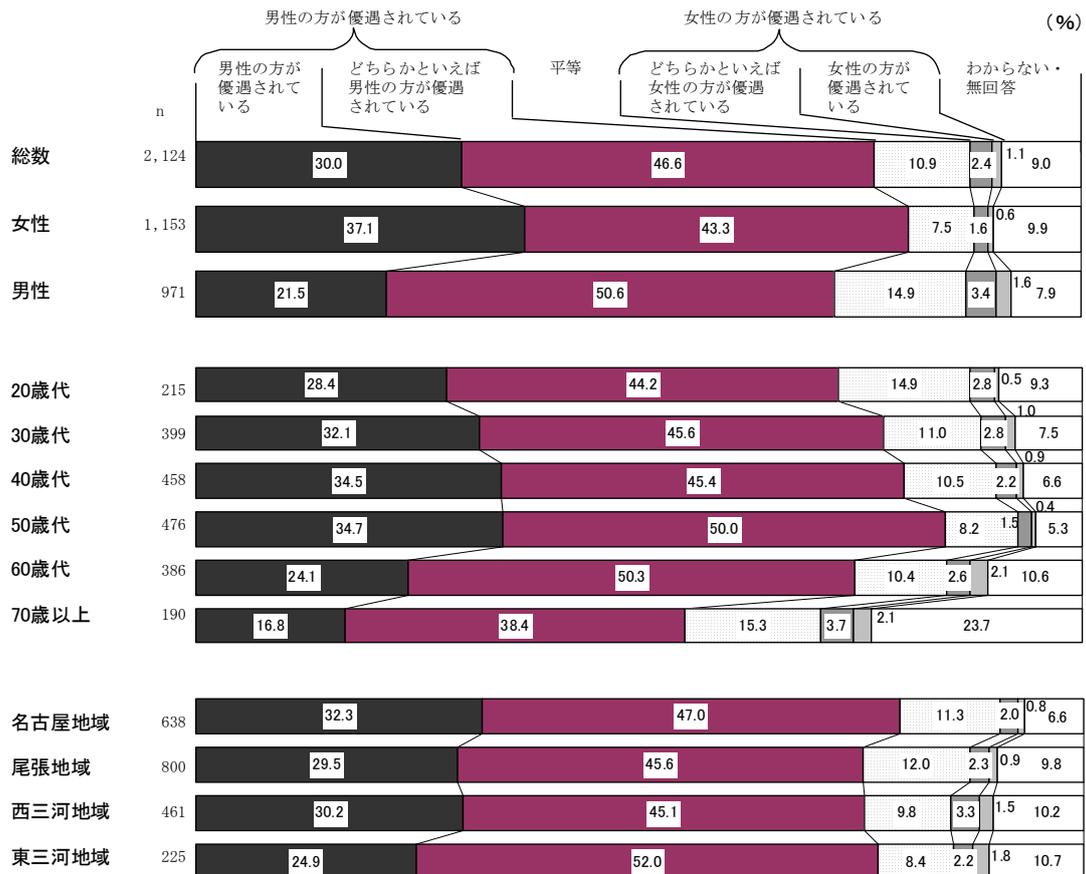
年齢別に見ると、「男性の方が優遇されている」と回答した人の割合は、40 歳代（79.9%）、50 歳代（84.7%）で高くなっている。

【地域別】

地域別に見ると、大きな差異は見られない。

図1-13 男女の地位の平等感(G 社会通念・慣習・しきたりなど)

【総数、性別、年齢別、地域別】

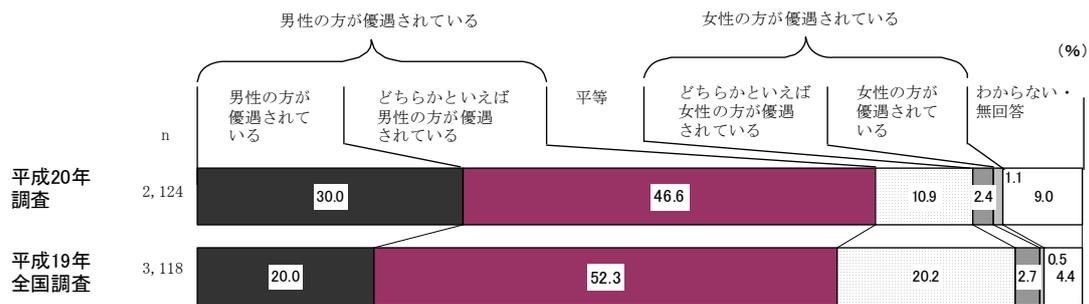


【他調査との比較】

全国調査と比較すると、「男性の方が優遇されている」と回答した人の割合はやや高くなっており、「平等」と回答した人の割合は低くなっている。

図1-14 男女の地位の平等感(G 社会通念・慣習・しきたりなど)

【他調査との比較】



H 「社会全体として」

「男性の方が優遇されている」と回答した人の割合は 72.7%と高くなっている。また、「平等」と回答した人の割合は 14.4%、「女性の方が優遇されている」と回答した人の割合は 4.1%と低くなっている。

【性・年齢別】

性別に見ると、「男性の方が優遇されている」と回答した人の割合は、男性（64.7%）より女性（79.4%）の方が高くなっている。

年齢別に見ると、「男性の方が優遇されている」と回答した人の割合は、50歳代（78.4%）で最も高くなっている。

【地域別】

地域別に見ると、大きな差異は見られない。

図1-15 男女の地位の平等感(H 社会全体として)

【総数、性別、年齢別、地域別】

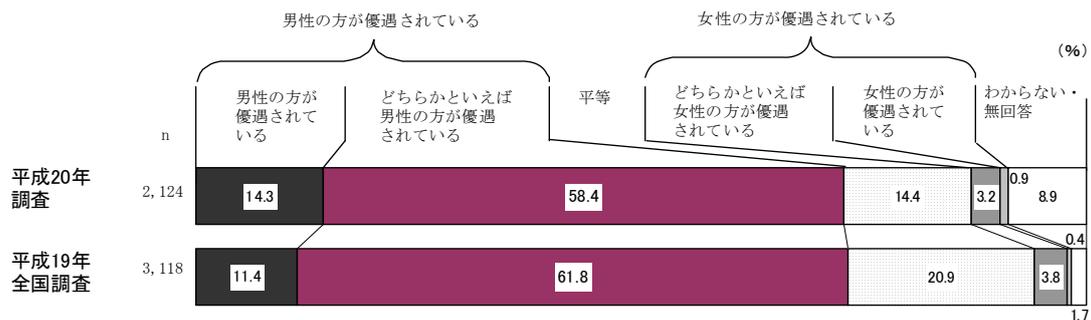


【他調査との比較】

全国調査と比較すると、「男性の方が優遇されている」と回答した人の割合はほぼ同じだが、「平等」と回答した人の割合は低くなっている。

図1-16 男女の地位の平等感(H 社会全体として)

【他調査との比較】



2 男女が社会のあらゆる分野で平等になるために必要なこと（複数回答）

「女性を取り巻くさまざまな偏見や社会通念、慣習、しきたりなどを改める」と回答した人の割合が52.6%と最も高く、次いで「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る」（42.7%）、「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図る」（38.8%）の順となっている。

【性・年齢別】

性別に見ると、ほとんどの項目で回答した人の割合は男性より女性の方が高く、特に「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る」と回答した人の割合は、女性の方が大幅に高くなっている。

年齢別に見ると、他の年齢層に比べ30歳代、40歳代、50歳代で「女性を取り巻くさまざまな偏見や社会通念、慣習、しきたりなどを改める」、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る」と回答した人の割合が高くなっており、60歳代、70歳以上で「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図る」と回答した人の割合が高くなっている。

図2-1 男女が社会のあらゆる分野で平等になるために必要なこと

【総数、性別】

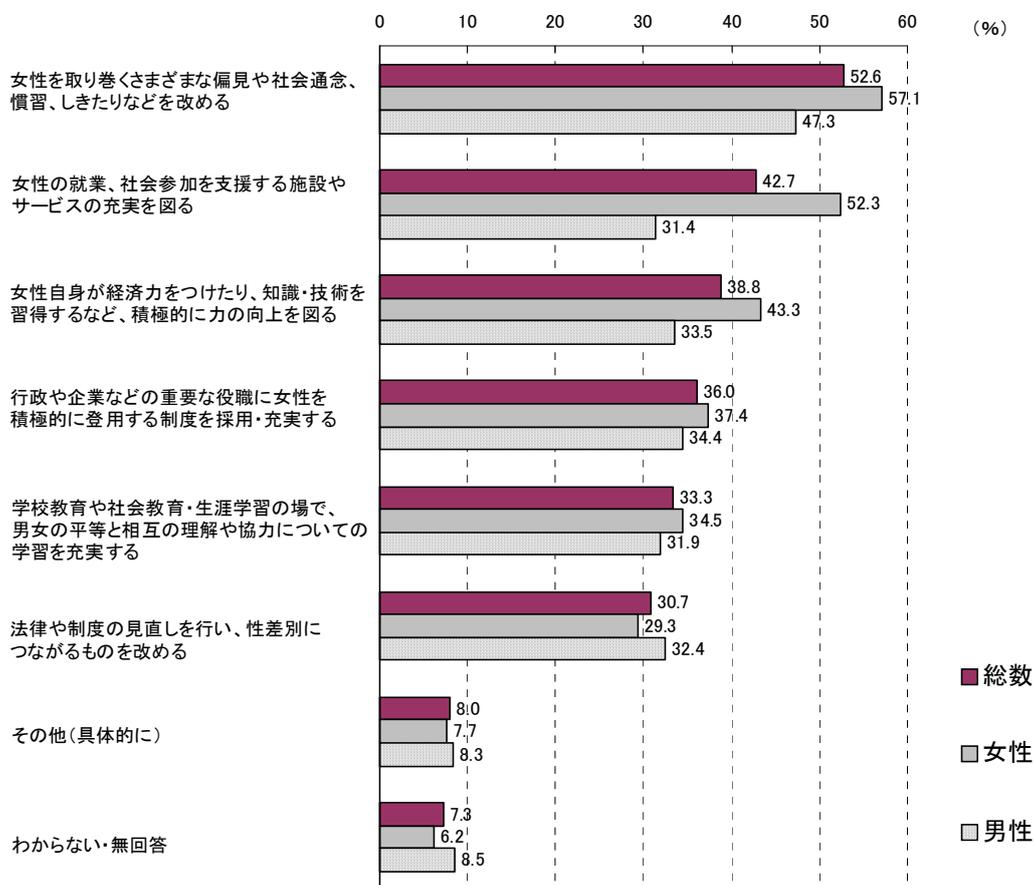
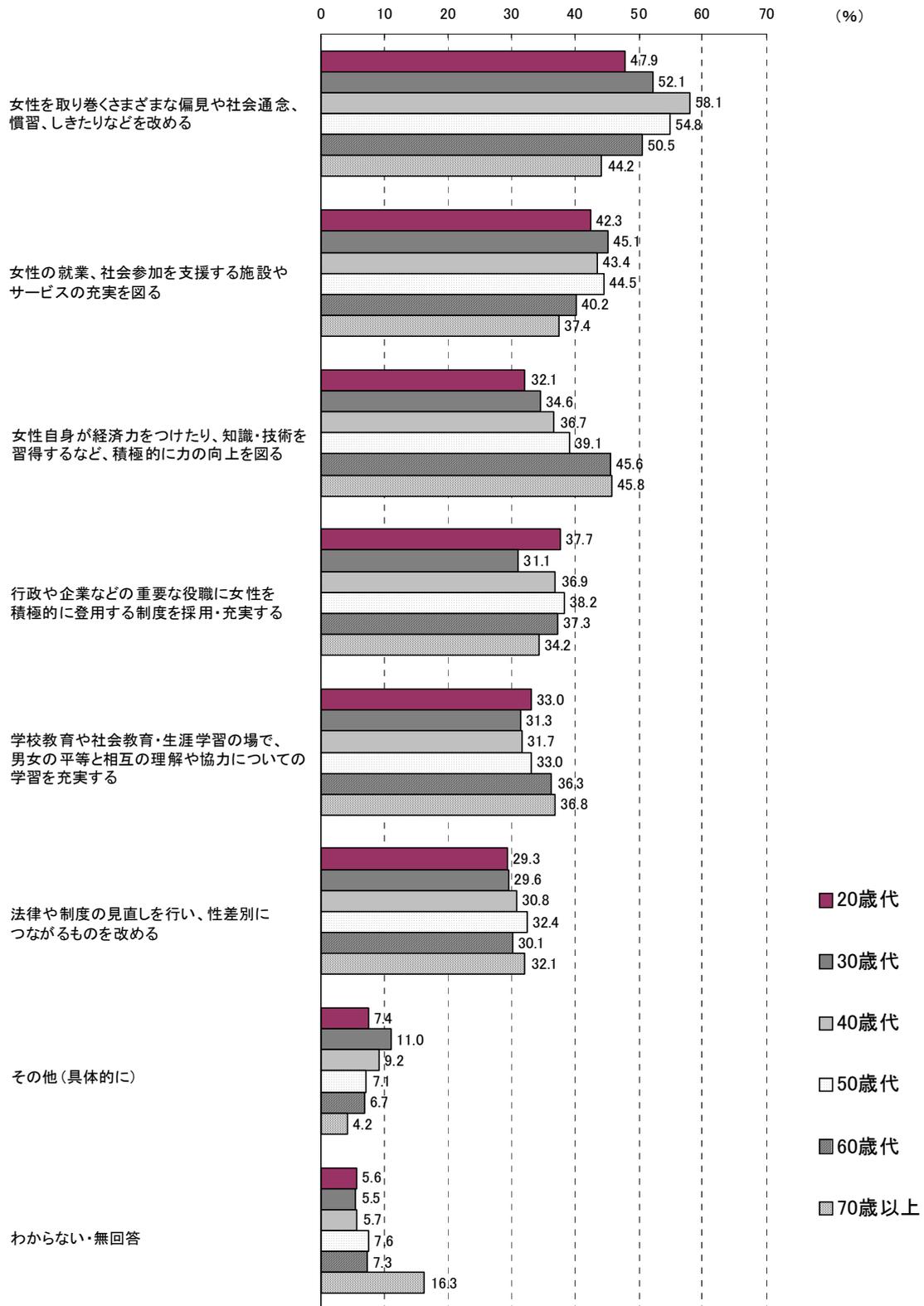


図2-2 男女が社会のあらゆる分野で平等になるために必要なこと

【年齢別】



<女性の社会進出について>

3 女性が増える方がよいと思う職業や役職（複数回答）

「国会議員、都道府県議会議員、市町村議会議員」と回答した人の割合が48.2%と最も高く、次いで「弁護士、医師などの専門職」（44.9%）、「企業の管理職」（38.5%）の順となっている。

【性・年齢別】

性別に見ると、「弁護士、医師などの専門職」、「企業の管理職」と回答した人の割合は、男性より女性の方が高くなっている。また、「自治会、PTAなどの役員」と回答した人の割合は、女性より男性の方が高くなっている。

年齢別に見ると、「企業の管理職」と回答した人の割合は、30歳代で最も高くなっている。また、「自治会、PTAなどの役員」と回答した人の割合は、年齢が高いほど高くなっている。

図3-1 女性が増える方がよいと思う職業や役職

【総数、性別】

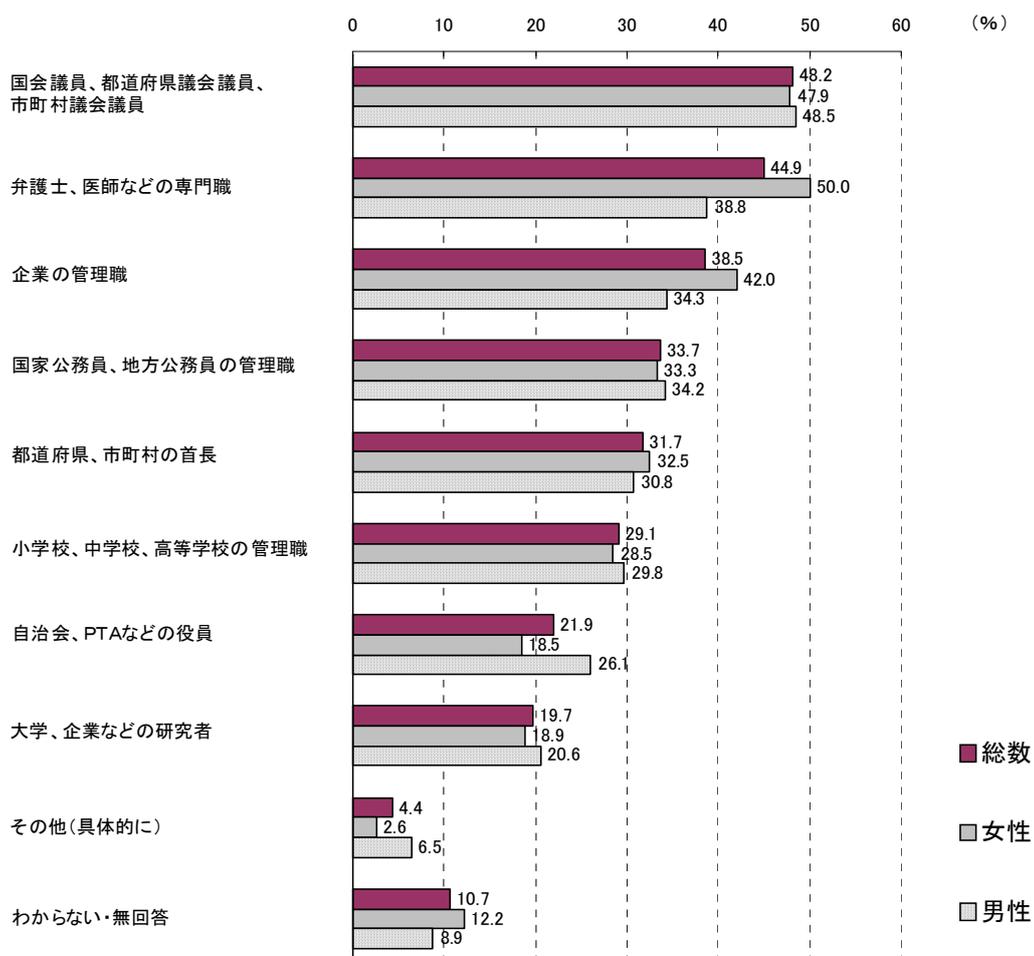
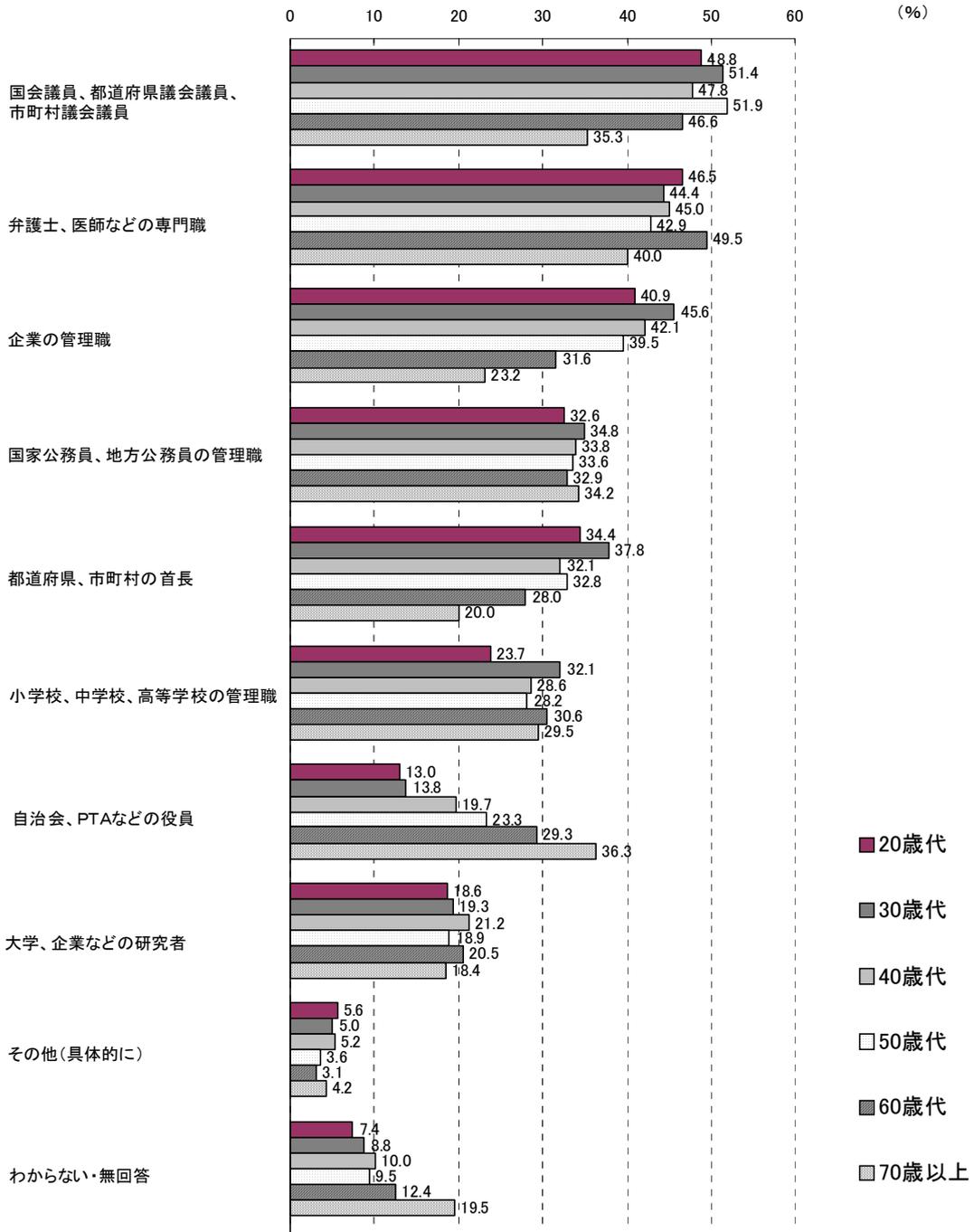


図3-2 女性が増える方がよいと思う職業や役職

【年齢別】

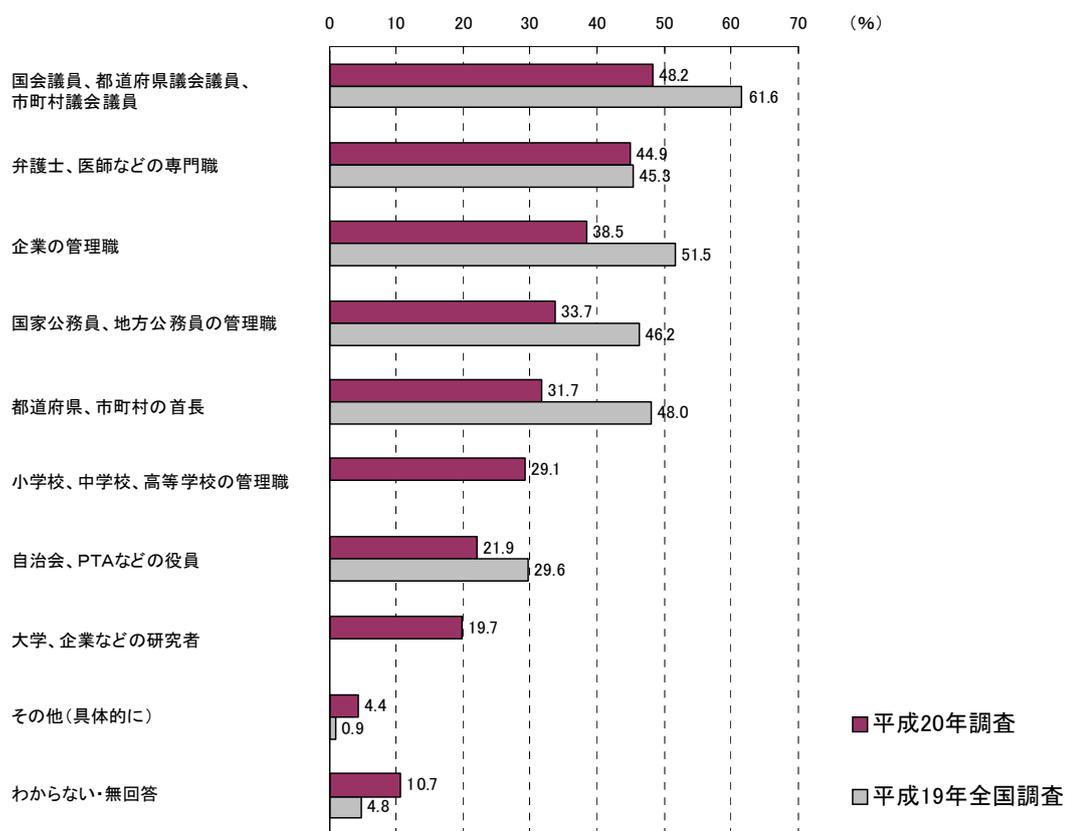


【他調査との比較】

全国調査と比較すると、ともに「国会議員、都道府県議会議員、市町村議会議員」と回答した人の割合が最も高くなっている。次いで、全国調査では「企業の管理職」が高いのに対し、今回調査では「弁護士、医師などの専門職」が高くなっている。

図3-3 女性が増える方がよいと思う職業や役職

【他調査との比較】



4 政治や行政において、政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が進んでいない理由 (複数回答)

「男性優位の組織運営」と回答した人の割合が55.9%と最も高く、次いで「家庭、職場、地域における性別役割分担、性差別の意識」(44.6%)、「家庭の支援・協力が得られない」(42.5%)の順となっている。

【性・年齢別】

性別に見ると、「家庭の支援・協力が得られない」と回答した人の割合は、男性より女性の方が大幅に高くなっている。

年齢別に見ると、「男性優位の組織運営」と回答した人の割合は40歳代、50歳代で高くなっている。また、「家庭、職場、地域における性別役割分担、性差別の意識」と回答した人の割合は30歳代で高くなっている。

図4-1 政治や行政において、政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が進んでいない理由

【総数、性別】

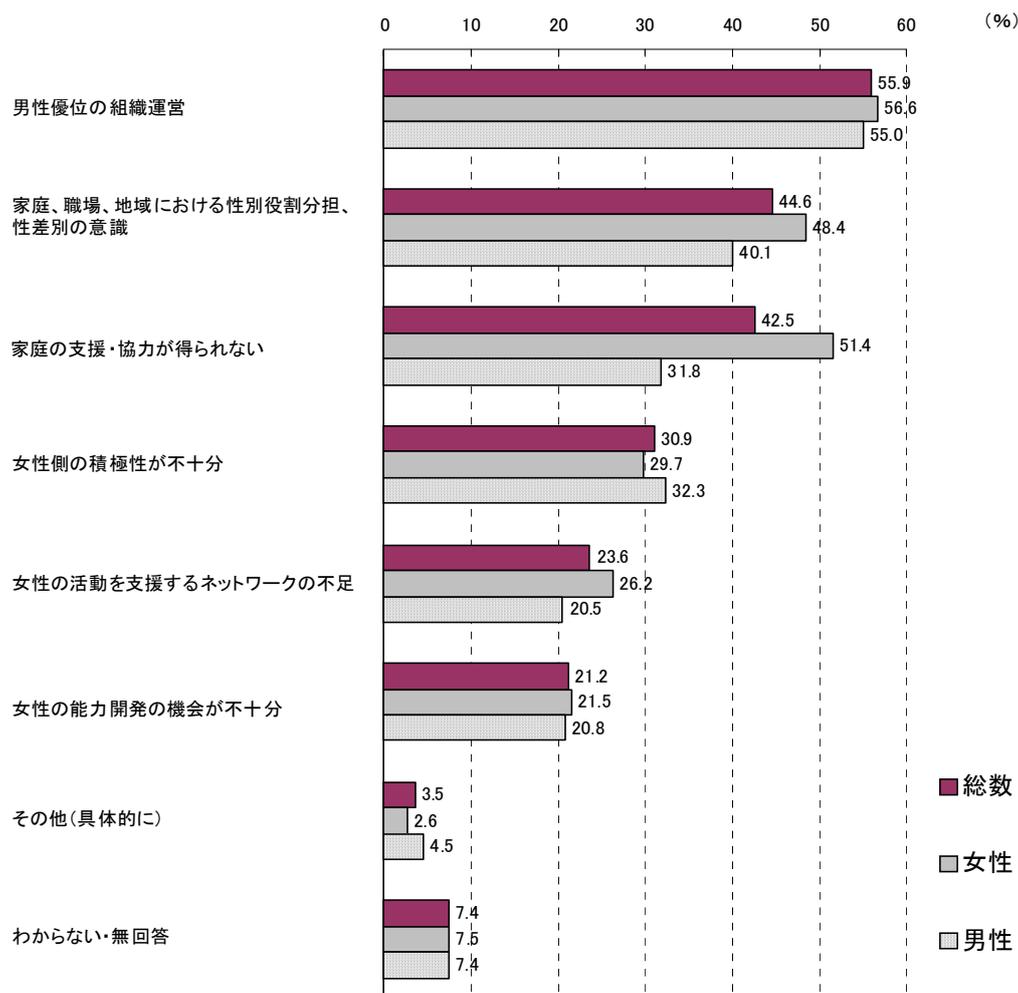
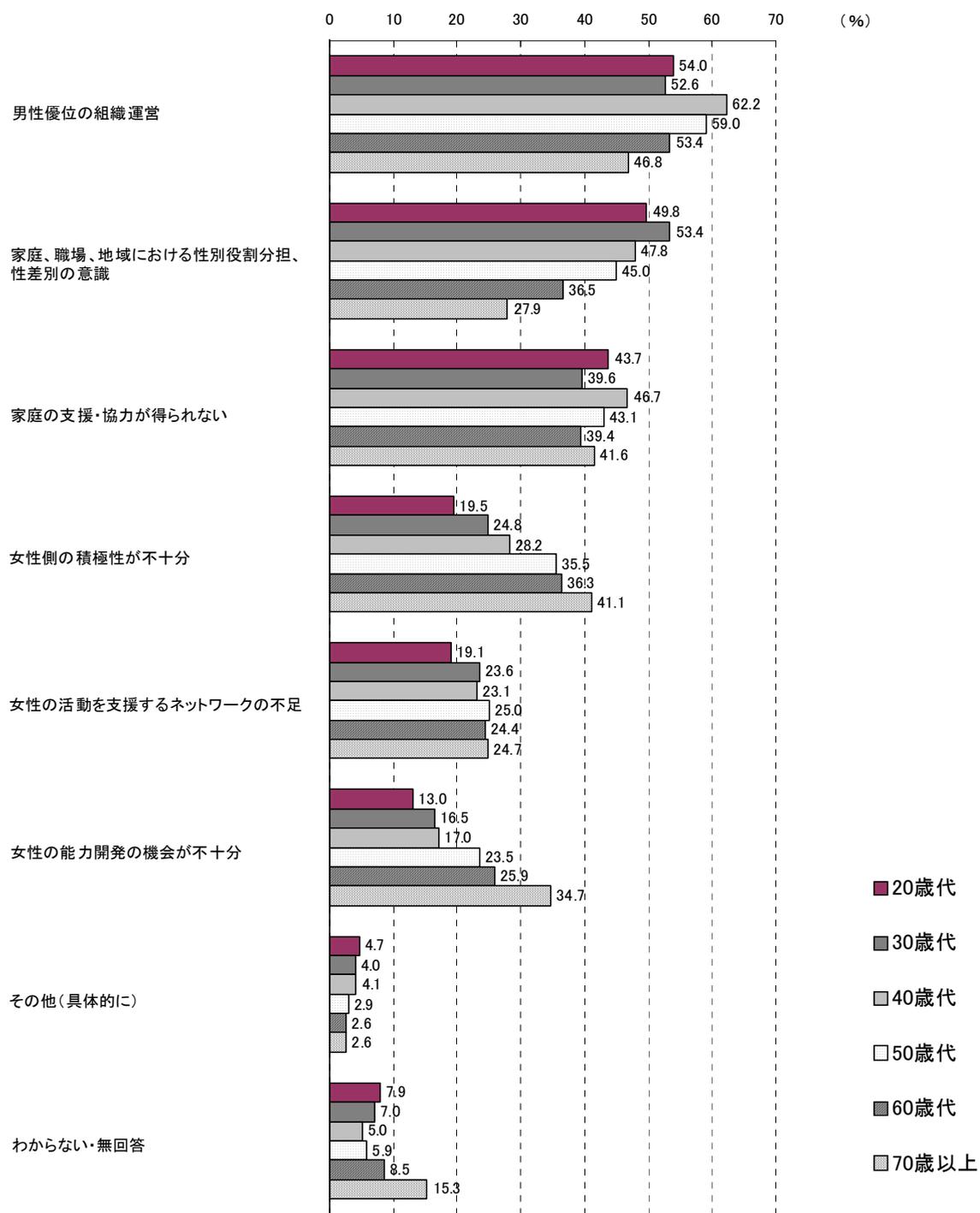


図4-2 政治や行政において、政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が進んでいない理由

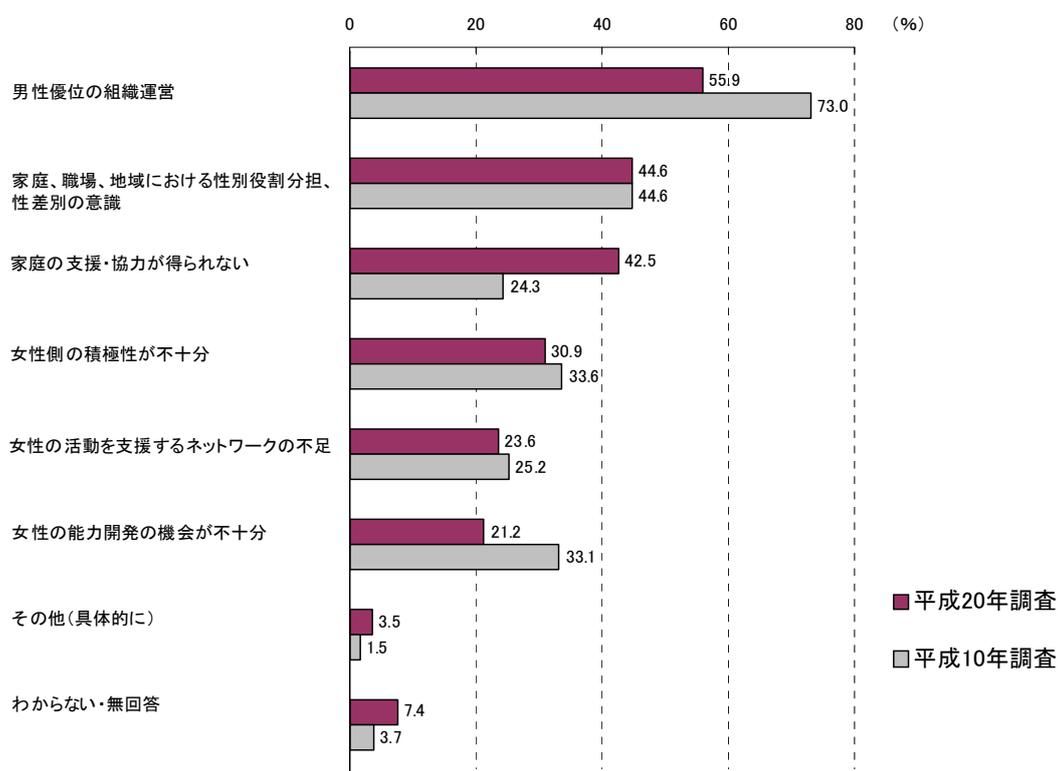
【年齢別】



【他調査との比較】

前回調査(平成10年実施(以下同じ))と比較すると、「男性優位の組織運営」(73.0%→55.9%)、「女性の能力開発の機会が不十分」(33.1%→21.2%)と回答した人の割合は低下しているが、「家庭の支援・協力が得られない」(24.3%→42.5%)と回答した人の割合は上昇している。

図4-3 政治や行政において、政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が進んでいない理由
【他調査との比較】



5 女性が職業を持つことについての考え

「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」と回答した人の割合が 43.1%と最も高く、次いで、「子どもができて、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」が 32.6%と高くなっている。また、「子どもができるまでは、職業を持つほうがよい」と回答した人の割合は 7.4%、「結婚するまでは職業を持つほうがよい」と回答した人の割合は 5.8%、「女性は職業を持たないほうがよい」と回答した人の割合は 1.1%と低くなっている。

なお、「その他」(6.1%)の中には、「人それぞれであり、一概には言えない」、「本人の自由であり、決め付けることではない」という意見が多くあった。

【性・年齢別】

性別に見ると、「子どもができるまでは、職業を持つほうがよい」と回答した人の割合は女性より男性の方が高く、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」と回答した人の割合は男性より女性の方が高くなっている。

年齢別に見ると、「子どもができるまでは、職業を持つほうがよい」と回答した人の割合は、他の年齢層と比べ 20 歳代、70 歳以上で高くなっている。

性・年齢別に見ると、男性 20 歳代では、「子どもができて、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」(30.1%)や「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」(31.2%)と回答した人の割合は、他の年齢層と比べ低いのに対し、「子どもができるまでは、職業を持つほうがよい」(15.1%)と回答した人の割合は、他の年齢層と比べ高くなっている。また、「子どもができて、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」と回答した人の割合は、男性 50 歳代 (41.2%)、女性 30 歳代 (36.7%) で高くなっている。

【地域別】

地域別に見ると、大きな差異は見られない。

【共働き状況別】

共働き状況別に見ると、「子どもができて、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」と回答した人の割合は、共働き (40.6%) で高くなっており、特に妻がフルタイム (夫自営業、家族従業者 (50.0%) 夫雇用者 (54.9%)) で高くなっている。また、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」と回答した人の割合は、共働き (41.1%) より夫のみ就業 (52.2%) で高くなっている。

図5-1 女性が職業を持つことについての考え

【総数、性別、年齢別、地域別、未・既婚別、共働き状況別】

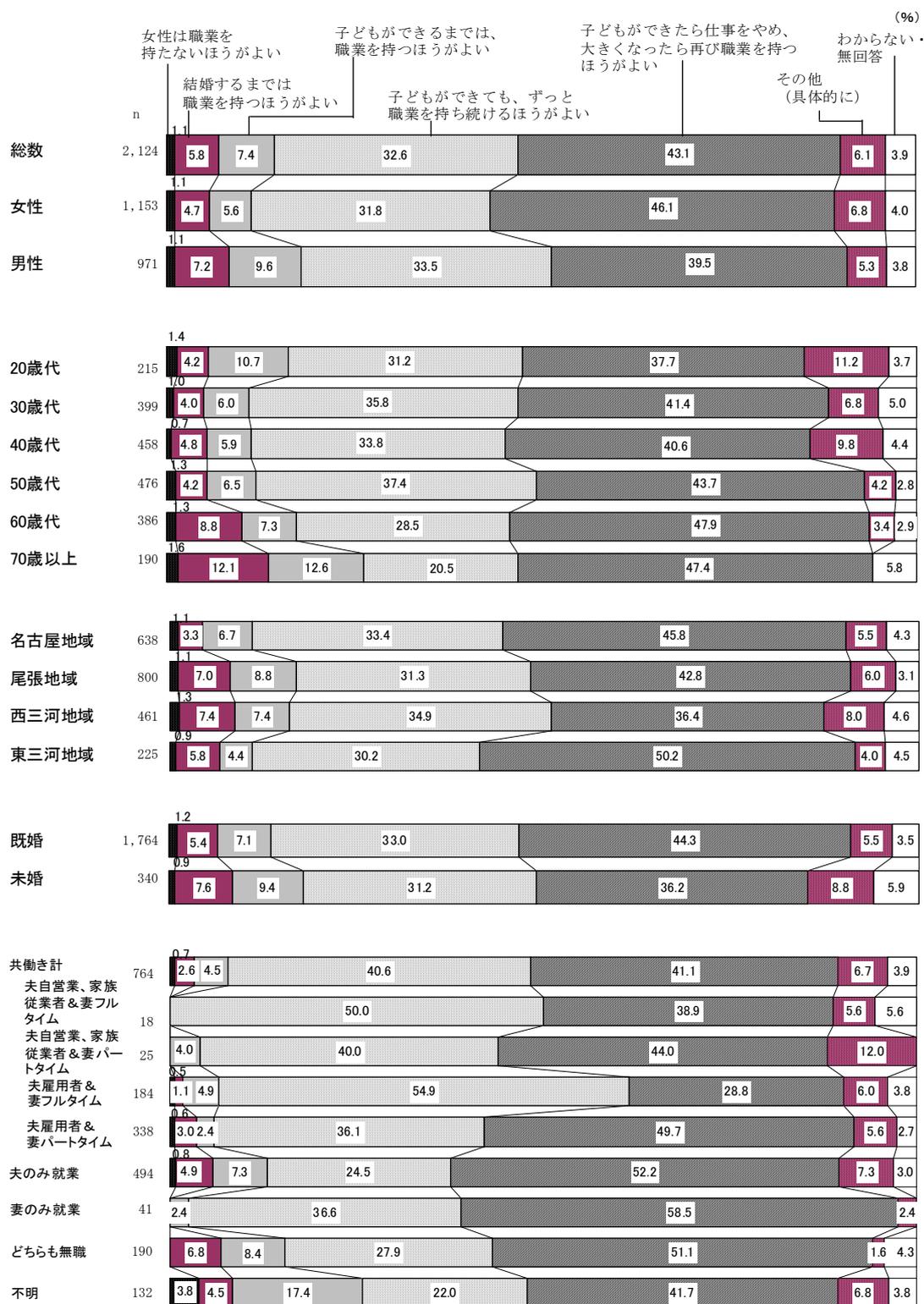


表5 女性が職業を持つことについての考え【性・年齢別】

問5(%)	サンプル数	女性は職業を持たないほうがよい	結婚するまでは職業を持つほうがよい	子どもができるまでは職業を持つほうがよい	子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい	子どもができて、仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい	その他(具体的に)	わからない	無回答
総数	2124	1.1%	5.8%	7.4%	32.6%	43.1%	6.1%	2.8%	1.1%
性別									
女性	1153	1.1%	4.7%	5.6%	31.8%	46.1%	6.8%	2.3%	1.7%
男性	971	1.1%	7.2%	9.6%	33.5%	39.5%	5.3%	3.4%	0.4%
性*年齢									
20歳代	215	1.4%	4.2%	10.7%	31.2%	37.7%	11.2%	3.7%	0.0%
30歳代	399	1.0%	4.0%	6.0%	35.8%	41.4%	6.8%	3.0%	2.0%
40歳代	458	0.7%	4.8%	5.9%	33.8%	40.6%	9.8%	3.3%	1.1%
50歳代	476	1.3%	4.2%	6.5%	37.4%	43.7%	4.2%	1.7%	1.1%
60歳代	386	1.3%	8.8%	7.3%	28.5%	47.9%	3.4%	2.1%	0.8%
70歳以上	190	1.6%	12.1%	12.6%	20.5%	47.4%	0.0%	4.2%	1.6%
女性									
女性20歳代	122	1.6%	3.3%	7.4%	32.0%	42.6%	11.5%	1.6%	0.0%
女性30歳代	226	0.9%	3.1%	6.2%	36.7%	40.3%	7.5%	1.8%	3.5%
女性40歳代	274	0.7%	2.9%	4.0%	35.0%	42.0%	10.9%	2.6%	1.8%
女性50歳代	248	1.6%	3.2%	3.2%	33.9%	51.2%	4.0%	1.6%	1.2%
女性60歳代	187	0.5%	8.6%	6.4%	25.7%	51.9%	3.7%	2.7%	0.5%
女性70歳以上	96	2.1%	11.5%	10.4%	17.7%	51.0%	0.0%	4.2%	3.1%
男性									
男性20歳代	93	1.1%	5.4%	15.1%	30.1%	31.2%	10.8%	6.5%	0.0%
男性30歳代	173	1.2%	5.2%	5.8%	34.7%	42.8%	5.8%	4.6%	0.0%
男性40歳代	184	0.5%	7.6%	8.7%	32.1%	38.6%	8.2%	4.3%	0.0%
男性50歳代	228	0.9%	5.3%	10.1%	41.2%	35.5%	4.4%	1.8%	0.9%
男性60歳代	199	2.0%	9.0%	8.0%	31.2%	44.2%	3.0%	1.5%	1.0%
男性70歳以上	94	1.1%	12.8%	14.9%	23.4%	43.6%	0.0%	4.3%	0.0%

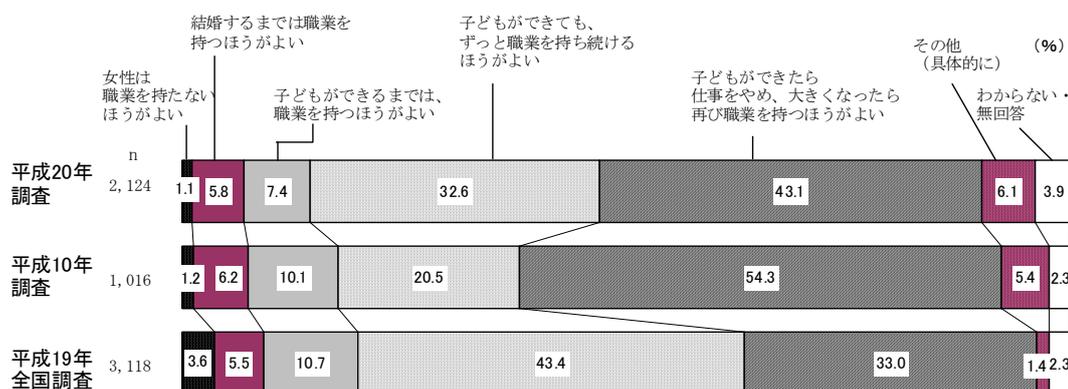
【他調査との比較】

前回調査と比較すると、「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」(20.5%→32.6%)と回答した人の割合は上昇しているが、その他については低下している。

全国調査と比較すると、「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」と回答した人の割合は低くなっており、「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」と回答した人の割合は高くなっている。

図5-2 女性が職業を持つことについての考え

【他調査との比較】



<結婚、家庭生活に関する意識について>

6 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方

「賛成」（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」以下同じ）と回答した人の割合は 48.0%、「反対」（「反対」＋「どちらかといえば反対」以下同じ）と回答した人の割合は 40.0%と、「賛成」が「反対」を上回っている。

【性・年齢別】

性別に見ると、「賛成」と回答した人の割合は女性（43.4%）より男性（53.3%）の方が高く、「反対」と回答した人の割合は男性（34.9%）より女性（44.3%）の方が高くなっている。

年齢別に見ると、「賛成」と回答した人の割合は、60 歳代（57.2%）、70 歳以上（65.3%）で高くなっている。

性・年齢別に見ると、「賛成」と回答した人の割合は、男性 20 歳代（52.7%）・70 歳以上（64.9%）で高くなっている。また、「反対」と回答した人の割合は、女性 20 歳代（52.4%）・50 歳代（49.6%）で高くなっている。

【地域別】

地域別に見ると、大きな差異は見られない。

【共働き状況別】

共働き状況別に見ると、「賛成」と回答した人の割合は、夫のみ就業（59.7%）で高くなっており、「反対」と回答した人の割合は、共働き（47.4%）で高くなっている。

図6-1 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方

【総数、性別、年齢別、地域別、未・既婚別、共働き状況別】

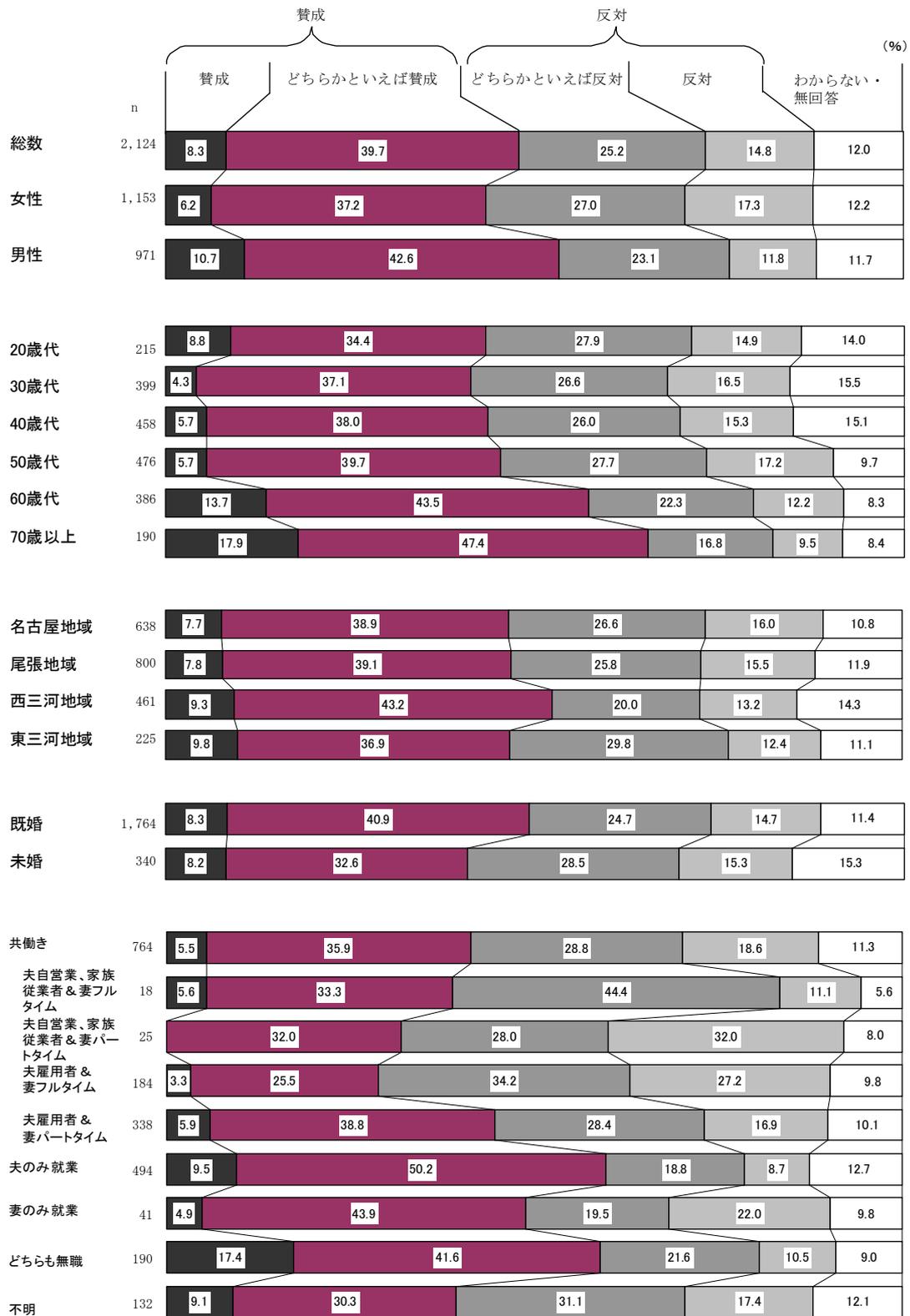


表6 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方【性・年齢別】

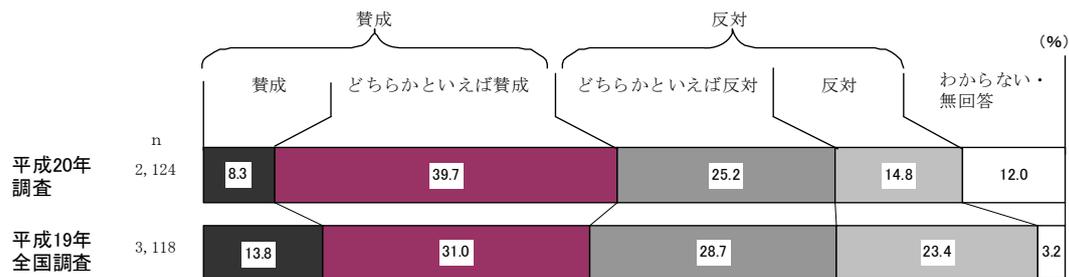
問6(%)	サンプル数	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない	無回答
総数	2124	8.3%	39.7%	25.2%	14.8%	10.2%	1.8%
性別							
女性	1153	6.2%	37.2%	27.0%	17.3%	10.2%	2.0%
男性	971	10.7%	42.6%	23.1%	11.8%	10.2%	1.5%
性*年齢							
20歳代	215	8.8%	34.4%	27.9%	14.9%	13.0%	0.9%
30歳代	399	4.3%	37.1%	26.6%	16.5%	13.0%	2.5%
40歳代	458	5.7%	38.0%	26.0%	15.3%	13.8%	1.3%
50歳代	476	5.7%	39.7%	27.7%	17.2%	8.4%	1.3%
60歳代	386	13.7%	43.5%	22.3%	12.2%	6.2%	2.1%
70歳以上	190	17.9%	47.4%	16.8%	9.5%	5.3%	3.2%
女性							
女性20歳代	122	4.9%	31.1%	34.4%	18.0%	9.8%	1.6%
女性30歳代	226	2.2%	36.7%	26.1%	19.0%	12.4%	3.5%
女性40歳代	274	5.5%	33.2%	28.8%	17.9%	13.1%	1.5%
女性50歳代	248	4.0%	35.9%	28.2%	21.4%	9.3%	1.2%
女性60歳代	187	9.1%	44.9%	25.1%	12.3%	6.4%	2.1%
女性70歳以上	96	19.8%	45.8%	14.6%	10.4%	7.3%	2.1%
男性							
男性20歳代	93	14.0%	38.7%	19.4%	10.8%	17.2%	0.0%
男性30歳代	173	6.9%	37.6%	27.2%	13.3%	13.9%	1.2%
男性40歳代	184	6.0%	45.1%	21.7%	11.4%	14.7%	1.1%
男性50歳代	228	7.5%	43.9%	27.2%	12.7%	7.5%	1.3%
男性60歳代	199	18.1%	42.2%	19.6%	12.1%	6.0%	2.0%
男性70歳以上	94	16.0%	48.9%	19.1%	8.5%	3.2%	4.3%

【他調査との比較】

全国調査と比較すると、「賛成」と回答した人の割合は、やや高くなっており、「反対」と回答した人の割合は低くなっている。

図6-2 「夫が外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方

【他調査との比較】



< 参 考 >



※前回調査は「どちらともいえない」という選択肢があるため、単純に比較はできない。

7 結婚、離婚などに関する考え方

A 「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」

「賛成」（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」以下同じ）と回答した人の割合は 62.9%、「反対」（「反対」＋「どちらかといえば反対」以下同じ）と回答した人の割合は 29.9%と、「賛成」が「反対」を大きく上回っている。

【性・年齢別】

性別に見ると、「賛成」と回答した人の割合は、男性（56.5%）より女性（68.2%）の方が高くなっている。

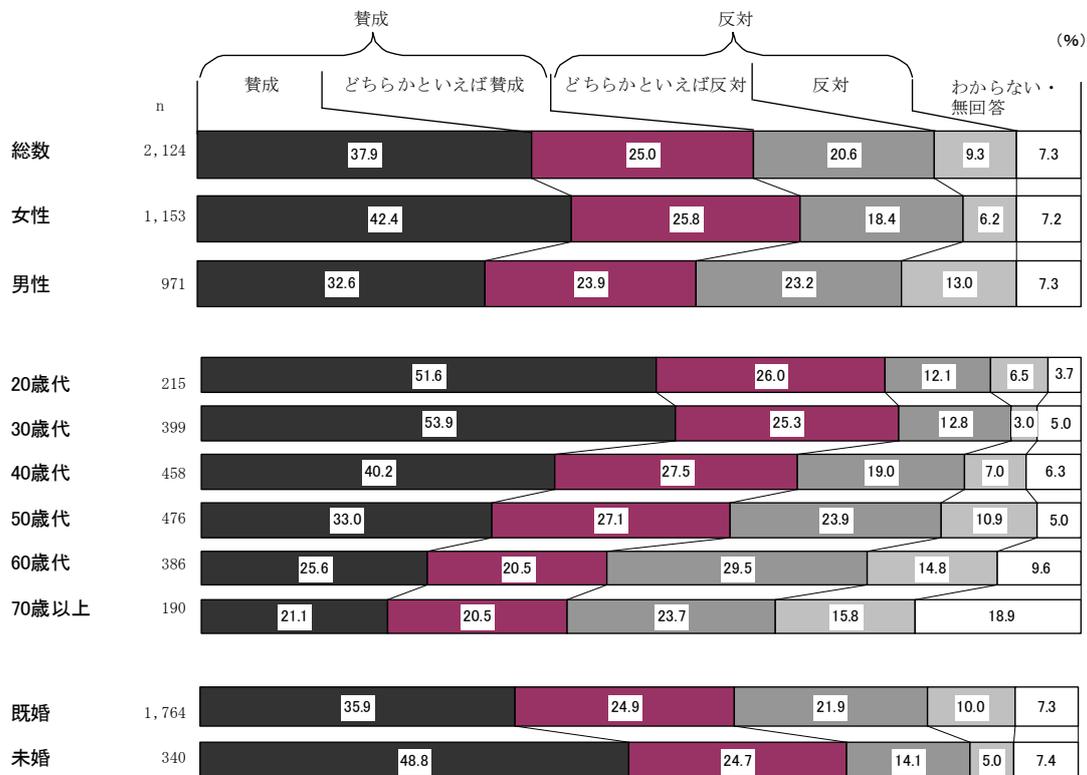
年齢別に見ると、「賛成」と回答した人の割合は、20歳代（77.6%）、30歳代（79.2%）で高くなっている。また、「反対」と回答した人の割合は、年齢が高いほど高くなっている。

【未婚・既婚別】

未・既婚別に見ると、「賛成」と回答した人の割合は、既婚（60.8%）より未婚（73.5%）の方が高くなっている。

図7-1 結婚、離婚などに関する考え方(A 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもよい)

【総数、性別、年齢別、未・既婚別】

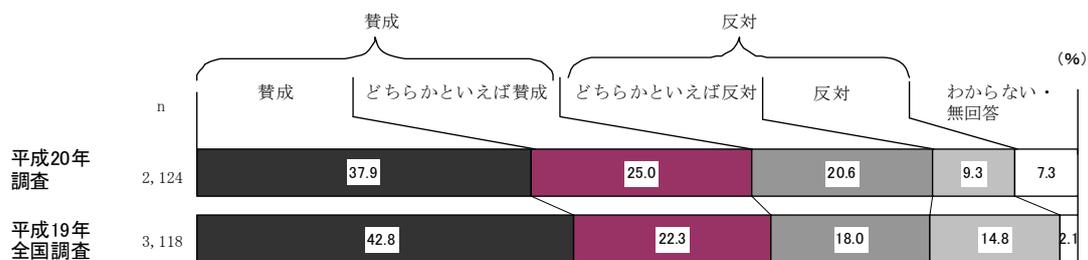


【他調査との比較】

全国調査と比較すると、大きな差異は見られない。

図7-2 結婚、離婚などに関する考え方(A 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい)

【他調査との比較】



< 参 考 >



※前回調査は「どちらともいえない」という選択肢があるため、単純に比較はできない。

B 「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」

「賛成」（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」以下同じ）と回答した人の割合は 43.2%、「反対」（「反対」＋「どちらかといえば反対」以下同じ）と回答した人の割合は 44.6%と、「反対」が「賛成」をやや上回っている。

【性・年齢別】

性別に見ると、「賛成」と回答した人の割合は、男性（38.7%）より女性（46.8%）の方が高くなっている。

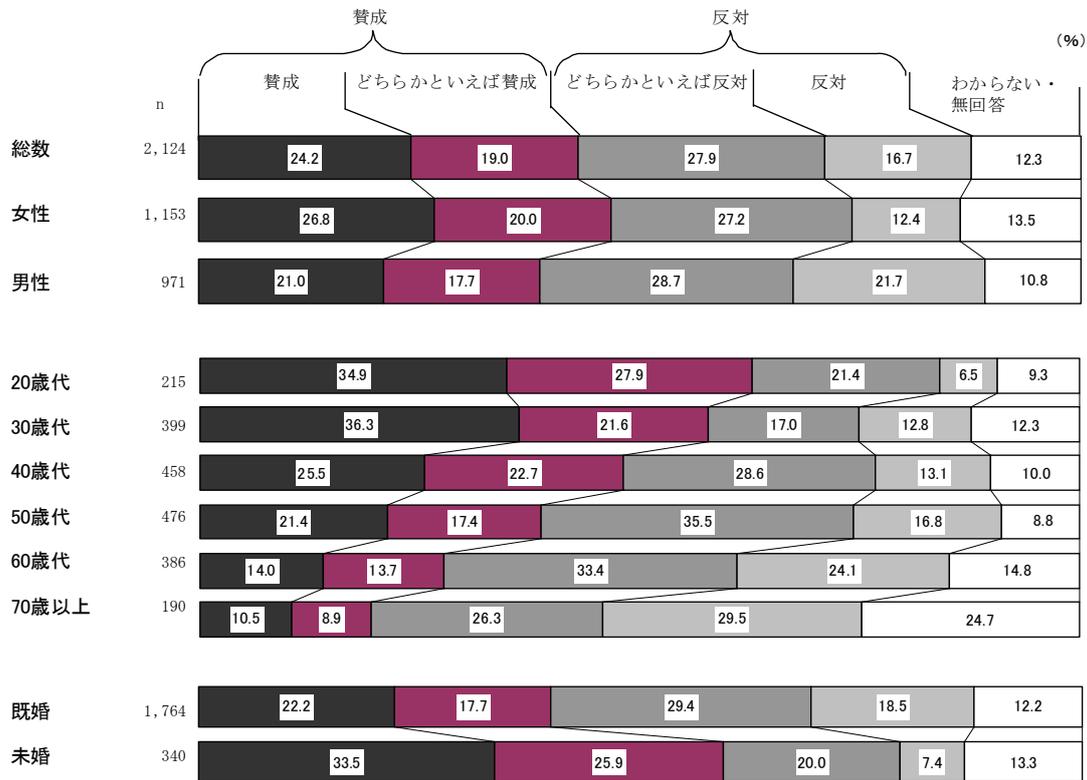
年齢別に見ると、「賛成」と回答した人の割合は、年齢が低いほど高くなっている。また、「反対」と回答した人の割合は、年齢が高いほど高くなっている。

【未婚・既婚別】

未・既婚別に見ると、「賛成」と回答した人の割合は、既婚（39.9%）より未婚（59.4%）の方が高くなっている。

図7-3 結婚、離婚などに関する考え方(B 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない)

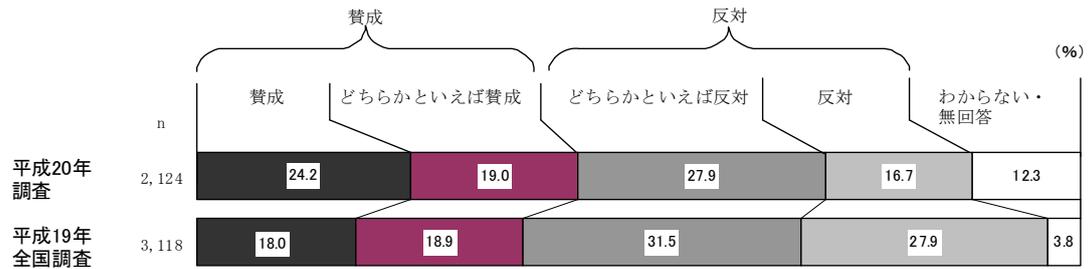
【総数、性別、年齢別、未・既婚別】



【他調査との比較】

全国調査と比較すると、「賛成」と回答した人の割合は高くなっており、「反対」と回答した人の割合は低くなっている。

図7-4 結婚、離婚などに関する考え方(B 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない)
【他調査との比較】



< 参 考 >



※前回調査は「どちらともいえない」という選択肢があるため、単純に比較はできない。

C 「結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」

「賛成」（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」以下同じ）と回答した人の割合は 44.8%、「反対」（「反対」＋「どちらかといえば反対」以下同じ）と回答した人の割合は 39.0%と、「賛成」が「反対」を上回っている。

【性・年齢別】

性別に見ると、大きな差異は見られない。

年齢別に見ると、「賛成」と回答した人の割合は、30 歳代（51.2%）、40 歳代（51.3%）で高くなっている。また、「反対」と回答した人の割合は、60 歳代（47.6%）、70 歳以上（43.2%）で高くなっている。

性・年齢別に見ると、男女差はあまり見られないが、男性 20 歳代では、「反対」と回答した人の割合が 49.4%と高いのに対し、女性 20 歳代は 32.8%と男性に比べ低くなっている。

【未婚・既婚別】

未・既婚別に見ると、未婚、既婚ともに「賛成」と回答した人の割合が「反対」を上回っており、大きな差異は見られない。

図7-5 結婚、離婚などに関する考え方(C 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい)

【総数、性別、年齢別、未・既婚別】

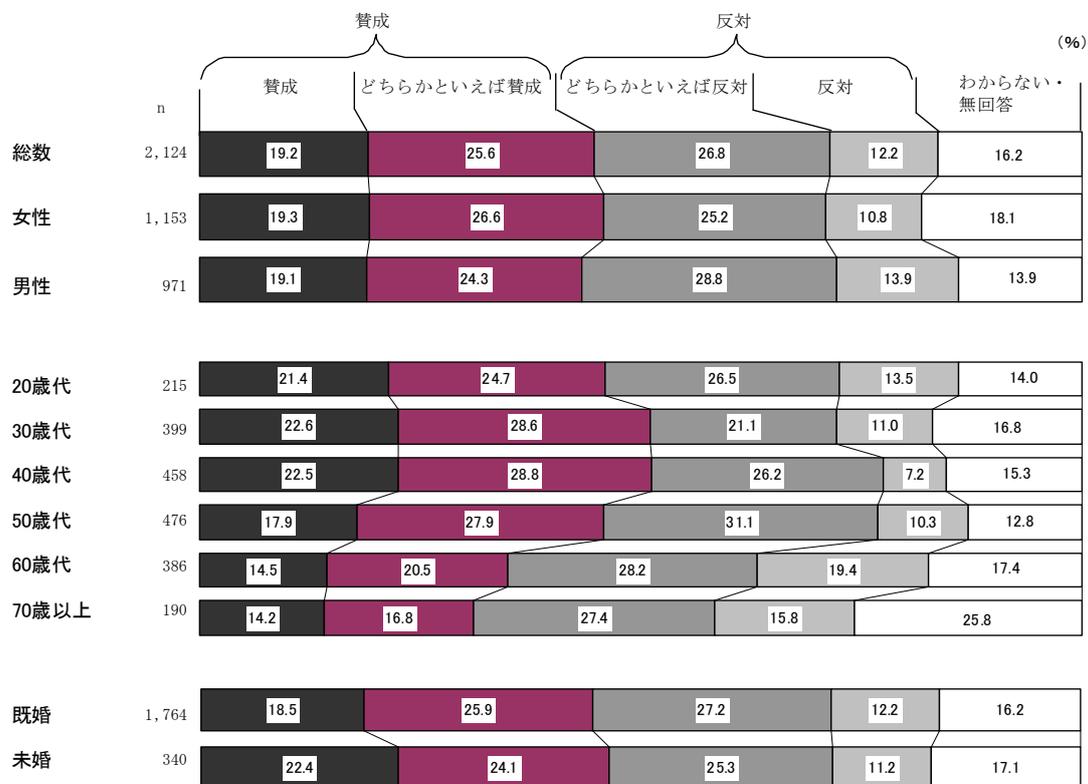


表7 結婚、離婚などに関する考え方(C 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい)

【性・年齢別】

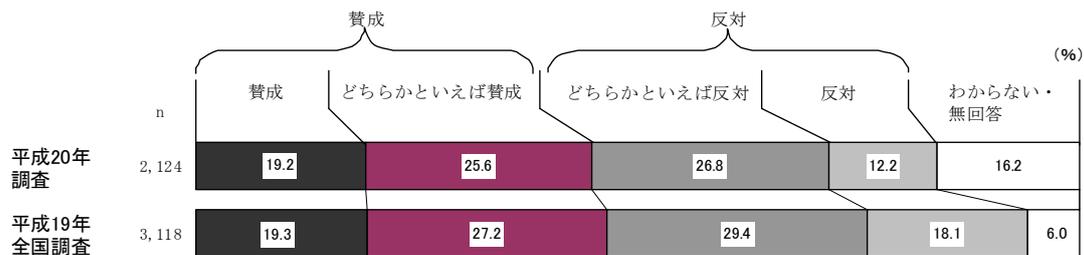
問7C(%)	サンプル数	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない	無回答
総数	2124	19.2%	25.6%	26.8%	12.2%	12.6%	3.6%
性別							
女性	1153	19.3%	26.6%	25.2%	10.8%	14.1%	4.1%
男性	971	19.1%	24.3%	28.8%	13.9%	10.9%	3.0%
性*年齢							
20歳代	215	21.4%	24.7%	26.5%	13.5%	13.5%	0.5%
30歳代	399	22.6%	28.6%	21.1%	11.0%	15.0%	1.8%
40歳代	458	22.5%	28.8%	26.2%	7.2%	13.5%	1.7%
50歳代	476	17.9%	27.9%	31.1%	10.3%	11.3%	1.5%
60歳代	386	14.5%	20.5%	28.2%	19.4%	10.9%	6.5%
70歳以上	190	14.2%	16.8%	27.4%	15.8%	11.1%	14.7%
女性							
女性20歳代	122	20.5%	32.0%	18.0%	14.8%	13.9%	0.8%
女性30歳代	226	23.5%	28.3%	21.2%	8.0%	16.4%	2.7%
女性40歳代	274	23.0%	30.3%	25.5%	4.7%	14.2%	2.2%
女性50歳代	248	18.5%	27.8%	27.8%	11.3%	12.5%	2.0%
女性60歳代	187	10.7%	21.4%	27.8%	20.3%	12.8%	7.0%
女性70歳以上	96	15.6%	12.5%	30.2%	10.4%	14.6%	16.7%
男性							
男性20歳代	93	22.6%	15.1%	37.6%	11.8%	12.9%	0.0%
男性30歳代	173	21.4%	28.9%	20.8%	15.0%	13.3%	0.6%
男性40歳代	184	21.7%	26.6%	27.2%	10.9%	12.5%	1.1%
男性50歳代	228	17.1%	28.1%	34.6%	9.2%	10.1%	0.9%
男性60歳代	199	18.1%	19.6%	28.6%	18.6%	9.0%	6.0%
男性70歳以上	94	12.8%	21.3%	24.5%	21.3%	7.4%	12.8%

【他調査との比較】

全国調査と比較すると、「賛成」と回答した人の割合はほぼ同じだが、「反対」と回答した人の割合は低くなっている。

図7-6 結婚、離婚などに関する考え方(C 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい)

【他調査との比較】



< 参 考 >



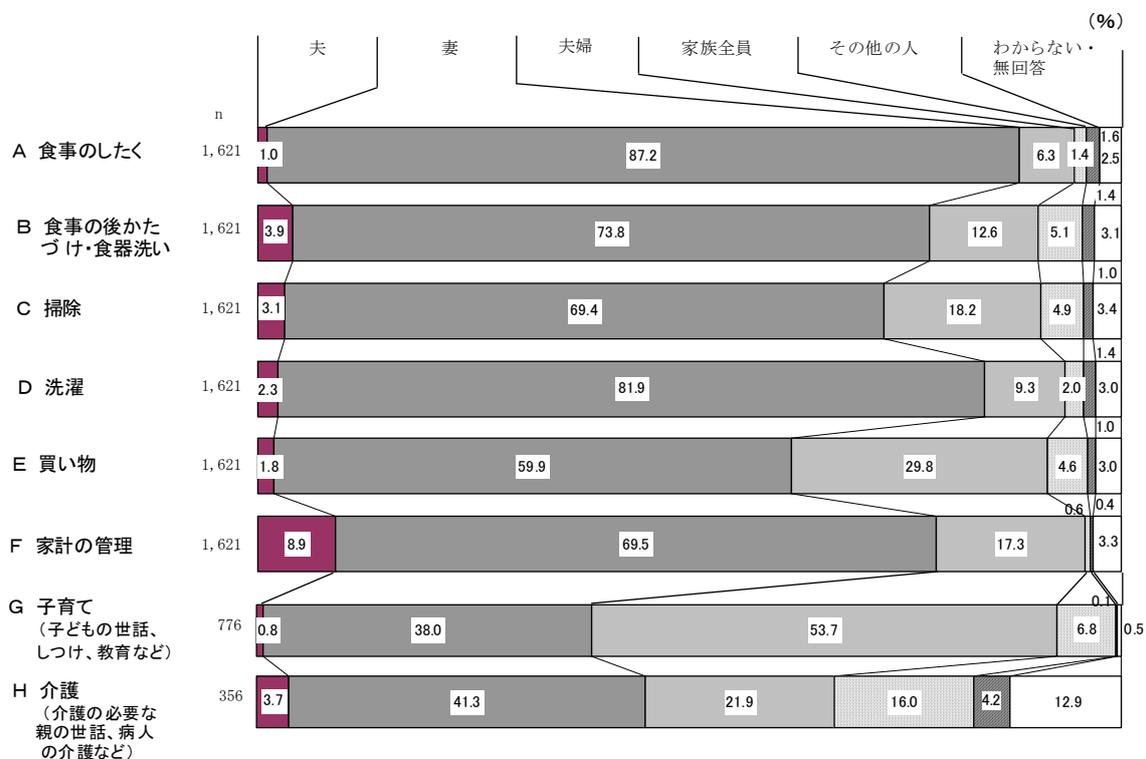
※前回調査は「どちらともいえない」という選択肢があるため、単純に比較はできない。

8 家庭における家事分担

結婚している人（パートナーがいる人）に聞いたところ、8つの項目について、「妻」と回答した人の割合は、「食事のしたく」（87.2%）が最も高く、次いで、「洗濯」（81.9%）、「食事の後かたづけ・食器洗い」（73.8%）、「家計の管理」（69.5%）、「掃除」（69.4%）の順に高くなっている。しかし、「子育て」については、「夫婦」と回答した人の割合が53.7%と高くなっている。

図8-1 家庭における家事分担

【項目別】



※「G子育て」「H介護」については、「わからない・無回答」欄は「わからない」のみ。

A 「食事のしたく」

「妻」と回答した人の割合が 87.2%と高くなっている。また、「夫婦」と回答した人の割合は 6.3%、「家族全員」と回答した人の割合は 1.4%、「夫」と回答した人の割合は 1.0%と低くなっている。

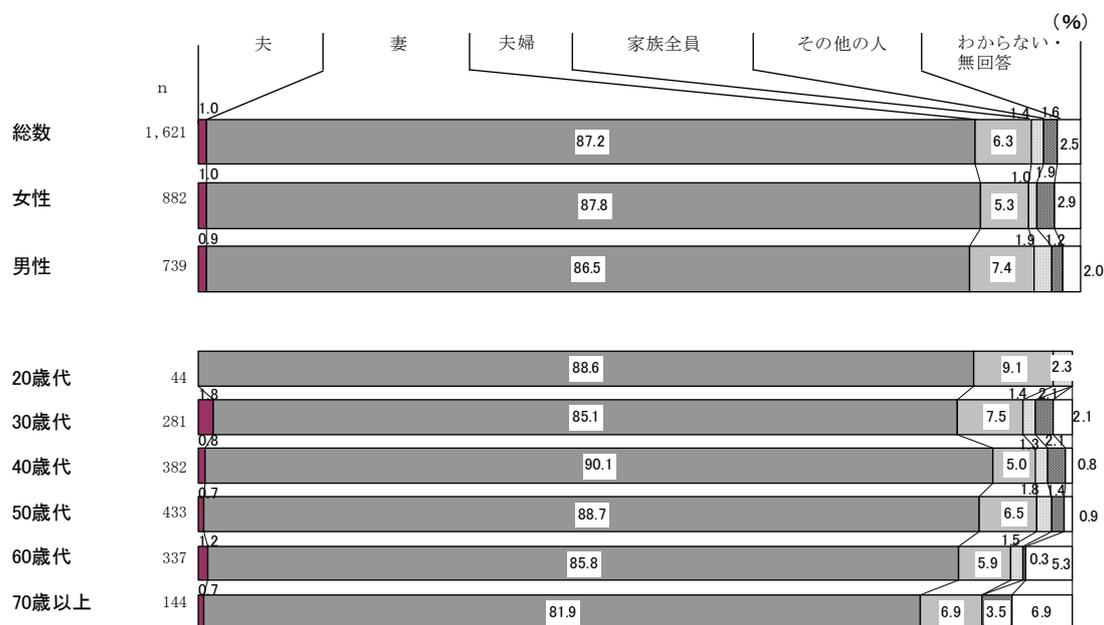
【性・年齢別】

性別に見ると、大きな差異は見られない。

年齢別に見ると、「妻」と回答した人の割合は、40歳代、50歳代で高くなっている。

図8-2 家庭における家事分担(A 食事のしたく)

【総数、性別、年齢別】



B 「食事の後かたづけ・食器洗い」

「妻」と回答した人の割合が73.8%と高くなっている。また、「夫婦」と回答した人の割合は12.6%、「家族全員」と回答した人の割合は5.1%、「夫」と回答した人の割合は3.9%と低くなっている。

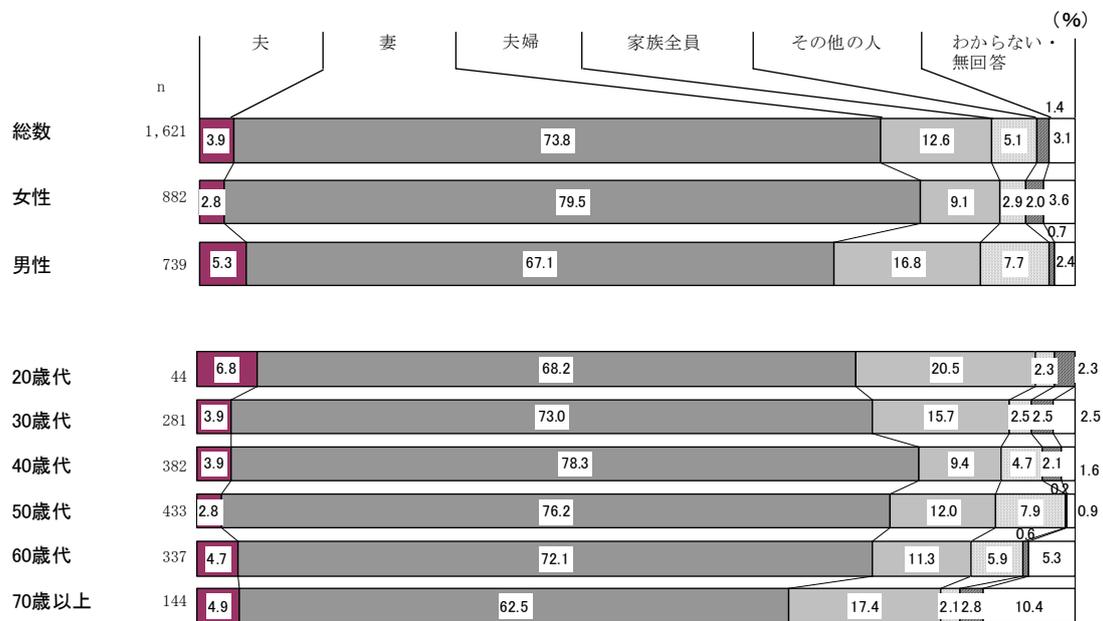
【性・年齢別】

性別に見ると、「妻」と回答した人の割合は男性より女性の方が高く、「夫婦」と回答した人の割合は、女性より男性の方が高くなっている。

年齢別に見ると、「妻」と回答した人の割合は、40歳代、50歳代で高くなっている。

図8-3 家庭における家事分担(B 食事の後かたづけ・食器洗い)

【総数、性別、年齢別】



C 「掃除」

「妻」と回答した人の割合が 69.4%と高くなっている。また、「夫婦」と回答した人の割合は 18.2%、「家族全員」と回答した人の割合は 4.9%、「夫」と回答した人の割合は 3.1%と低くなっている。

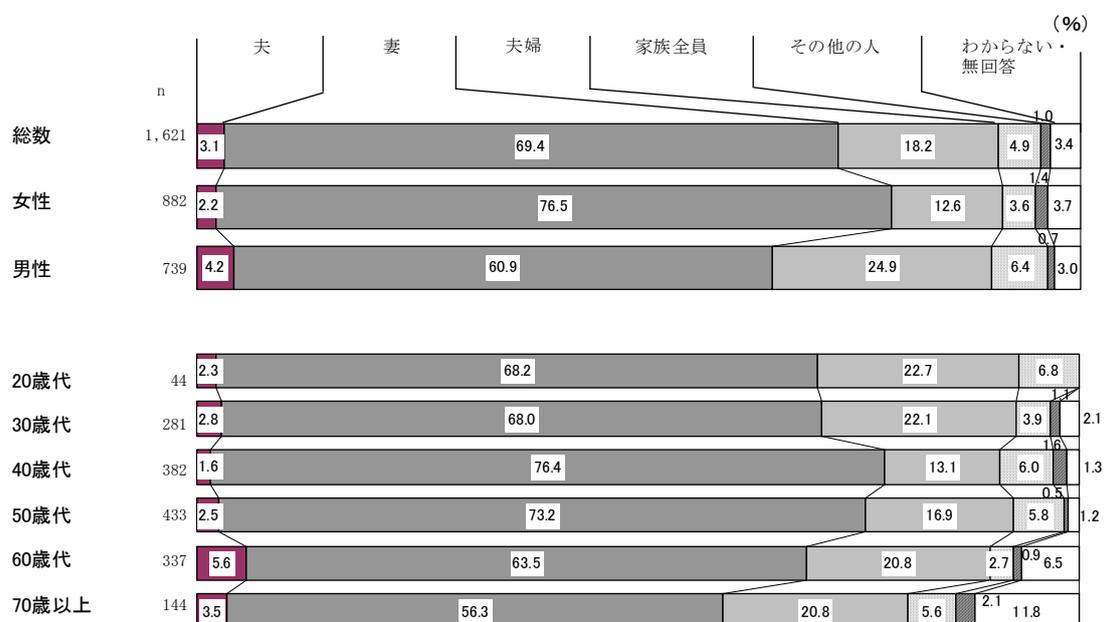
【性・年齢別】

性別に見ると、「妻」と回答した人の割合は男性より女性の方が高く、「夫婦」と回答した人の割合は女性より男性の方が高くなっている。

年齢別に見ると、「妻」と回答した人の割合は、40歳代、50歳代で高くなっている。

図8-4 家庭における家事分担(C 掃除)

【総数、性別、年齢別】



D 「洗濯」

「妻」と回答した人の割合が 81.9%と高くなっている。また、「夫婦」と回答した人の割合は 9.3%、「家族全員」と回答した人の割合は 2.0%、「夫」と回答した人の割合は 2.3%と低くなっている。

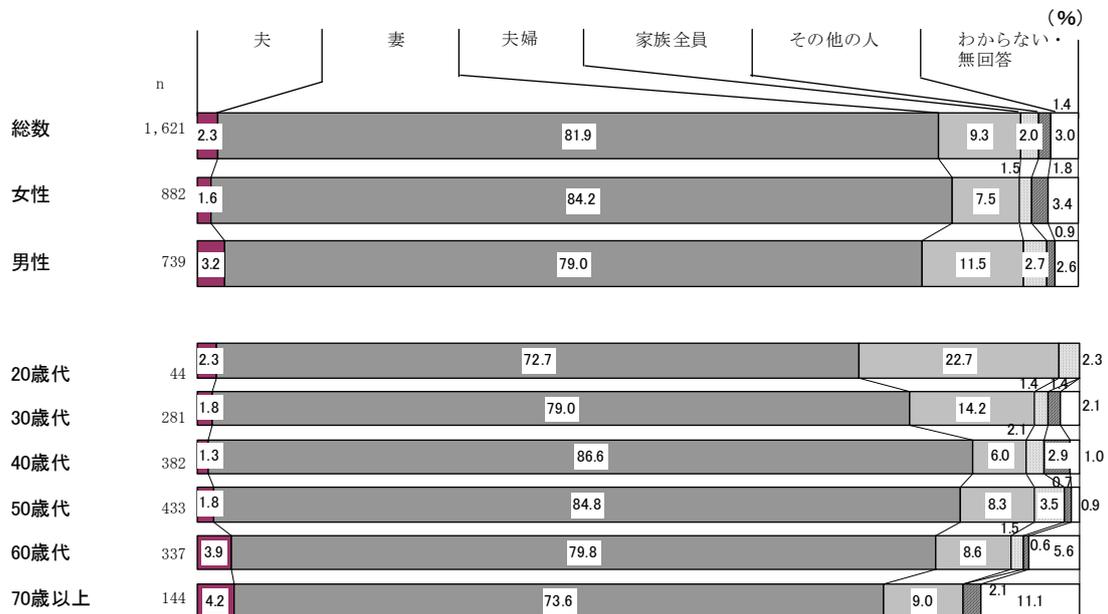
【性・年齢別】

性別に見ると、大きな差異は見られない。

年齢別に見ると、「妻」と回答した人の割合は、40歳代、50歳代で高くなっている。

図8-5 家庭における家事分担(D 洗濯)

【総数、性別、年齢別】



E 「買い物」

「妻」と回答した人の割合が 59.9%と高く、次いで、「夫婦」と回答した人の割合は 29.8%と高くなっている。また、「家族全員」と回答した人の割合は 4.6%、「夫」と回答した人の割合は 1.8%と低くなっている。

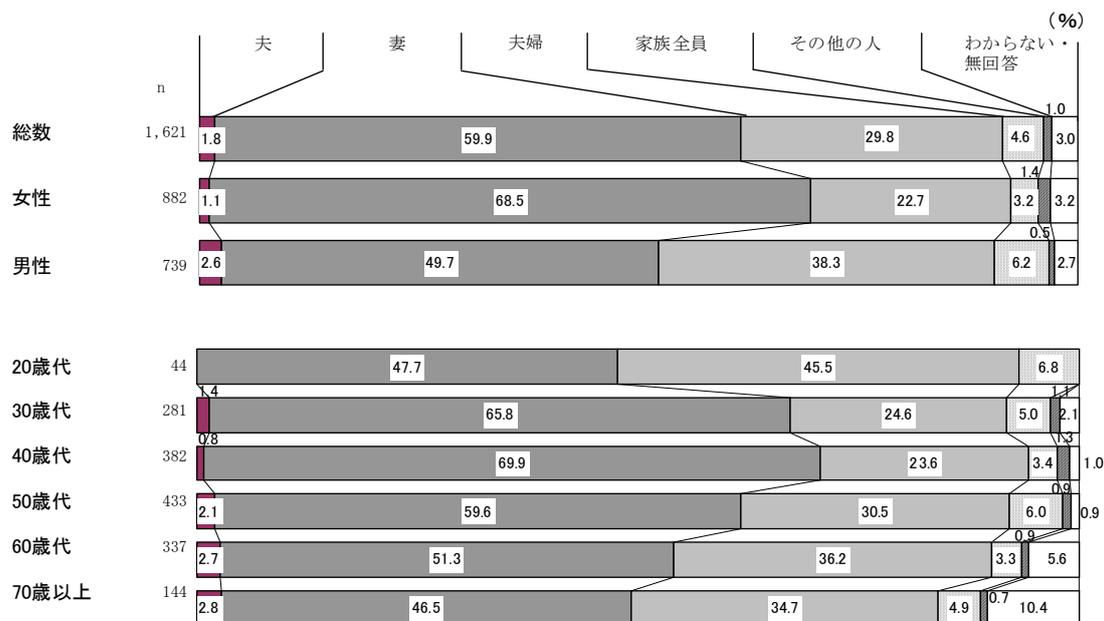
【性・年齢別】

性別に見ると、「妻」と回答した人の割合は男性より女性の方が高く、「夫婦」と回答した人の割合は、女性より男性の方が高くなっている。

年齢別に見ると、「妻」と回答した人の割合は、30歳代、40歳代、50歳代で高くなっている。また、「夫婦」と回答した人の割合は、20歳代で高くなっている。

図8-6 家庭における家事分担(E 買い物)

【総数、性別、年齢別】



F 「家計の管理」

「妻」と回答した人の割合が 69.5%と高くなっている。また、「夫婦」と回答した人の割合は 17.3%、「夫」と回答した人の割合は 8.9%と低くなっている。

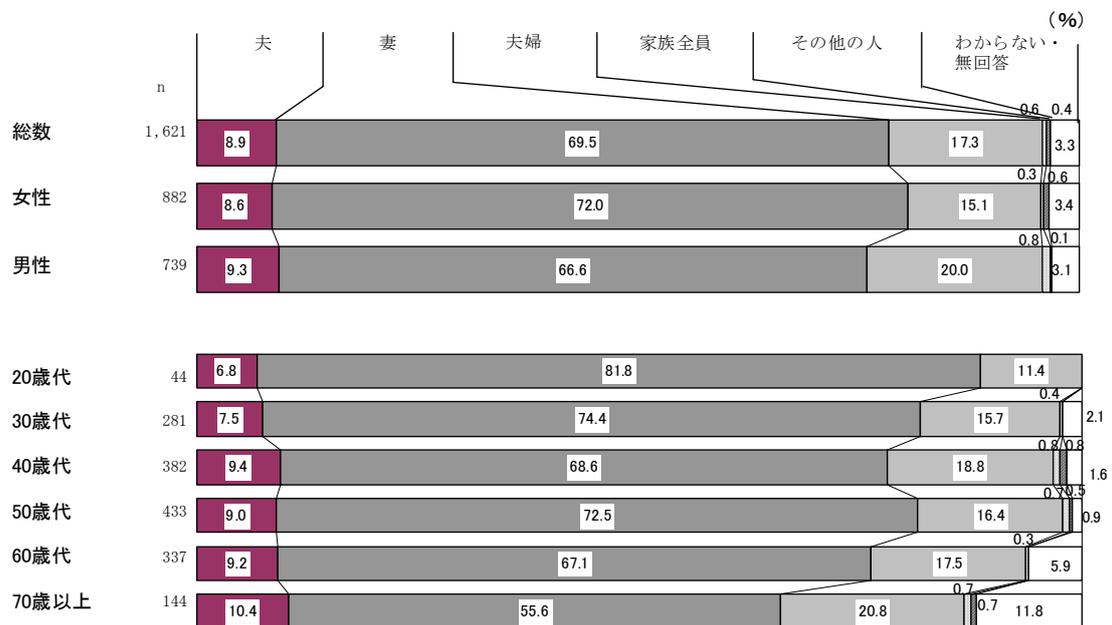
【性・年齢別】

性別に見ると、大きな差異は見られない。

年齢別に見ると、「妻」と回答した人の割合は、20歳代で高くなっている。

図8-7 家庭における家事分担(F 家計の管理)

【総数、性別、年齢別】



G 「子育て（子どもの世話、しつけ、教育など）」

子育て中の人のうち、「夫婦」と回答した人の割合が53.7%と高く、次いで、「妻」と回答した人の割合は38.0%となっている。また、「夫」と回答した人の割合は0.8%と低くなっている。

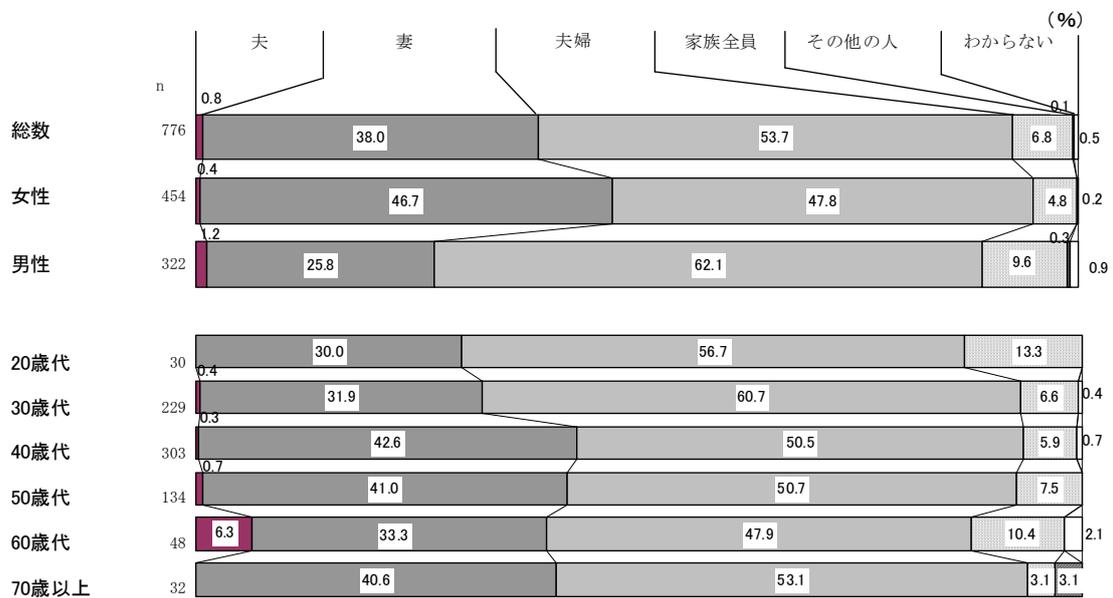
【性・年齢別】

性別に見ると、「妻」と回答した人の割合は男性より女性の方が高く、「夫婦」と回答した人の割合は、女性より男性の方が高くなっている。

年齢別に見ると、「夫婦」と回答した人の割合は、20歳代、30歳代でやや高くなっている。

図8-8 家庭における家事分担(G 子育て(子どもの世話、しつけ、教育など))

【総数、性別、年齢別】



H 「介護（介護の必要な親の世話、病人の介護など）」

介護中の人のうち、「妻」と回答した人の割合が41.3%と高くなっている。また、「夫婦」と回答した人の割合は21.9%、「家族全員」と回答した人の割合は16.0%、「夫」と回答した人の割合は3.7%と低くなっている。

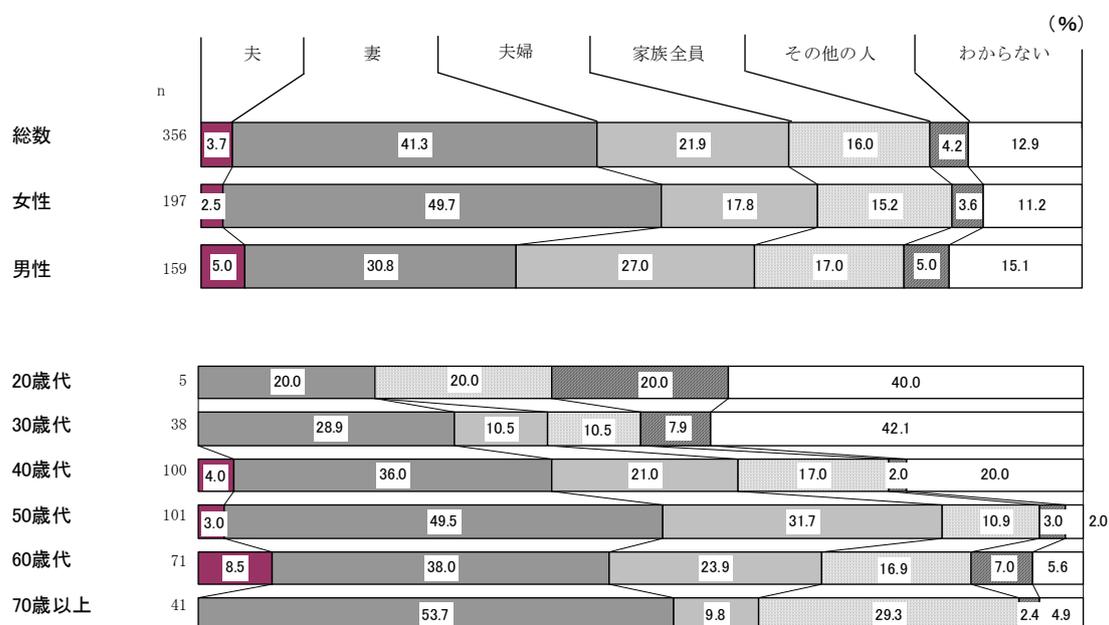
【性・年齢別】

性別に見ると、「妻」と回答した人の割合は、男性より女性の方が大幅に高く、「夫婦」と回答した人の割合は女性より男性の方が高くなっている。

年齢別に見ると、「夫婦」と回答した人の割合は、50歳代で高くなっている。

図8-9 家庭における家事分担(H 介護(介護の必要な親の世話、病人の介護など))

【総数、性別、年齢別】



<仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について>

9 仕事、家庭生活、地域・個人の生活への関わり方

A 「希望として」

「仕事と家庭生活と地域・個人の生活の三つとも大切にしたい」、「仕事と家庭生活をともに優先したい」と回答した人の割合は、ともに 27.8%となっており、次いで「家庭生活を優先したい」が 21.9%となっている。

【性・年齢別】

性別に見ると、女性は、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活の三つとも大切にしたい」と回答した人の割合が最も高くなっており、男性は、「仕事と家庭生活をともに優先したい」と回答した人の割合が最も高くなっている。

年齢別に見ると、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活の三つとも大切にしたい」と回答した人の割合は、20歳代で高くなっている。

性・年齢別に見ると、「仕事と家庭生活をともに優先したい」と回答した人の割合は、男性 30歳代（37.6%）・50歳代（41.2%）で高くなっている。

図9-1 仕事、家庭生活、地域・個人の生活への関わり方(A 希望として)

【総数、性別、年齢別】

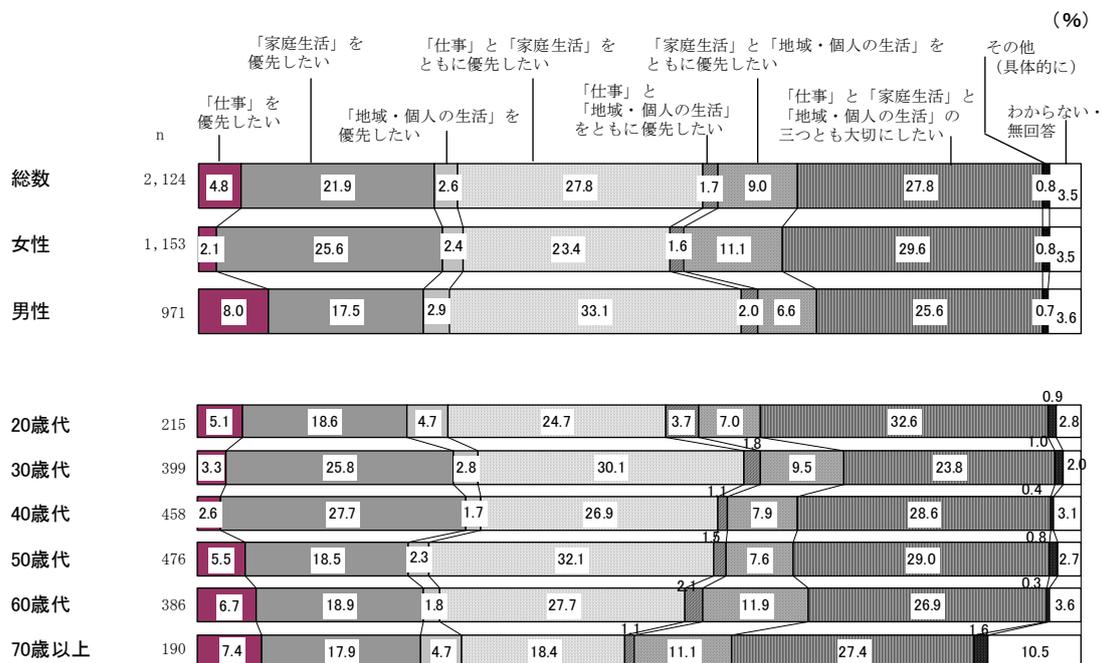


表9-1 仕事、家庭生活、地域・個人の生活への関わり方(A 希望として)【性・年齢別】

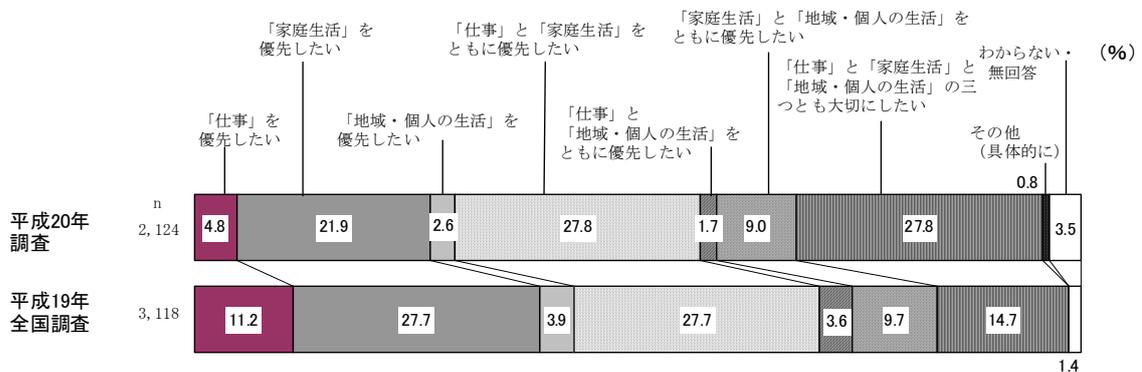
問9A(%)	サンプル数	「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「地域・個人の生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」を優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「家庭生活」と「個人の生活」をともに優先したい	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしたい	その他	わからない	無回答
総数	2124	4.8%	21.9%	2.6%	27.8%	1.7%	9.0%	27.8%	0.8%	1.2%	2.3%
性別											
女性	1153	2.1%	25.6%	2.4%	23.4%	1.6%	11.1%	29.6%	0.8%	1.2%	2.3%
男性	971	8.0%	17.5%	2.9%	33.1%	2.0%	6.6%	25.6%	0.7%	1.2%	2.4%
性*年齢											
20歳代	215	5.1%	18.6%	4.7%	24.7%	3.7%	7.0%	32.6%	0.9%	0.9%	1.9%
30歳代	399	3.3%	25.8%	2.8%	30.1%	1.8%	9.5%	23.8%	1.0%	1.0%	1.0%
40歳代	458	2.6%	27.7%	1.7%	26.9%	1.1%	7.9%	28.6%	0.4%	1.5%	1.5%
50歳代	476	5.5%	18.5%	2.3%	32.1%	1.5%	7.6%	29.0%	0.8%	0.6%	2.1%
60歳代	386	6.7%	18.9%	1.8%	27.7%	2.1%	11.9%	26.9%	0.3%	0.8%	2.8%
70歳以上	190	7.4%	17.9%	4.7%	18.4%	1.1%	11.1%	27.4%	1.6%	3.7%	6.8%
女性											
女性20歳代	122	3.3%	19.7%	5.7%	21.3%	3.3%	9.8%	32.8%	0.0%	0.8%	3.3%
女性30歳代	226	0.9%	30.5%	1.3%	24.3%	1.3%	10.6%	27.4%	1.3%	0.4%	1.8%
女性40歳代	274	1.5%	29.6%	2.2%	24.8%	0.7%	8.4%	29.9%	0.4%	1.5%	1.1%
女性50歳代	248	2.8%	22.2%	1.6%	23.8%	1.2%	9.7%	34.7%	1.2%	0.4%	2.4%
女性60歳代	187	1.6%	23.5%	2.1%	26.7%	2.1%	16.6%	24.1%	0.0%	1.6%	1.6%
女性70歳以上	96	4.2%	22.9%	4.2%	12.5%	2.1%	14.6%	27.1%	2.1%	4.2%	6.3%
男性											
男性20歳代	93	7.5%	17.2%	3.2%	29.0%	4.3%	3.2%	32.3%	2.2%	1.1%	0.0%
男性30歳代	173	6.4%	19.7%	4.6%	37.6%	2.3%	8.1%	19.1%	0.6%	1.7%	0.0%
男性40歳代	184	4.3%	25.0%	1.1%	29.9%	1.6%	7.1%	26.6%	0.5%	1.6%	2.2%
男性50歳代	228	8.3%	14.5%	3.1%	41.2%	1.8%	5.3%	22.8%	0.4%	0.9%	1.8%
男性60歳代	199	11.6%	14.6%	1.5%	28.6%	2.0%	7.5%	29.6%	0.5%	0.0%	4.0%
男性70歳以上	94	10.6%	12.8%	5.3%	24.5%	0.0%	7.4%	27.7%	1.1%	3.2%	7.4%

【他調査との比較】

全国調査と比較すると、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活の三つとも大切にしたい」と回答した人の割合が大幅に高くなっており、「仕事を優先したい」と回答した人の割合は低くなっている。

図9-2 仕事、家庭生活、地域・個人の生活への関わり方(A 希望として)

【他調査との比較】



B 「現実として」

「仕事を優先している」と回答した人の割合が 30.2%と最も高く、次いで「家庭生活を優先している」(23.4%)、「仕事と家庭生活をともに優先している」(20.2%) の順となっている。

【性・年齢別】

性別に見ると、「家庭生活を優先している」と回答した人の割合は、男性より女性の方が大幅に高くなっているのに対し、「仕事を優先している」と回答した人の割合は、女性より男性の方が大幅に高くなっている。

年齢別に見ると、「仕事を優先している」と回答した人の割合は、年齢が低いほど高くなっている。

性・年齢別に見ると、「仕事を優先している」と回答した人の割合は、男性 30 歳代 (57.2%)・40 歳代 (60.3%) で高くなっている。また、「家庭生活を優先している」と回答した人の割合は、女性 30 歳代 (43.4%)・40 歳代 (41.6%) で高くなっている。

図9-3 仕事、家庭生活、地域・個人の生活への関わり方(B 現実として)

【総数、性別、年齢別】

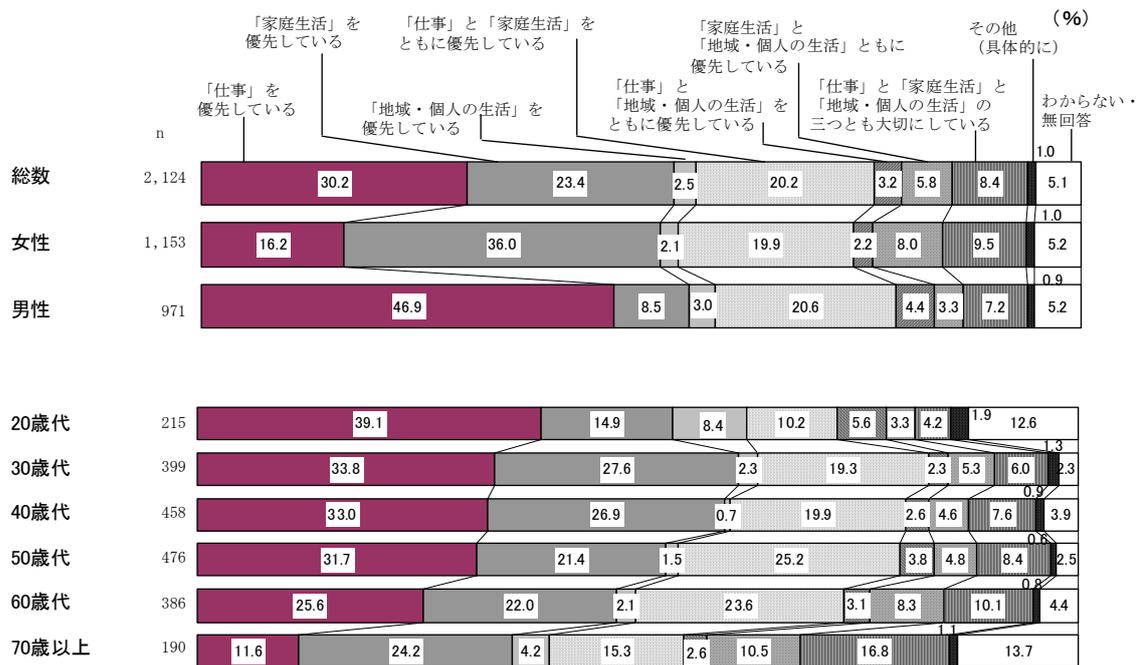


表9-2 仕事、家庭生活、地域・個人の生活への関わり方(B 現実として)【性・年齢別】

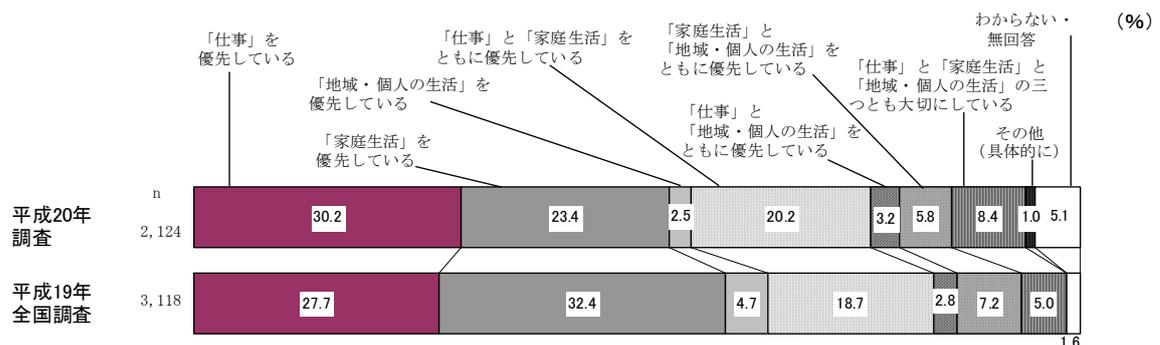
問9B(%)	サンプル数	「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人の生活」を優先している	先「仕事」と「家庭生活」ともに優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」ともに優先している	「家庭生活」と「個人の生活」ともに優先している	「地域・個人の生活」と「家庭生活」の三つとも大切にしている	その他	わからない	無回答
総数	2124	30.2%	23.4%	2.5%	20.2%	3.2%	5.8%	8.4%	1.0%	2.6%	2.5%
性別											
女性	1153	16.2%	36.0%	2.1%	19.9%	2.2%	8.0%	9.5%	1.0%	2.9%	2.3%
男性	971	46.9%	8.5%	3.0%	20.6%	4.4%	3.3%	7.2%	0.9%	2.4%	2.8%
性*年齢											
20歳代	215	39.1%	14.9%	8.4%	10.2%	5.6%	3.3%	4.2%	1.9%	9.8%	2.8%
30歳代	399	33.8%	27.6%	2.3%	19.3%	2.3%	5.3%	6.0%	1.3%	1.5%	0.8%
40歳代	458	33.0%	26.9%	0.7%	19.9%	2.6%	4.6%	7.6%	0.9%	2.0%	2.0%
50歳代	476	31.7%	21.4%	1.5%	25.2%	3.8%	4.8%	8.4%	0.6%	1.1%	1.5%
60歳代	386	25.6%	22.0%	2.1%	23.6%	3.1%	8.3%	10.1%	0.8%	1.3%	3.1%
70歳以上	190	11.6%	24.2%	4.2%	15.3%	2.6%	10.5%	16.8%	1.1%	5.3%	8.4%
女性											
女性20歳代	122	33.6%	19.7%	6.6%	9.8%	5.7%	4.1%	4.1%	1.6%	9.8%	4.9%
女性30歳代	226	15.9%	43.4%	0.9%	21.2%	0.9%	8.0%	6.6%	0.9%	0.9%	1.3%
女性40歳代	274	14.6%	41.6%	1.1%	21.2%	1.1%	6.6%	8.4%	1.5%	2.2%	1.8%
女性50歳代	248	18.5%	35.1%	1.2%	21.8%	2.0%	6.9%	12.1%	0.8%	0.8%	0.8%
女性60歳代	187	9.6%	34.2%	1.1%	24.1%	2.1%	12.3%	11.8%	0.5%	2.7%	1.6%
女性70歳以上	96	6.3%	29.2%	6.3%	13.5%	4.2%	11.5%	14.6%	1.0%	6.3%	7.3%
男性											
男性20歳代	93	46.2%	8.6%	10.8%	10.8%	5.4%	2.2%	4.3%	2.2%	9.7%	0.0%
男性30歳代	173	57.2%	6.9%	4.0%	16.8%	4.0%	1.7%	5.2%	1.7%	2.3%	0.0%
男性40歳代	184	60.3%	4.9%	0.0%	17.9%	4.9%	1.6%	6.5%	0.0%	1.6%	2.2%
男性50歳代	228	46.1%	6.6%	1.8%	28.9%	5.7%	2.6%	4.4%	0.4%	1.3%	2.2%
男性60歳代	199	40.7%	10.6%	3.0%	23.1%	4.0%	4.5%	8.5%	1.0%	0.0%	4.5%
男性70歳以上	94	17.0%	19.1%	2.1%	17.0%	1.1%	9.6%	19.1%	1.1%	4.3%	9.6%

【他調査との比較】

全国調査と比較すると、「仕事を優先している」と回答した人の割合は高くなっており、「家庭生活を優先している」と回答した人の割合は低くなっている。

図9-4 仕事、家庭生活、地域・個人の生活への関わり方(B 現実として)

【他調査との比較】



10 地域活動への参加経験

「地域活動への参加経験がある」（「現在参加している」＋「かつて参加していたが現在は中止している」以下同じ）と回答した人の割合は 61.5%となっている。また、「参加したことはない」と回答した人の割合は 37.1%となっている。

【性・年齢別】

性別に見ると、「地域活動への参加経験がある」と回答した人の割合は、男性（54.9%）より女性（67.1%）の方が高くなっている。

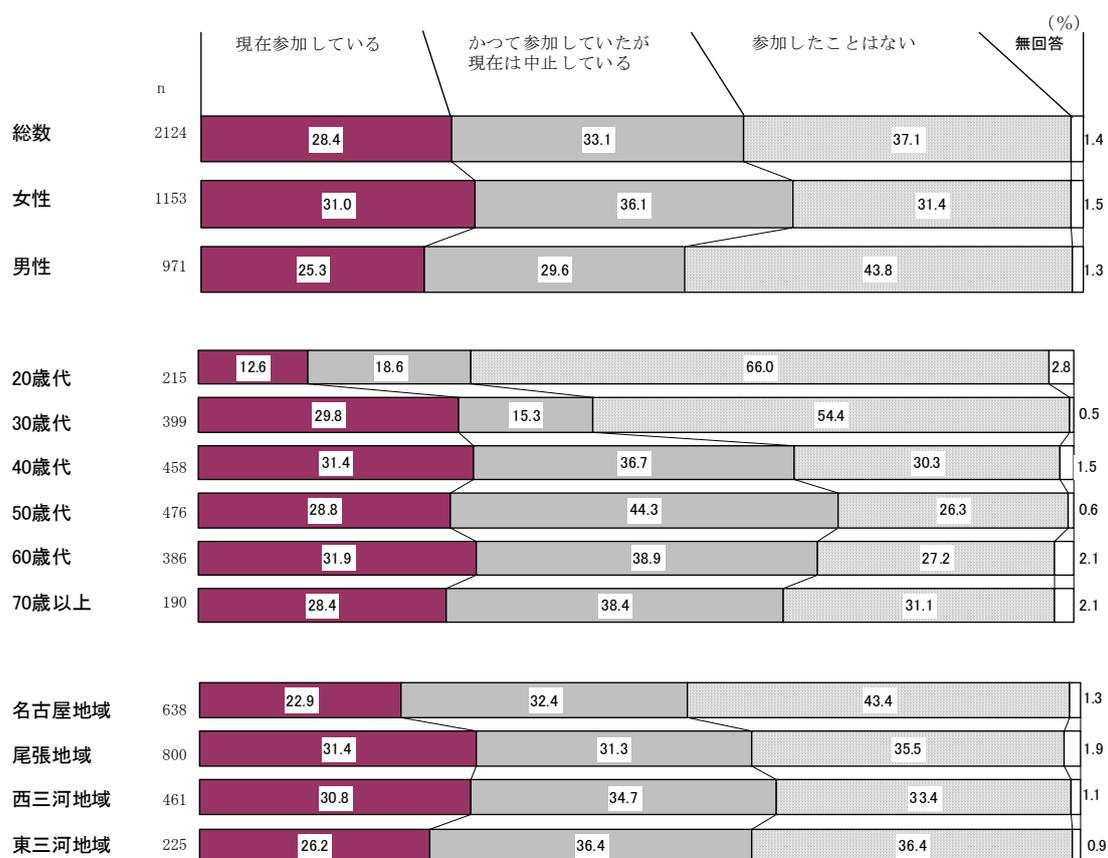
年齢別に見ると、「地域活動への参加経験がある」と回答した人の割合は、40歳代（68.1%）、50歳代（73.1%）、60歳代（70.8%）で高くなっている。また、「現在参加している」と回答した人の割合は、60歳代で最も高くなっている。

【地域別】

地域別に見ると、「参加したことはない」と回答した人の割合は、名古屋地域で高くなっている。

図10-1 地域活動への参加経験

【総数、性別、年齢別、地域別】

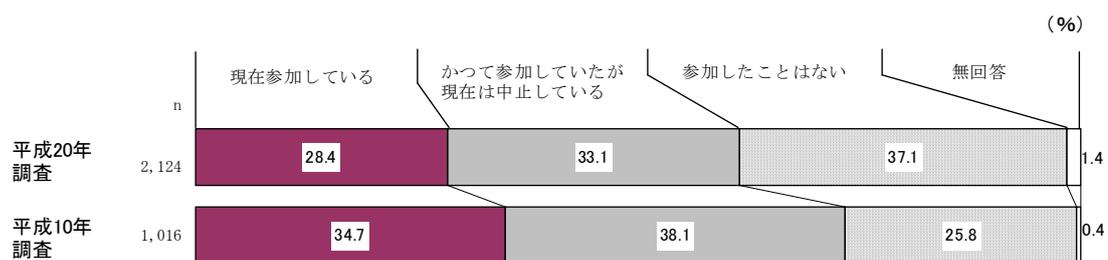


【他調査との比較】

前回調査と比較すると、「地域活動への参加経験がある」(72.8%→61.5%)と回答した人の割合は低下しており、「参加したことはない」(25.8%→37.1%)と回答した人の割合は上昇している。

図10-2 地域活動への参加経験

【他調査との比較】



(1) 参加したことがある活動（複数回答）

参加経験がある人のうち、「町内会や自治会」と回答した人の割合が 59.1%と最も高く、次いで「PTAや子ども会」（54.2%）、「教養・趣味・スポーツのサークル」（44.5%）の順となっている。

【性・年齢別】

性別に見ると、「PTAや子ども会」と回答した人の割合は、女性より男性の方が大幅に低くなっている。

年齢別に見ると、「町内会や自治会」と回答した人の割合は、50歳代、60歳代で高くなっている。

性・年齢別に見ると、「PTAや子ども会」と回答した人の割合は、女性40歳代（87.7%）・50歳代（79.4%）で高くなっている。

図10-3 参加したことがある活動

【総数、性別】

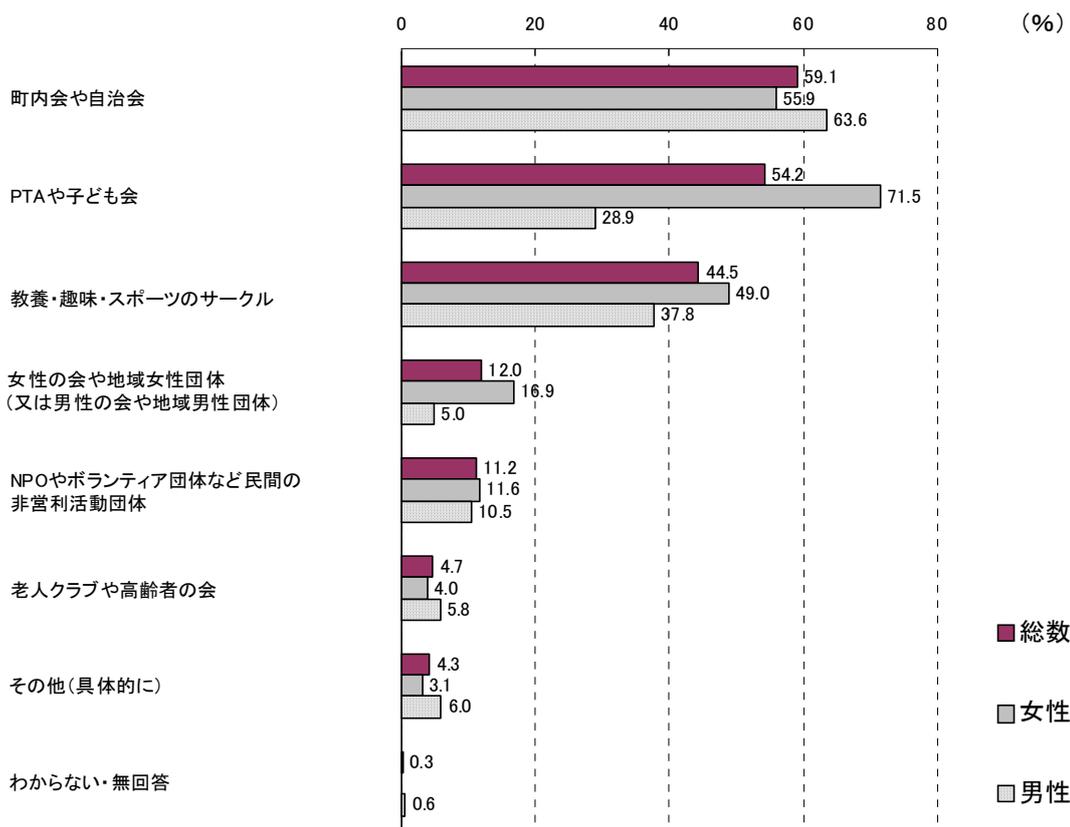


図10-4 参加したことがある活動

【年齢別】

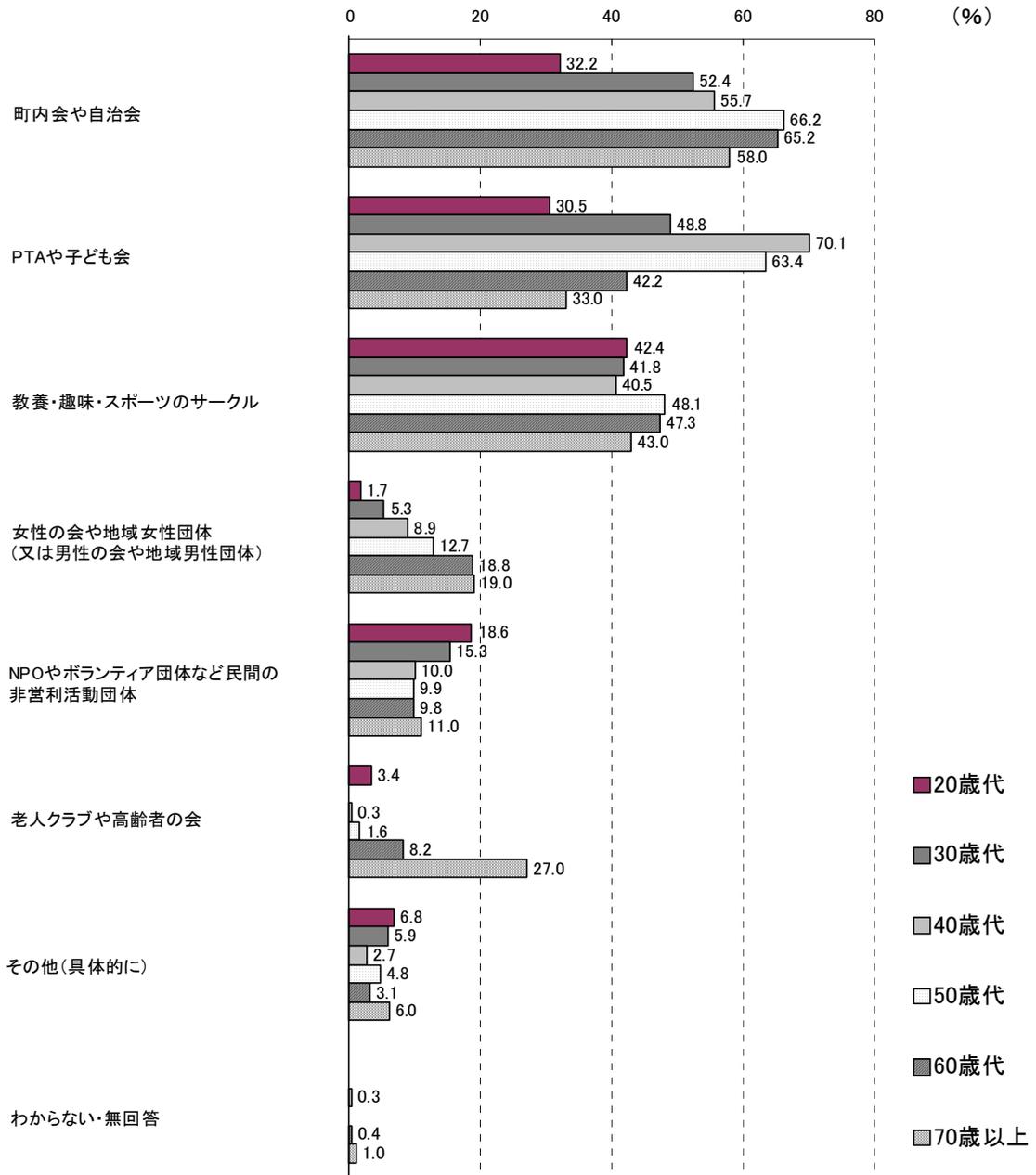


表10 参加したことがある活動【性・年齢別】

問10(1)(%)	サンプル数	P T A や子ども会	女性の会や地域女性団体（又は男性の会や地域男性団体）	町内会・自治会	老人クラブや高齢者の会	N P O やボランティア団体などの民間の非営利団体	教養・趣味スポーツのサークル	その他（具体的に）	わからない
総数	1190	54.2%	12.0%	59.1%	4.7%	11.2%	44.5%	4.3%	0.3%
性別									
女性	706	71.5%	16.9%	55.9%	4.0%	11.6%	49.0%	3.1%	0.0%
男性	484	28.9%	5.0%	63.6%	5.8%	10.5%	37.8%	6.0%	0.6%
性 * 年齢									
20歳代	59	30.5%	1.7%	32.2%	3.4%	18.6%	42.4%	6.8%	0.0%
30歳代	170	48.8%	5.3%	52.4%	0.0%	15.3%	41.8%	5.9%	0.0%
40歳代	291	70.1%	8.9%	55.7%	0.3%	10.0%	40.5%	2.7%	0.3%
50歳代	314	63.4%	12.7%	66.2%	1.6%	9.9%	48.1%	4.8%	0.0%
60歳代	256	42.2%	18.8%	65.2%	8.2%	9.8%	47.3%	3.1%	0.4%
70歳以上	100	33.0%	19.0%	58.0%	27.0%	11.0%	43.0%	6.0%	1.0%
女性									
女性20歳代	31	41.9%	0.0%	25.8%	0.0%	22.6%	38.7%	6.5%	0.0%
女性30歳代	114	64.0%	4.4%	55.3%	0.0%	14.0%	42.1%	3.5%	0.0%
女性40歳代	195	87.7%	12.8%	53.3%	0.5%	9.7%	42.1%	2.6%	0.0%
女性50歳代	189	79.4%	17.5%	64.0%	1.1%	11.6%	56.1%	3.7%	0.0%
女性60歳代	130	60.0%	33.1%	57.7%	10.0%	9.2%	58.5%	3.1%	0.0%
女性70歳以上	47	42.6%	27.7%	51.1%	25.5%	12.8%	46.8%	0.0%	0.0%
男性									
男性20歳代	28	17.9%	3.6%	39.3%	7.1%	14.3%	46.4%	7.1%	0.0%
男性30歳代	56	17.9%	7.1%	46.4%	0.0%	17.9%	41.1%	10.7%	0.0%
男性40歳代	96	34.4%	1.0%	60.4%	0.0%	10.4%	37.5%	3.1%	1.0%
男性50歳代	125	39.2%	5.6%	69.6%	2.4%	7.2%	36.0%	6.4%	0.0%
男性60歳代	126	23.8%	4.0%	73.0%	6.3%	10.3%	35.7%	3.2%	0.8%
男性70歳以上	53	24.5%	11.3%	64.2%	28.3%	9.4%	39.6%	11.3%	1.9%

(2) 今後参加したい活動（複数回答）

「教養・趣味・スポーツのサークル」と回答した人の割合が50.6%と最も高く、次いで「NPOやボランティア団体など民間の非営利活動団体」（13.5%）、「町内会や自治会」（13.3%）の順となっている。また、「いずれも参加したくない」と回答した人の割合も13.5%となっている。

【性・年齢別】

性別に見ると、「町内会や自治会」と回答した人の割合は、女性より男性の方が高くなっている。

年齢別に見ると、「NPOやボランティア団体など民間の非営利活動団体」と回答した人の割合は、他の年齢層に比べ20歳代、50歳代で高くなっている。

図10-5 今後参加したい活動

【総数、性別】

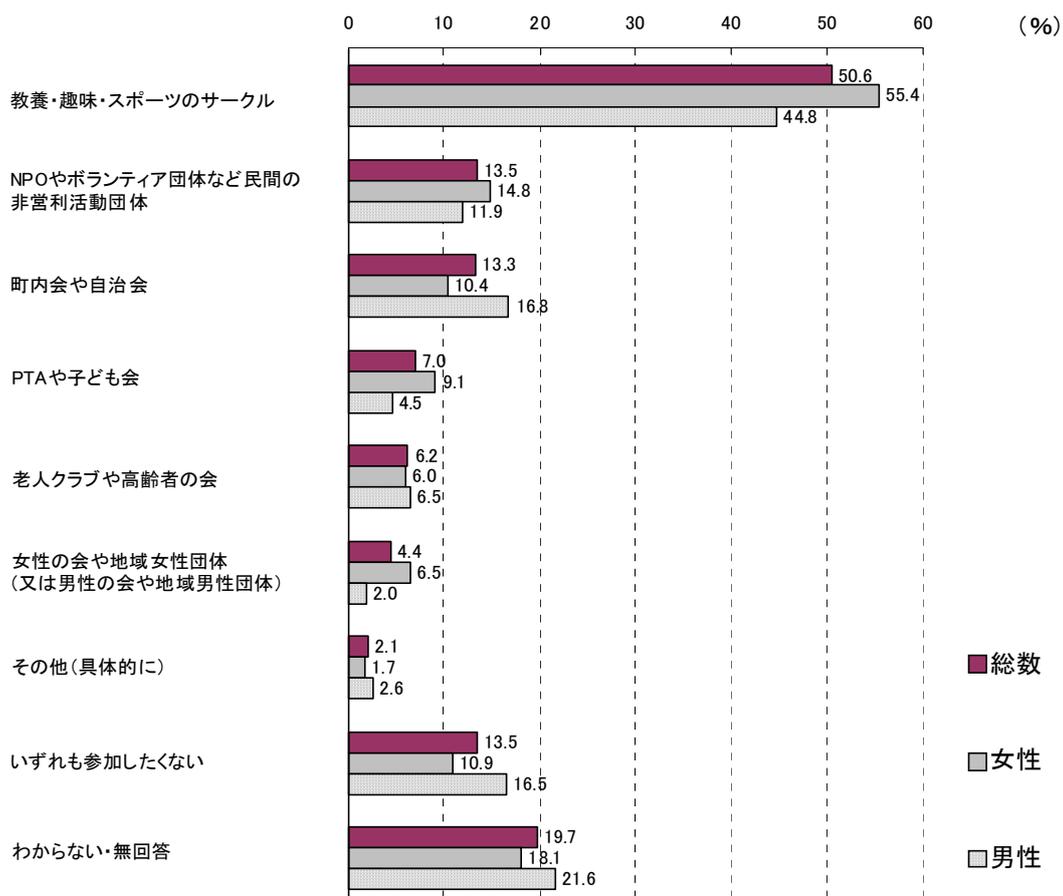
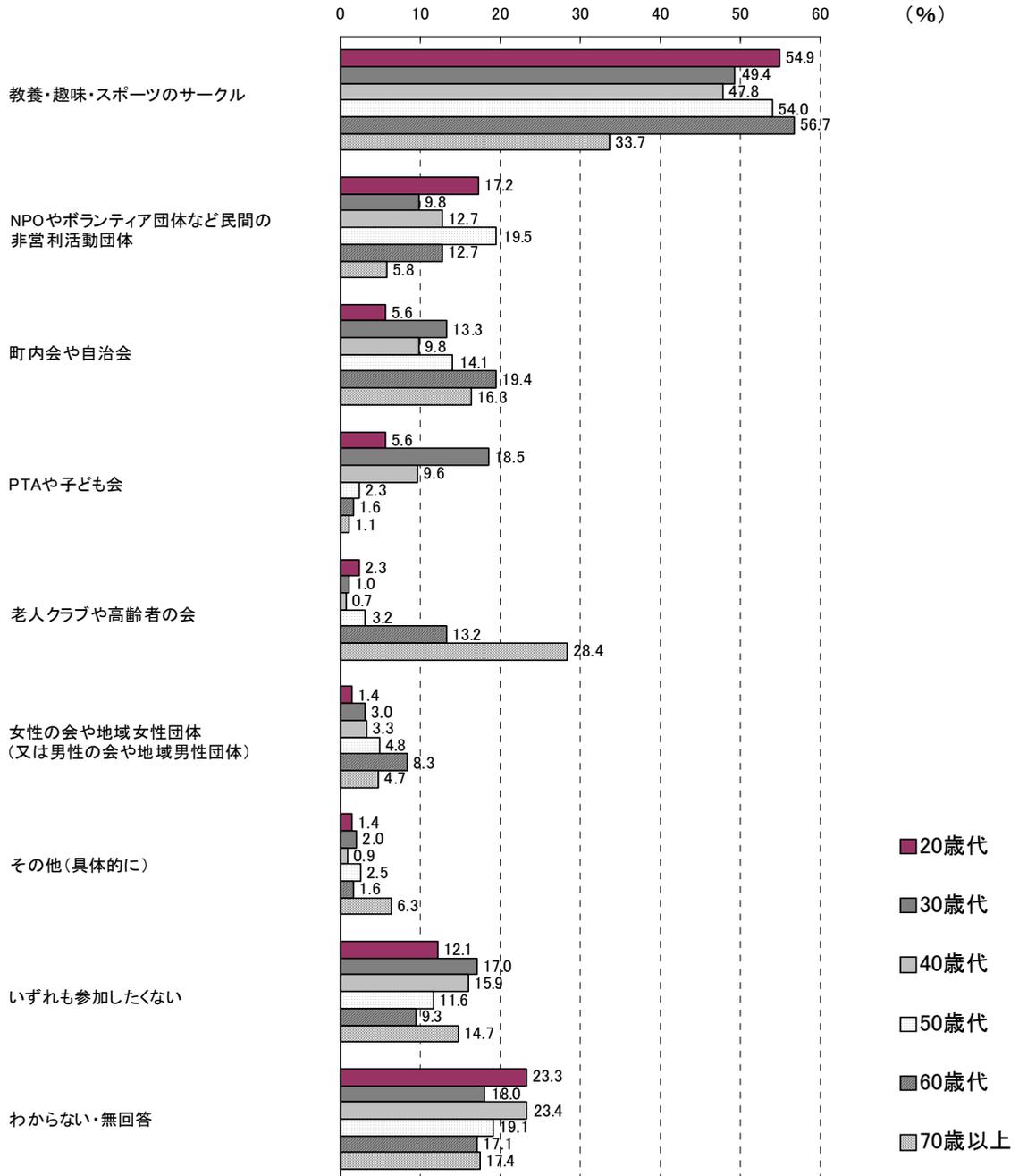


図10-6 今後参加したい活動
【年齢別】



1.1 今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと（複数回答）

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」と回答した人の割合が 57.3%と最も高く、次いで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」(50.3%)、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高める」(42.9%)、「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」(42.8%)の順となっている。

【性・年齢別】

性別に見ると、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高める」、「年配者やまわりの方が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重する」と回答した人の割合は、男性より女性の方が高くなっている。

年齢別に見ると、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高める」、「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」と回答した人の割合は、他の年齢層に比べ 20 歳代、30 歳代で高くなっている。

図11-1 今後、男女が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと

【総数、性別】

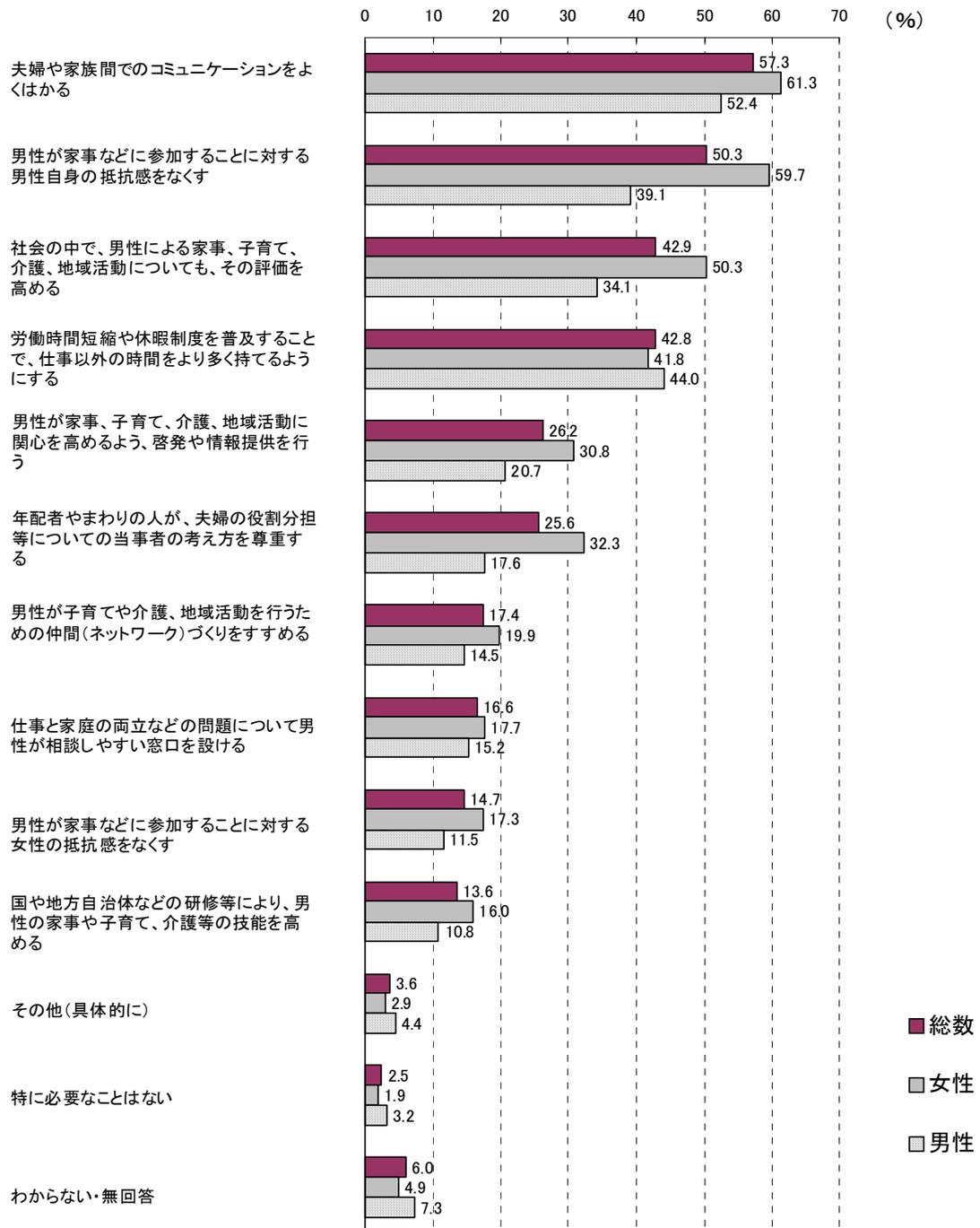
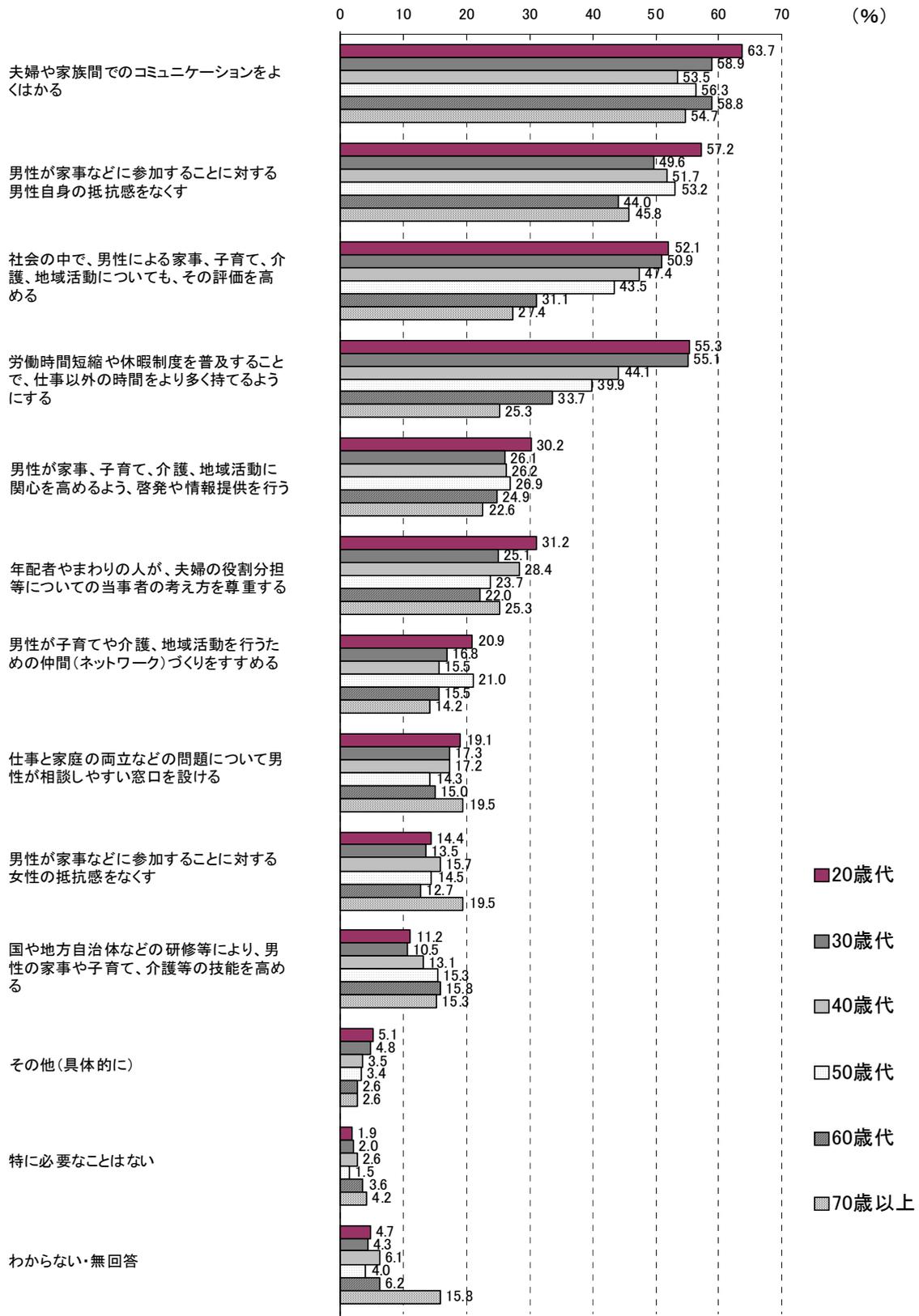


図11-2 今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと

【年齢別】

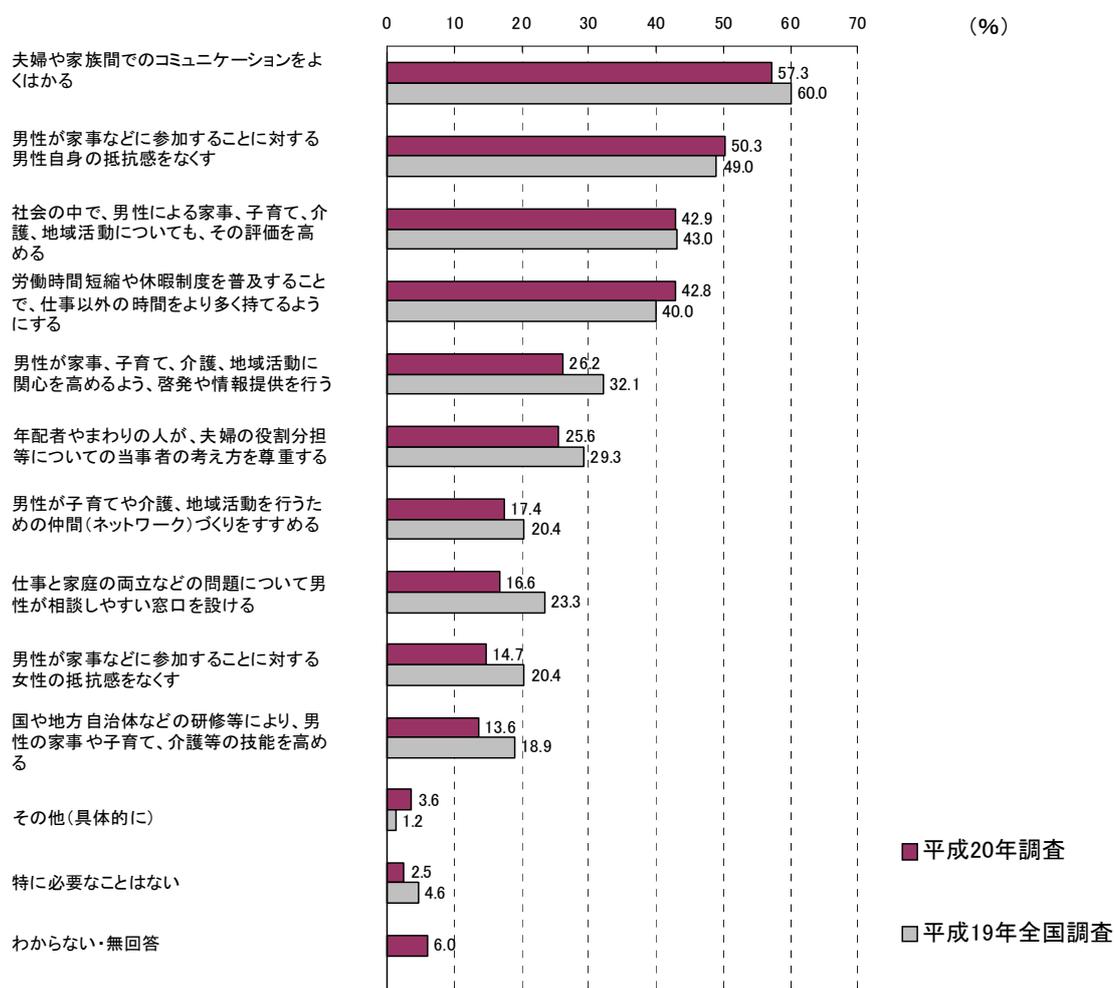


【他調査との比較】

全国調査と比較すると、全国調査と同じく「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」と回答した人の割合が最も高く、以下の項目についても、ほぼ全国と同じ順に高くなっている。

図11-3 今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと

【他調査との比較】



<ドメスティック・バイオレンス（DV）などについて>

12 DVに関する認知度（複数回答）

「配偶者や恋人など親密な関係の人から受ける暴力を、いわゆる「ドメスティック・バイオレンス（DV）」と呼ぶこと」を知っていると回答した人の割合は83.0%となっている。また、「DVには、殴る、蹴るなど身体的暴力だけでなく、精神的・性的暴力も含まれること」を知っていると回答した人の割合は75.5%、「DV被害者を支援するために、法律（「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」）が制定されていること」を知っていると回答した人の割合は55.7%となっている。

【性・年齢別】

性別に見ると、ほとんどの項目で知っていると回答した人の割合は、女性の方が高くなっている。

年齢別に見ると、60歳代、70歳以上では、ほとんどの項目で知っていると回答した人の割合が低くなっている。

図12-1 DVに関する認知度

【総数、性別】

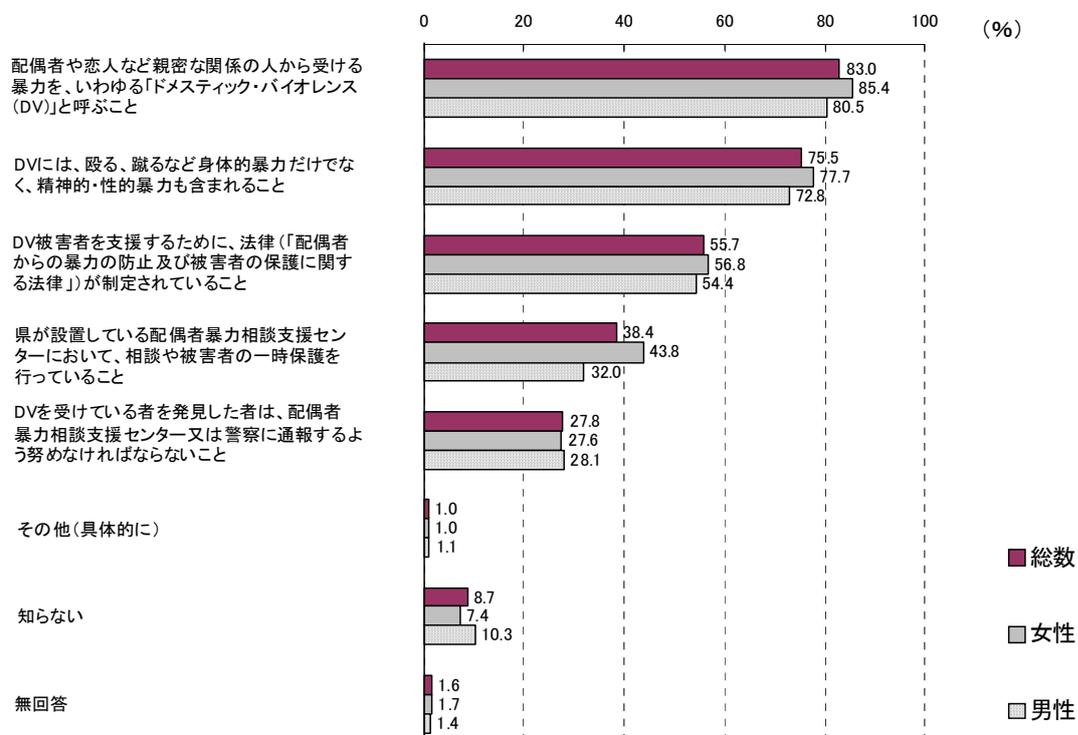
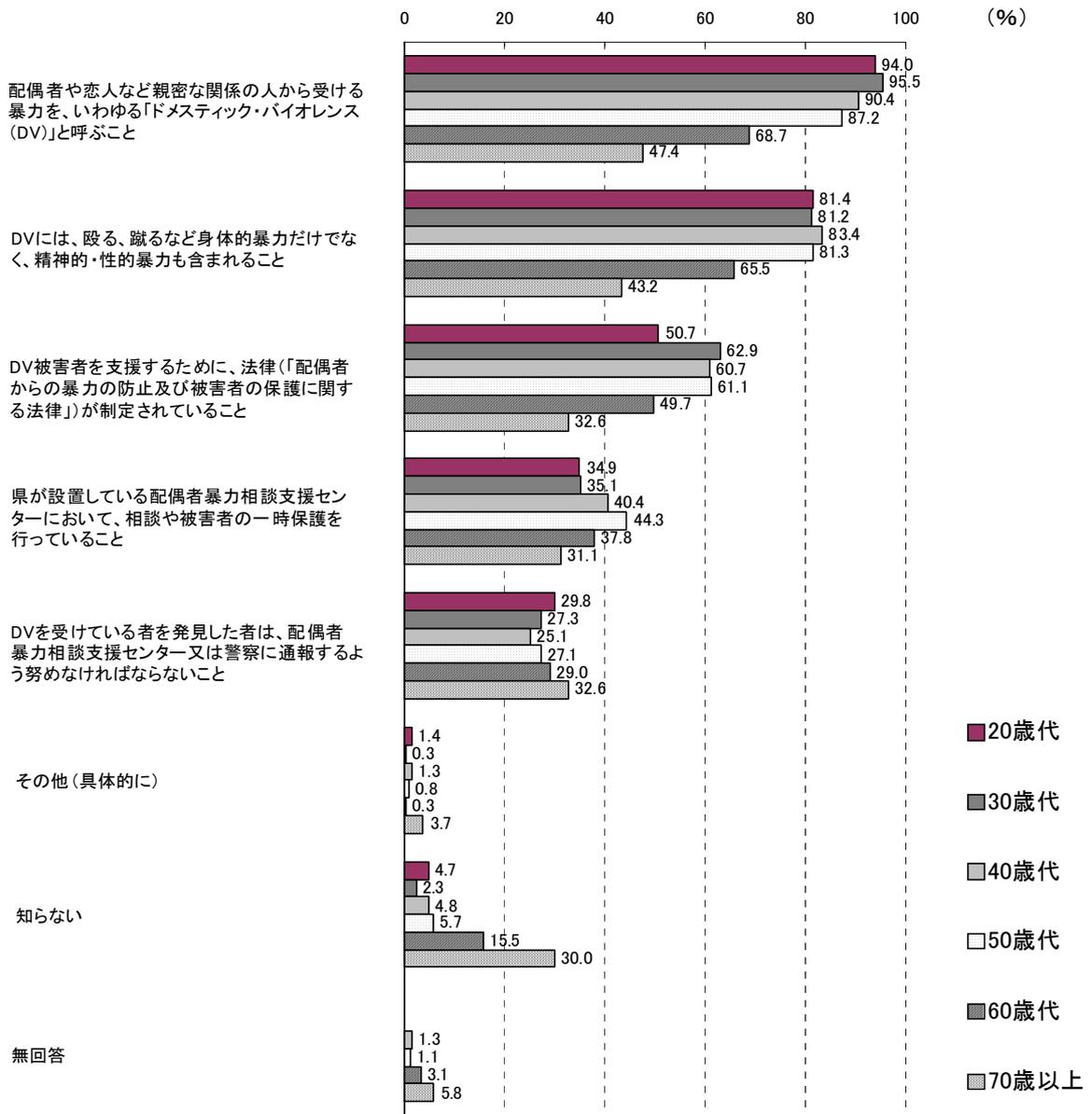


図12-2 DVに関する認知度

【年齢別】



1.3 DVに関する相談窓口の認知度

「知っている」と回答した人の割合は52.7%、「知らない」と回答した人の割合は46.1%と、「知っている」が「知らない」を上回っている。

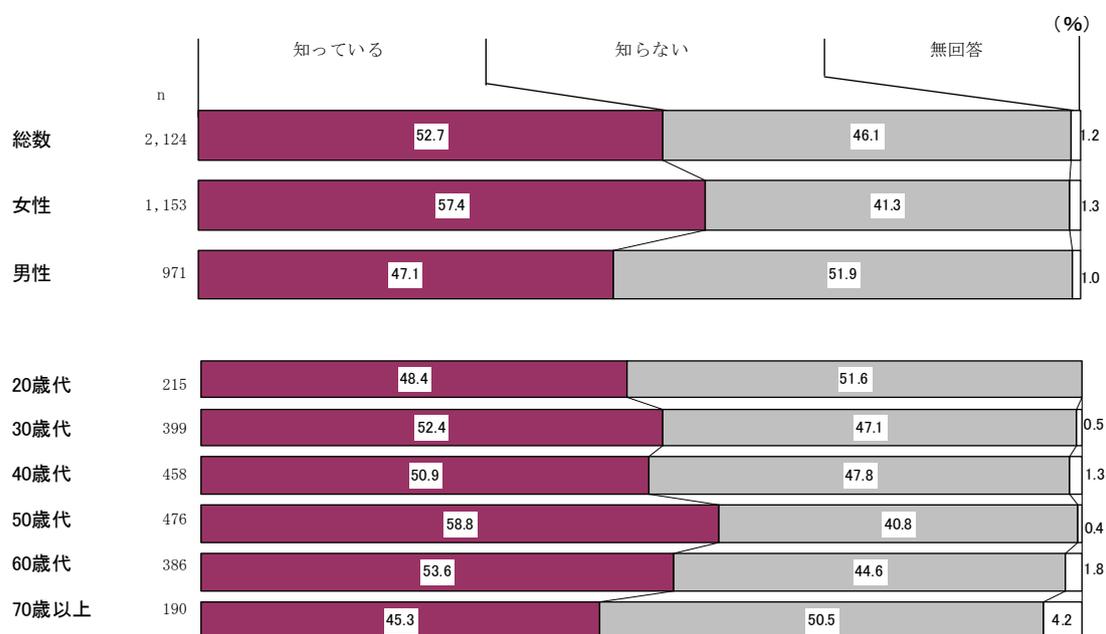
【性・年齢別】

性別に見ると、大きな差異は見られない。

年齢別に見ると、20歳代、70歳以上では、「知らない」と回答した人の割合が半数を超えている。

図13-1 DVに関する相談窓口の認知度

【総数、性別、年齢別】



(1) 知っている相談窓口（複数回答）

相談窓口を知っている人のうち、「警察」と回答した人の割合が 78.9%と最も高く、次いで「市役所、町村役場」（45.0%）、「配偶者暴力相談支援センター（愛知県女性相談センター）」（32.0%）の順となっている。

【性・年齢別】

性別に見ると、大きな差異は見られない。

年齢別に見ると、大きな差異は見られない。

図13-2 DVIに関する相談窓口の認知度

【総数、性別】

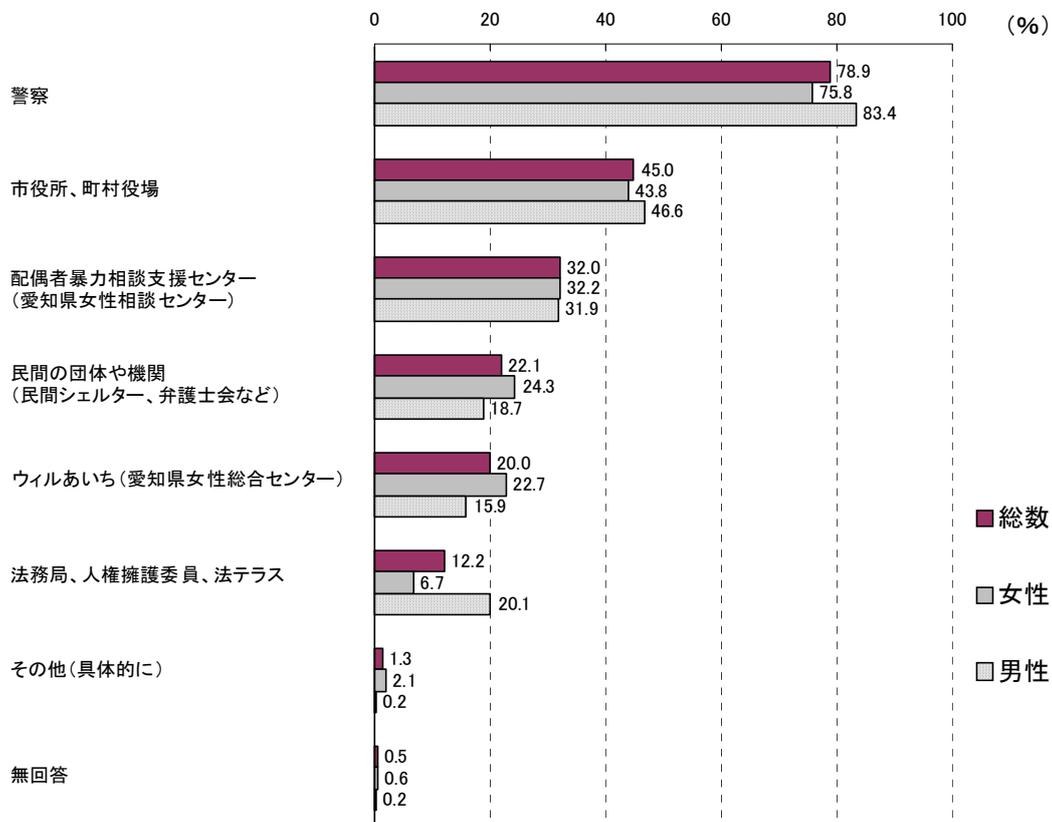
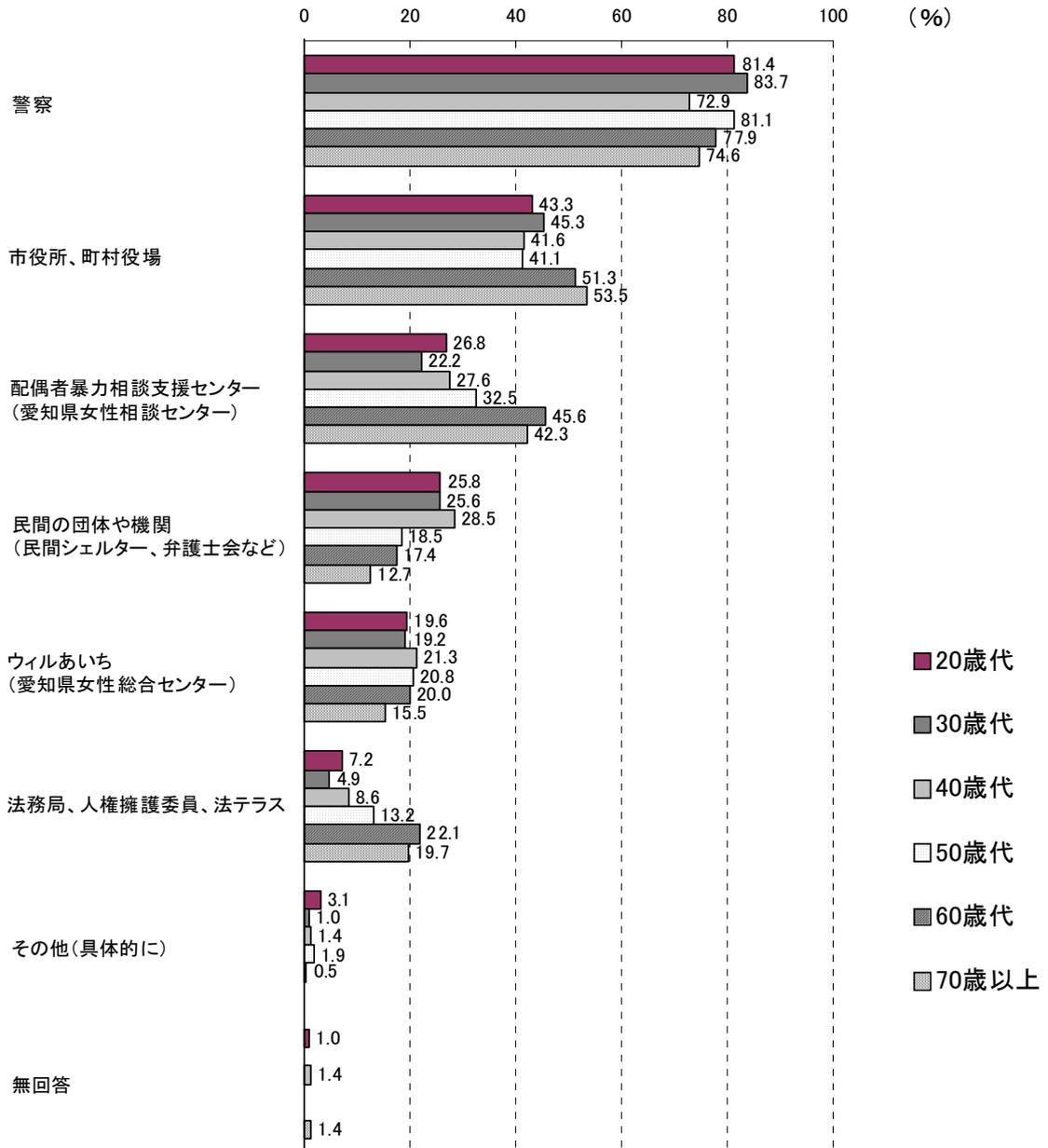


図13-3 DVに関する相談窓口の認知度

【年齢別】



14 DV、セクシュアル・ハラスメント、性犯罪、売買春などを防止するために必要なこと (複数回答)

「捜査や裁判での担当者に女性を増やすなど、被害者が届けやすいようにする」と回答した人の割合が 50.1%と最も高く、次いで「法律・制度の面で見直しを行う（罰則の強化など）」(48.6%)、「被害者のための相談窓口や保護施設を整備する」(44.8%)の順となっている。

【性・年齢別】

性別に見ると、「捜査や裁判での担当者に女性を増やすなど、被害者が届けやすいようにする」、「被害者のための相談窓口や保護施設を整備する」、「加害者に対するカウンセリングや更正を促すプログラムを実施する」と回答した人の割合は、男性より女性の方が大幅に高くなっている。

年齢別に見ると、「捜査や裁判での担当者に女性を増やすなど、被害者が届けやすいようにする」と回答した人の割合は、20歳代で高くなっている。また、「法律・制度の面で見直しを行う（罰則の強化など）」と回答した人の割合は、20歳代、30歳代で高くなっている。

性・年齢別に見ると、「捜査や裁判での担当者に女性を増やすなど、被害者が届けやすいようにする」と回答した人の割合は、女性20歳代(70.5%)で最も高くなっている。

図14-1 DV、セクシュアル・ハラスメント、性犯罪、売買春などを防止するために必要なこと

【総数、性別】

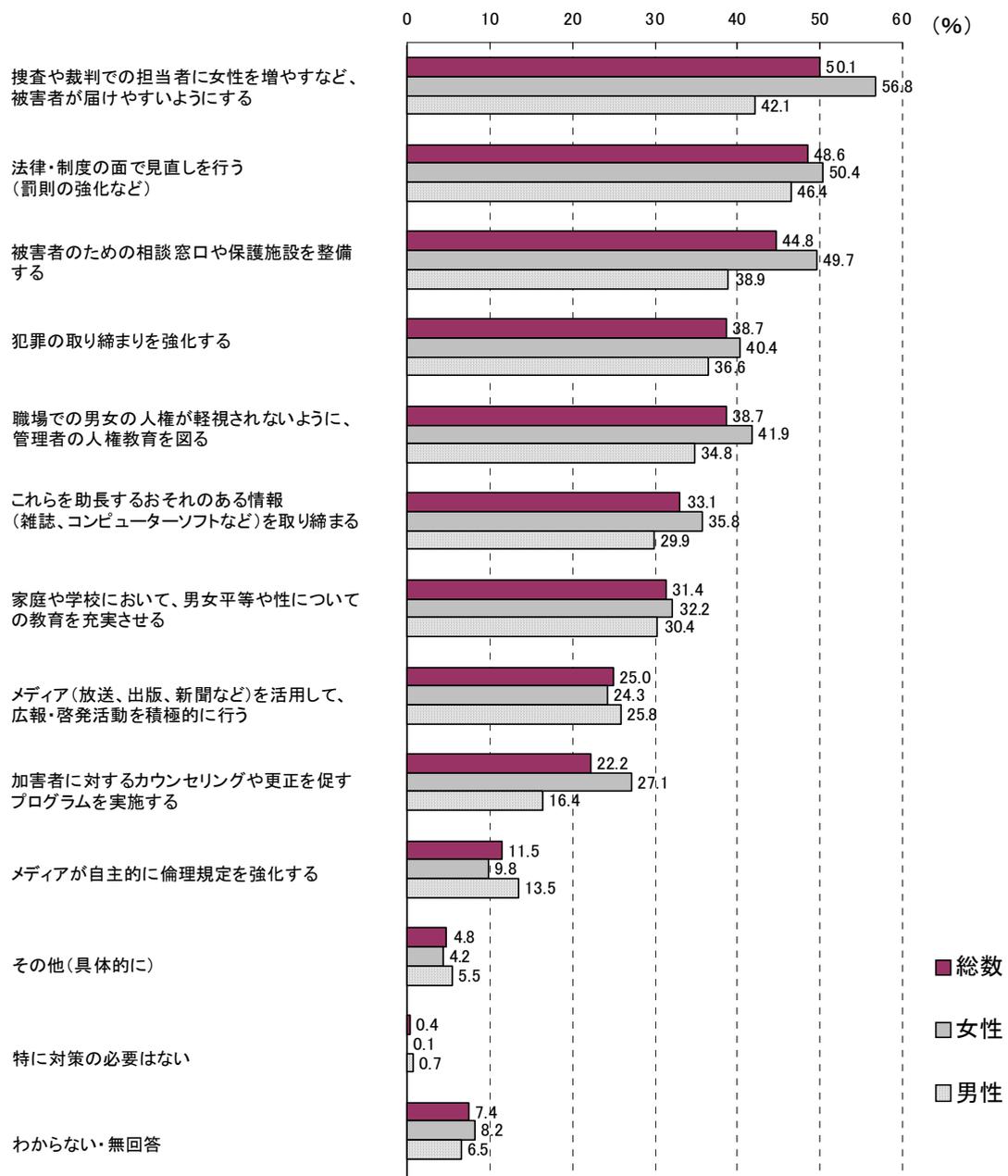


図14-2 DV、セクシュアル・ハラスメント、性犯罪、売買春などを防止するために必要なこと

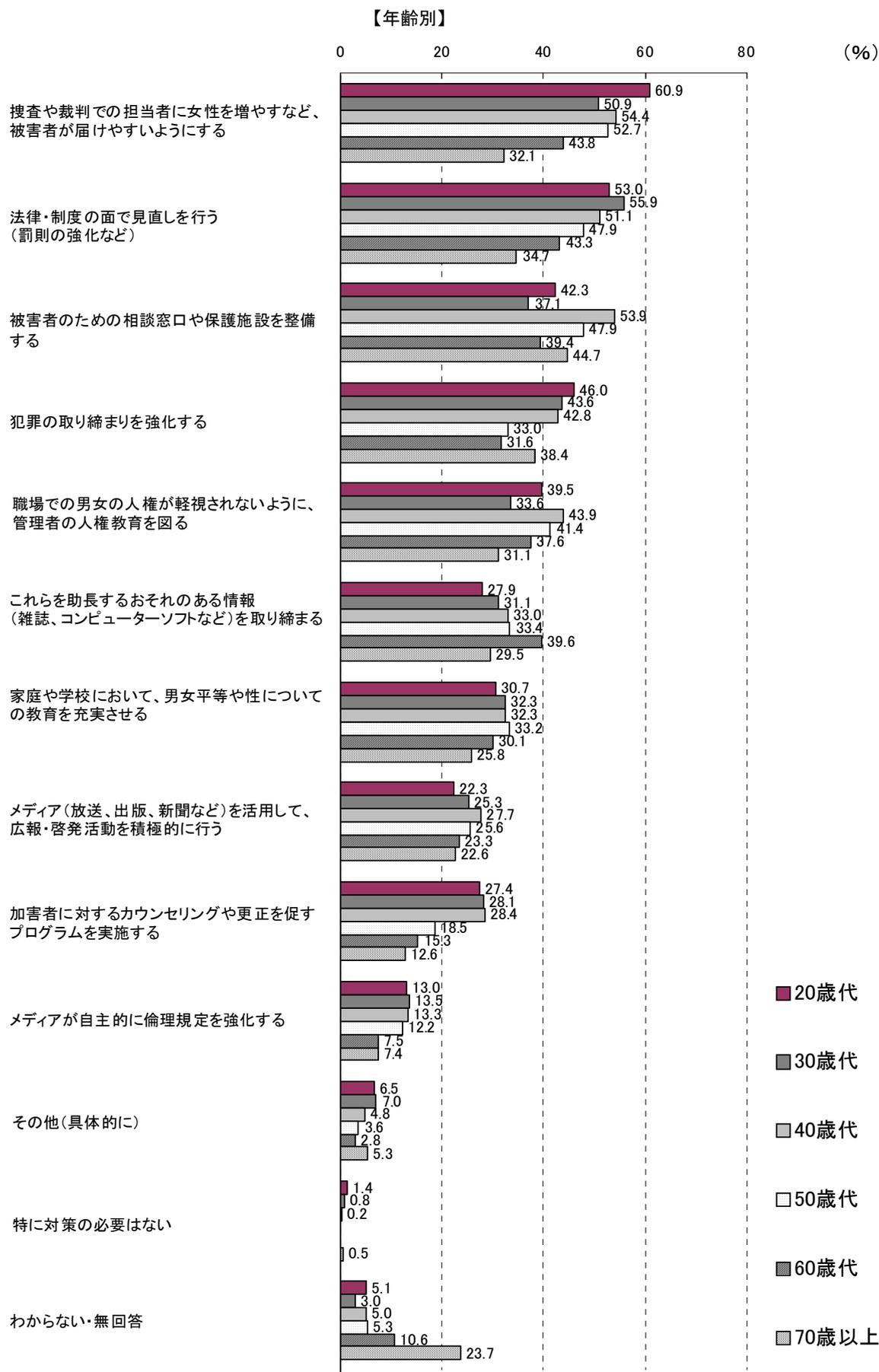


表14 DV、セクシュアル・ハラスメント、性犯罪、売買春などを防止するために必要なこと【性・年齢別】

問14(%)	サンプル数	法律・制度の強化など (罰則の強化の面で見直しを行う)	犯罪の取締りを強化する	捜査や裁判での担当者に女性を増やすなど、被害者が届けやすいようにする	メディア(放送、出版、新聞活動など)を活用して、広報。啓発活動を積極的に行う	被害者のための相談窓口や保健施設を整備する	家庭や学校において、男女平等や性についての教育を充実させる	加害者に対するカウンセリングや更正を促すプログラムを実施する	職場での男女の権利が軽視されないように、管理者の権利教育を図る	メディアが自主的に倫理規定を強化する	これらを助長するおそれのある情報(雑誌、コンピュータソフトなど)を取り締まる	その他(具体的に)	特に対策の必要はない	わからない	無回答
総数	2124	48.6%	38.7%	50.1%	25.0%	44.8%	31.4%	22.2%	38.7%	11.5%	33.1%	4.8%	0.4%	5.8%	1.6%
性別															
女性	1153	50.4%	40.4%	56.8%	24.3%	49.7%	32.2%	27.1%	41.9%	9.8%	35.8%	4.2%	0.1%	6.4%	1.7%
男性	971	46.4%	36.6%	42.1%	25.8%	38.9%	30.4%	16.4%	34.8%	13.5%	29.9%	5.5%	0.7%	5.1%	1.3%
性*年齢															
20歳代	215	53.0%	46.0%	60.9%	22.3%	42.3%	30.7%	27.4%	39.5%	13.0%	27.9%	6.5%	1.4%	5.1%	0.0%
30歳代	399	55.9%	43.6%	50.9%	25.3%	37.1%	32.3%	28.1%	33.6%	13.5%	31.1%	7.0%	0.8%	2.5%	0.5%
40歳代	458	51.1%	42.8%	54.4%	27.7%	53.9%	32.3%	28.4%	43.9%	13.3%	33.0%	4.8%	0.2%	3.7%	1.3%
50歳代	476	47.9%	33.0%	52.7%	25.6%	47.9%	33.2%	18.5%	41.4%	12.2%	33.4%	3.6%	0.0%	4.4%	0.8%
60歳代	386	43.3%	31.6%	43.8%	23.3%	39.4%	30.1%	15.3%	37.6%	7.5%	39.6%	2.8%	0.0%	7.5%	3.1%
70歳以上	190	34.7%	38.4%	32.1%	22.6%	44.7%	25.8%	12.6%	31.1%	7.4%	29.5%	5.3%	0.5%	18.9%	4.7%
女性															
女性20歳代	122	55.7%	48.4%	70.5%	24.6%	48.4%	32.8%	34.4%	43.4%	12.3%	36.1%	4.9%	0.0%	3.3%	0.0%
女性30歳代	226	56.6%	47.3%	61.5%	25.2%	41.2%	35.8%	31.9%	35.8%	9.7%	35.0%	7.1%	0.0%	2.2%	0.9%
女性40歳代	274	54.7%	44.2%	59.5%	29.2%	60.2%	32.1%	33.9%	48.2%	12.4%	38.0%	3.3%	0.0%	2.6%	2.2%
女性50歳代	248	54.0%	35.5%	62.5%	23.0%	53.2%	32.3%	23.8%	49.2%	10.9%	38.7%	3.6%	0.0%	4.8%	0.8%
女性60歳代	187	39.6%	31.6%	46.0%	24.1%	43.9%	30.5%	18.7%	38.5%	5.3%	36.4%	3.2%	0.0%	10.7%	2.7%
女性70歳以上	96	28.1%	33.3%	27.1%	11.5%	43.8%	26.0%	12.5%	24.0%	5.2%	22.9%	3.1%	1.0%	27.1%	5.2%
男性															
男性20歳代	93	49.5%	43.0%	48.4%	19.4%	34.4%	28.0%	18.3%	34.4%	14.0%	17.2%	8.6%	3.2%	7.5%	0.0%
男性30歳代	173	54.9%	38.7%	37.0%	25.4%	31.8%	27.7%	23.1%	30.6%	18.5%	26.0%	6.9%	1.7%	2.9%	0.0%
男性40歳代	184	45.7%	40.8%	46.7%	25.5%	44.6%	32.6%	20.1%	37.5%	14.7%	25.5%	7.1%	0.5%	5.4%	0.0%
男性50歳代	228	41.2%	30.3%	42.1%	28.5%	42.1%	34.2%	12.7%	32.9%	13.6%	27.6%	3.5%	0.0%	3.9%	0.9%
男性60歳代	199	46.7%	31.7%	41.7%	22.6%	35.2%	29.6%	12.1%	36.7%	9.5%	42.7%	2.5%	0.0%	4.5%	3.5%
男性70歳以上	94	41.5%	43.6%	37.2%	34.0%	45.7%	25.5%	12.8%	38.3%	9.6%	36.2%	7.4%	0.0%	10.6%	4.3%

<男女共同参画社会について>

15 男女共同参画社会に関する用語の認知度（複数回答）

「男女雇用機会均等法」を知っていると回答した人の割合は 64.7%となっている。また、「男女共同参画社会基本法」を知っていると回答した人の割合は 21.7%、「ジェンダー（社会的性別）」を知っていると回答した人の割合は 19.6%となっている。また、「知らない」と回答した人の割合も 27.7%となっている。

【性・年齢別】

性別に見ると、大きな差異は見られない。

年齢別に見ると、「男女雇用機会均等法」、「男女共同参画社会基本法」、「ジェンダー（社会的性別）」、「女子差別撤廃条約」を、知っていると回答した人の割合は、他の年齢層に比べ 20 歳代で高くなっている。

図15-1 男女共同参画社会に関する用語の認知度

【総数、性別】

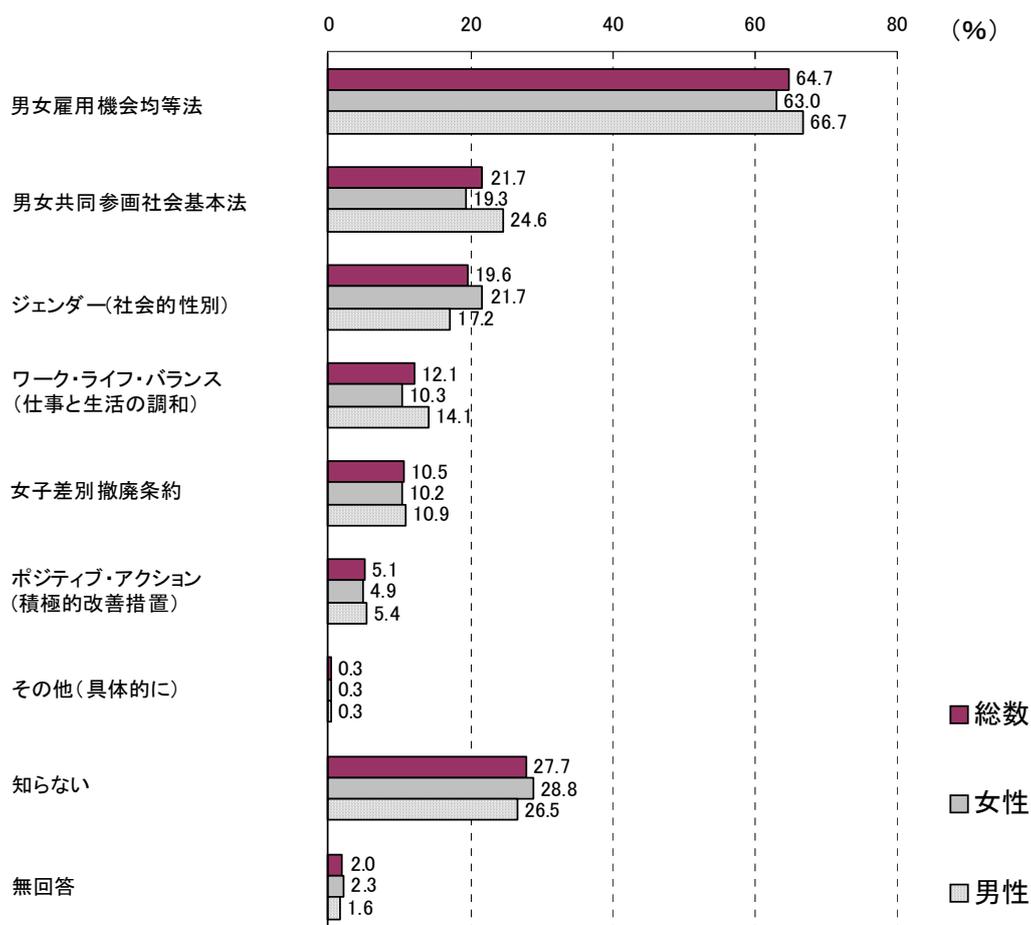
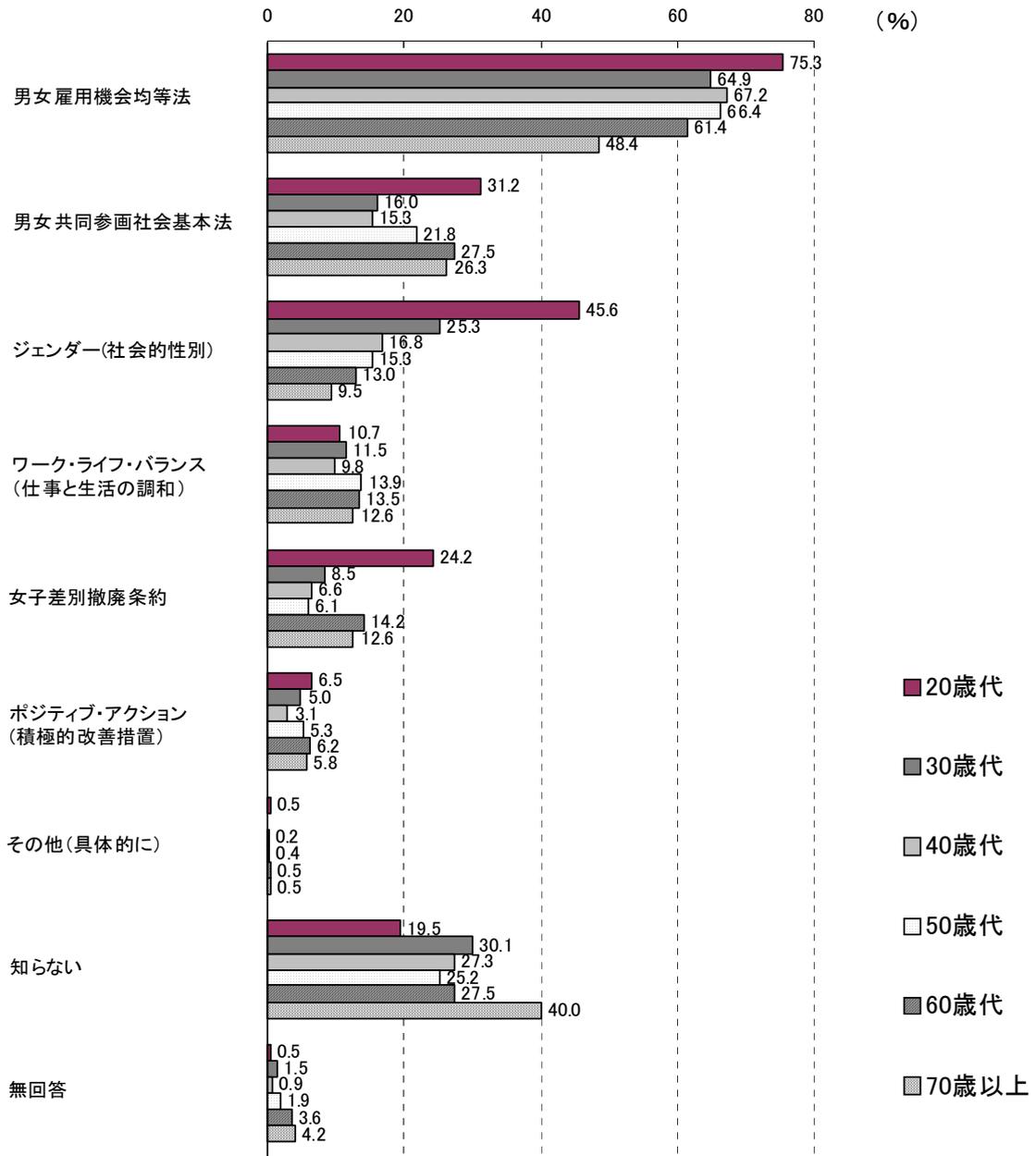


図15-2 男女共同参画社会に関する用語の認知度
【年齢別】

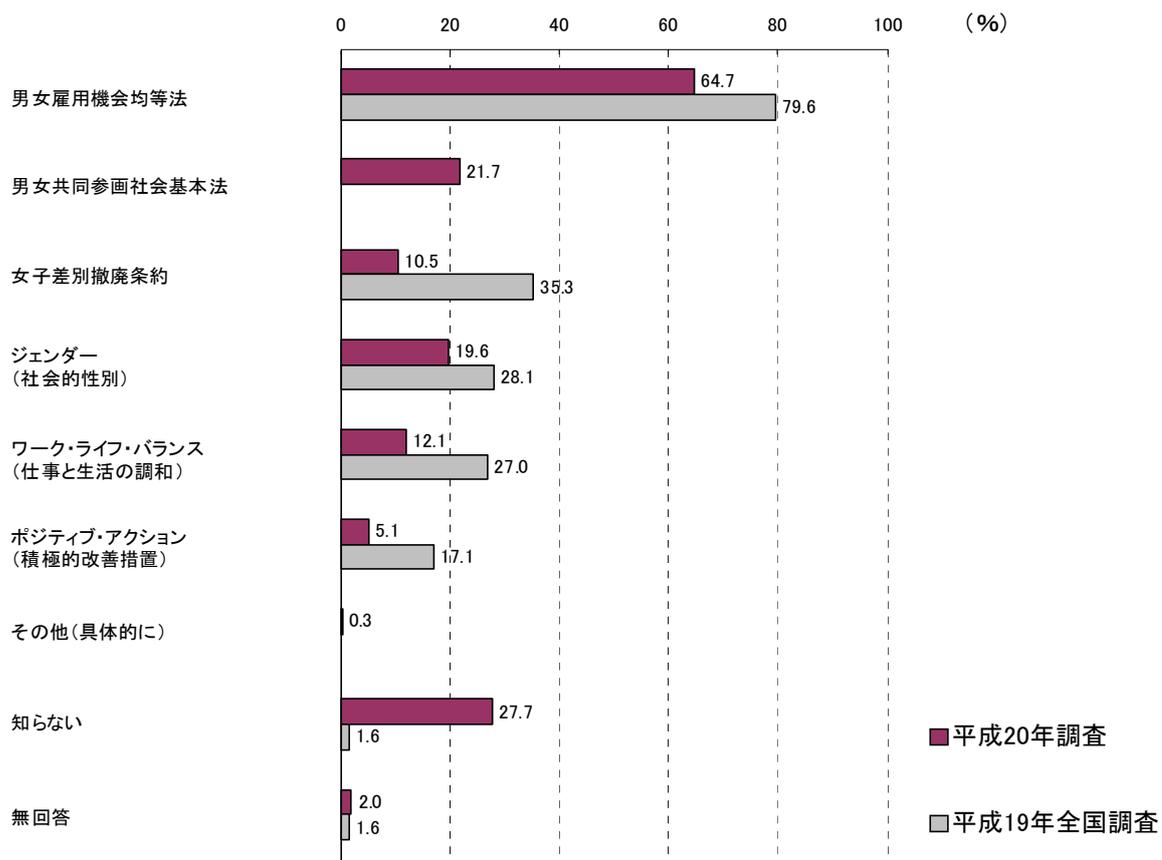


【他調査との比較】

全国調査と比較すると、すべての用語において、知っていると回答した人の割合が低くなっている。

図15-3 男女共同参画社会に関する用語の認知度

【他調査との比較】



16 男女共同参画社会を推進していくために、行政に期待する役割（複数回答）

「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」と回答した人の割合が57.7%と最も高く、次いで「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」（50.1%）、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」（45.1%）の順となっている。

【性・年齢別】

性別に見ると、特に「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」と回答した人の割合は、男性より女性の方が高くなっている。

年齢別に見ると、「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」、「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」と回答した人の割合は、20歳代、30歳代、40歳代で高くなっている。また、「労働時間の短縮や、在宅勤務、柔軟な労働時間制度など、男性も含めた働き方の見直しを進める」と回答した人の割合は、20歳代、30歳代で高くなっている。

図16-1 男女共同参画社会を推進していくために、行政に期待する役割

【総数、性別】

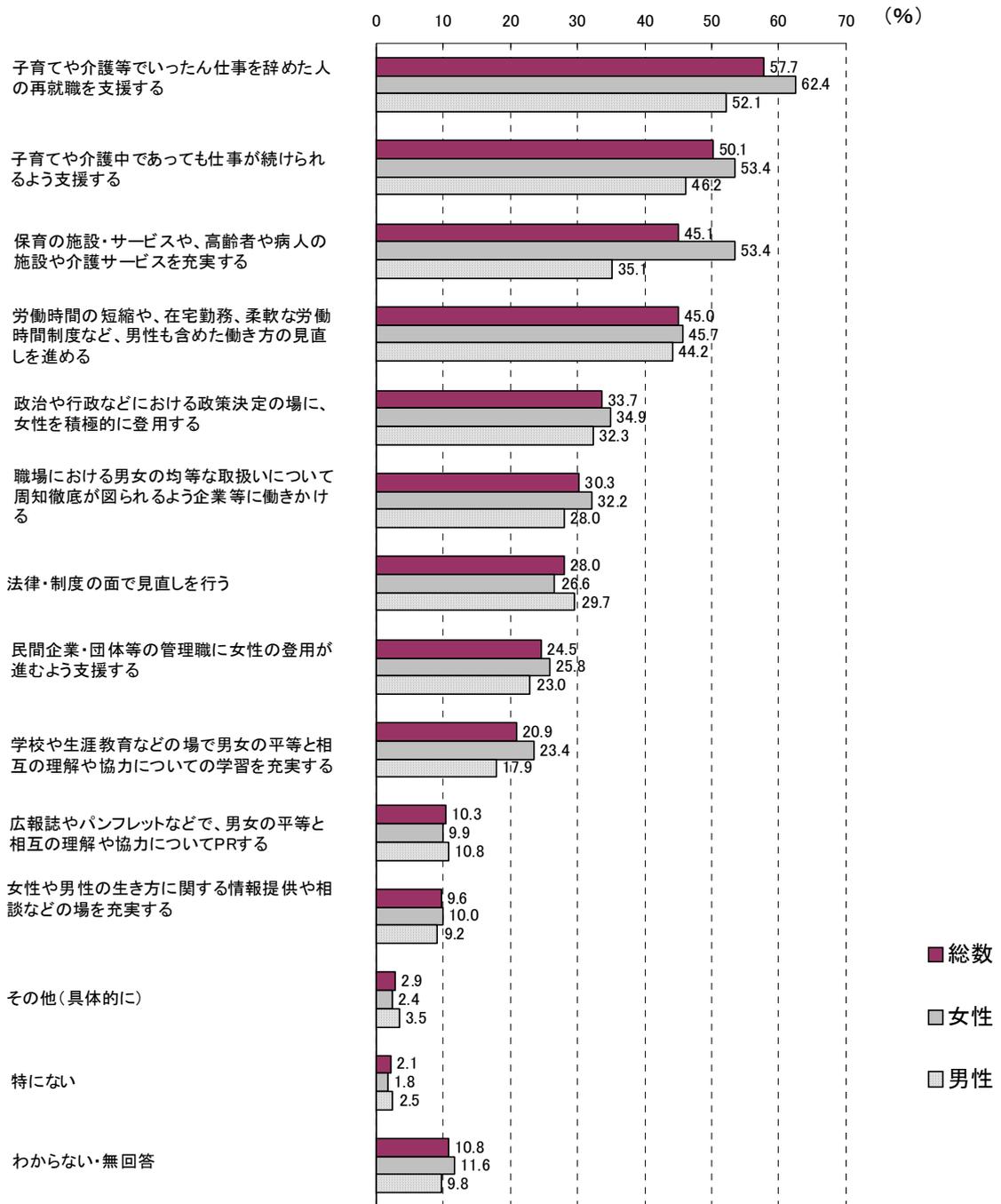
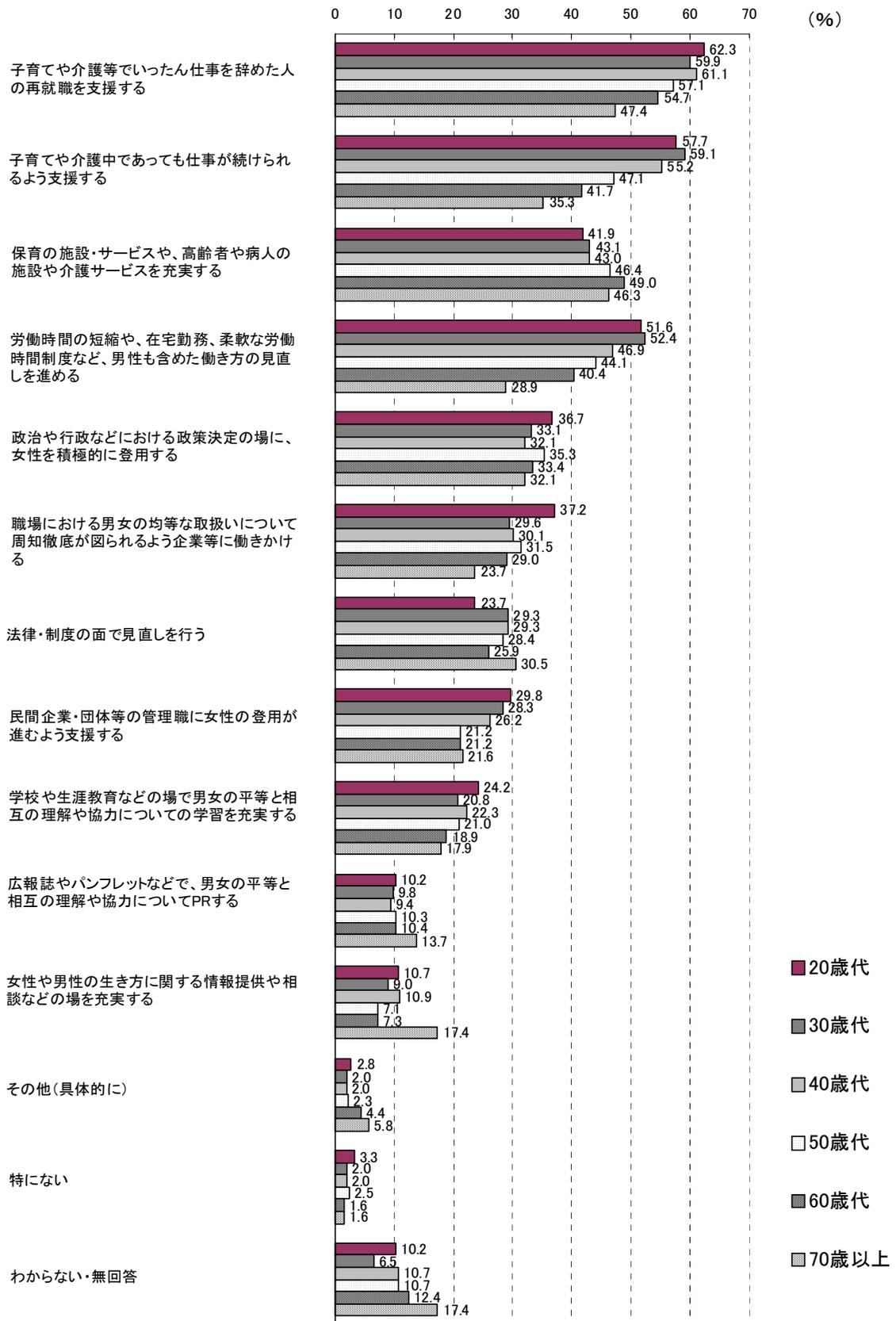


図16-2 男女共同参画社会を推進していくために、行政に期待する役割

【年齢別】



17 「ウィルあいち」の認知度

男女共同参画を推進するための活動拠点施設である「ウィルあいち（愛知県女性総合センター）」（名古屋市東区）について、「知らない」と回答した人の割合は66.6%となっており、「利用したことはないが、知っている」と回答した人の割合は24.8%、「利用したことがある」と回答した人の割合は7.4%となっている。

【性・年齢別】

性別に見ると、「利用したことがある」、「利用したことはないが、知っている」と回答した人の割合は、男性より女性の方が高くなっている。

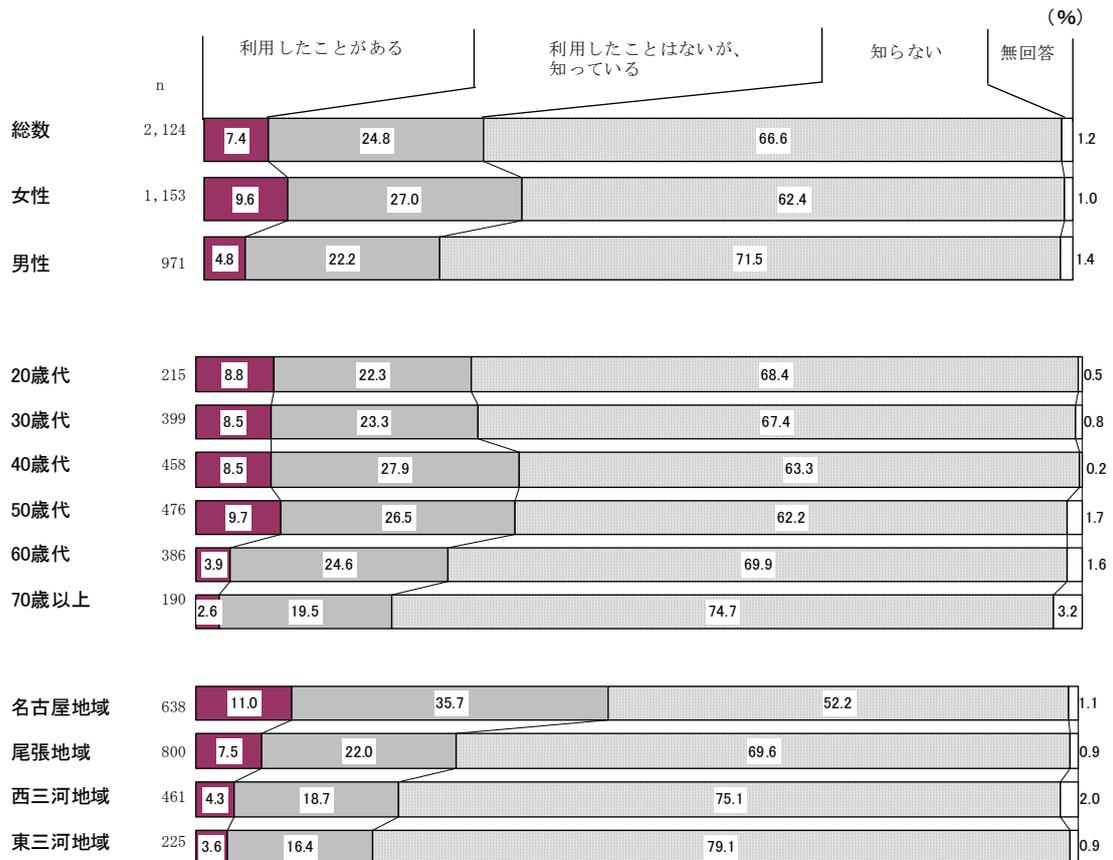
年齢別に見ると、「知らない」と回答した人の割合は、60歳代、70歳以上で高くなっている。

【地域別】

地域別に見ると、「利用したことがある」、「利用したことはないが、知っている」と回答した人の割合は、名古屋地域で高く、東三河地域で低くなっている。

図17 「ウィルあいち」の認知度

【総数、性別、年齢別、地域別】



18 「ウィルあいち」に期待する役割（複数回答）

「女性の抱える問題に関する相談事業の充実」と回答した人の割合が32.4%と最も高く、次いで「男女共同参画について県民に広く啓発するためのイベントの充実」(31.7%)、「女性がさまざまな分野で活躍するための研修や講座の充実」(25.5%)の順となっている。

なお、「その他」(5.8%)の中には、「ウィルあいちをもっとPRするべきだ」、「男性も気軽に利用できるようにしてほしい」という意見が多くあった。

【性・年齢別】

性別に見ると、女性では、「女性の抱える問題に関する相談事業の充実」、「女性がさまざまな分野で活躍するための研修や講座などの充実」と回答した人の割合が高くなっているのに対し、男性では、「男女共同参画について県民に広く啓発するためのイベントの充実」と回答した人の割合が高くなっている。

年齢別に見ると、「女性の抱える問題に関する相談事業の充実」と回答した人の割合は、20歳代、30歳代、40歳代で高くなっている。また、「男女共同参画に関する知識の普及を図るための講座、講演会などの充実」と回答した人の割合は、他の年齢層に比べ50歳代、60歳代で高くなっている。

図18-1 「ウィルあいち」に期待する役割

【総数、性別】

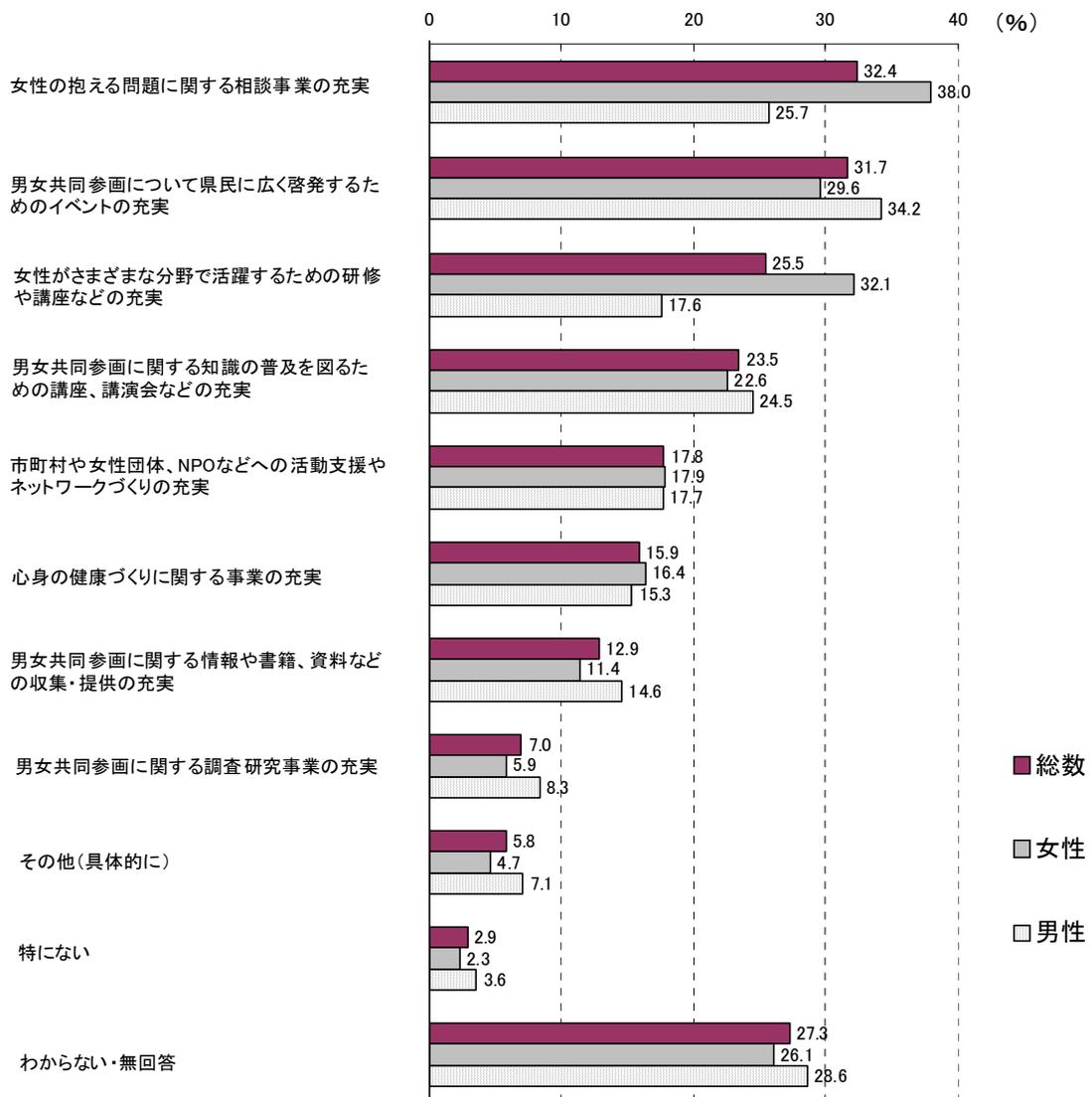


図18-2 「ウィルあいち」に期待する役割

【年齢別】

